

こ いたい や しき い せき  
**小板井屋敷遺跡 5**

—— 福岡県小郡市小板井所在遺跡の調査報告 ——  
小郡市文化財調査報告書 第 278 集

2014  
小郡市教育委員会





## 序 文

小都市では、北部の宅地開発や北東部、中南部における工業団地の開発が相次いで行われ、これに伴う交通網の整備、さらなる宅地開発なども進行しており、今なお発展を続けております。

小板井地区は平成 19 年度に市街化区域に編入され、近年宅地・商業施設の開発がめざましく進展している地域の一つであります。それに伴って発掘調査が集中し、小都市の歴史を探るための様々な資料が発見されています。

ここに報告する「小板井屋敷遺跡 5」は、小都市教育委員会が平成 23・24 年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の成果です。弥生時代から近世にわたる多くの遺構・遺物が確認されました。残念ながら、開発のため遷移は消失することとなりましたが、今回の調査成果が、歴史資料として活用されるとともに、さらなる文化財保護への理解の向上に役立つことを願っております。

最後になりましたが、今回の発掘調査にあたっては地権者の吉田健次氏、三栄ホーム株式会社、調査にご理解とご協力いただいた小板井地区的皆様、現地で発掘調査にあたった皆様、発掘調査を進めていくうえでお世話になった方々に深く感謝を申し上げます。今後とも小都市の文化財保護行政に対するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成 26 年 3 月 31 日

小都市教育委員会  
教育長 清武 輝

## 凡 例

1. 本書は、小都市小板井に所在する「周知の埋蔵文化財包蔵地 小板井屋敷遺跡」において、共同住宅及び宅地開発に伴い、小都市教育委員会が受託契約によって発掘調査を行った小板井屋敷遺跡 5 の調査報告書である。
2. 小板井屋敷遺跡 5 は小都市小板井字屋敷に所在する。
3. 本調査は姫野久恵（A・C 区）、西江幸子（B 区）、坂井貴志（D 区）が担当した。
4. 本書に掲載した遺構の実測は、調査担当者及び調査参加者が行い、製図は姫野・宮崎美穂子が行った。
5. 遺構の個別写真の撮影は調査担当者が行い、全景写真は、有限会社空中写真企画に委託した。遺物の写真撮影は有限会社文化財写真工房に委託した。
6. 本書に掲載している遺物の洗浄・復元は、衛藤千嘉子・佐々木智子・永倉さゆみ・平嶋直美・南條由美の協力を得た。遺物実測・製図は今村杏奈（A・B・D 区）・久住愛子（石器・土製品・金属製品）・白木千里（C 区、B 区の溝・小堀枡）が行った。
7. 本書で使用する遺構に略語として冠した記号は以下を用いている。  
ST：甕棺墓 SF：祭祀土坑 SC：住居跡 SB：掘立柱建物跡 SK：土坑 SV：周溝状遺構 SD：溝 P：ピット
8. 図版中の遺物に付されている番号は、本文中の挿図番号に対応する。
9. 本書で使用した座標は世界測地系に拠っており、遺構図中の方位は座標北を示す。
10. 本書に掲載した遺構実測図・遺物実測図・写真は、小都市埋蔵文化財調査センターにて保管している。
11. 本書の執筆・編集は姫野が行った。



## 本文目次

第1章	はじめに .....	1	第5章	B区の遺構と遺物 .....	15
1	調査に至る経緯		1	張柏墓	
2	調査の経過		2	祭祀土坑	
3	調査体制		3	掘立柱建物跡	
第2章	位置と環境 .....	2	4	土坑	
第3章	調査内容 .....	3	5	溝	
1	調査概要		6	ピット・その他	
2	報告に際して		6	C区の遺構と遺物 .....	33
(1)	住居跡		1	住居	
(2)	祭祀土坑		2	掘立柱建物	
(3)	土坑		3	土坑	
(4)	井戸		4	周溝状遺構	
(5)	溝		5	溝・溝状遺構	
第4章	A区の遺構と遺物 .....	4	6	ピット・その他	
1	住居跡		6	D区の遺構と遺物 .....	57
2	掘立柱建物跡		1	井戸	
3	土坑		2	土坑	
4	溝		3	溝・溝状遺構	
5	ピット・その他		4	ピット・その他	
第7章	調査の成果 .....	66	第8章	まとめ	

## 挿図目次

第1図	周辺遺跡分布図 (1/25,000) .....	2	第27図	B区5・6・8・9号土坑遺構実測図 (1/40) .....	27
第2図	調査位置図 (1/5,000) .....	3	第28図	B区1～1～3号土坑遺構実測図 (1/40) .....	28
第3図	A区1号住居跡遺構実測図 (1/60) .....	6	第29図	B区2～6・9・12号土坑出土遺物実測図 (1/4) .....	29
第4図	A区2号住居跡遺構実測図 (1/60) .....	7	第30図	B区1～5・7号溝遺構実測図 (1/40) .....	31
第5図	A区1・2号住居跡出土遺物実測図 (1/4) .....	7	第31図	B区溝・ピット出土遺物実測図 (1/4) .....	32
第6図	A区3・5号住居跡遺構実測図 (1/60) .....	8	第32図	B区土坑、溝、ピット出土石製品・土製品・金属製品実測図 (1/2) .....	32
第7図	A区6・9・7号住居跡遺構実測図 (6.9は1/60、7.7は1/40) .....	9	第33図	C区2～5号住居跡遺構実測図 (2.4は1/60、3.5は1/40) .....	36
第8図	A区1～1～3号住居跡 (1/40)、1号掘立柱建物跡遺構実測図 (1/60) .....	10	第34図	C区6～8号住居跡遺構実測図 (6は1/80、7.8は1/60) .....	37
第9図	A区1～3号土坑遺構実測図 (1/40) .....	11	第35図	C区9・10号住居跡遺構実測図 (1/60) .....	38
第10図	A区1～3号溝遺構実測図 (1/40) .....	12	第36図	C区1～1・12号住居跡遺構実測図 (1/60) .....	39
第11図	A区5～7・9・12号住居跡、1号掘立柱建物跡、1・2号出土遺物実測図 (1/4) .....	13	第37図	C区1～4～17・20号住居跡遺構実測図 (1/60) .....	40
第12図	A区出土石製品・金属製品実測図 (1/3)[3.他1/2] .....	13	第38図	C区2～6～8・11～20号住居跡出土遺物実測図 (1/4、1/6[9.11]) .....	41
第13図	A区出土石製品・金属製品実測図 (1/2) .....	14	第39図	C区9・12号住居跡出土遺物実測図 (1/4、1/6[13.14]) .....	42
第14図	B区1号張柏墓、1号祭祀土坑遺構実測図 (STOは1/20、SP01は1/30) .....	16	第40図	C区12号住居跡出土遺物実測図 (1/4) .....	43
第15図	B区1号祭祀土坑遺構実測図 (1/6) .....	16	第41図	C区12号住居跡出土遺物実測図 (1/4) .....	44
第16図	B区1号祭祀土坑出土遺物実測図 (1/6) .....	17	第42図	C区住居跡出土石製品・土製品実測図 (1/2) .....	45
第17図	B区1号祭祀土坑出土遺物実測図 (2) (1/4) .....	18	第43図	C区1～4号土坑遺構実測図 (1/40) .....	48
第18図	B区2号祭祀土坑出土遺構実測図 (1/30) .....	19	第44図	C区5・7～10号土坑遺構実測図 (1/40) .....	49
第19図	B区2号祭祀土坑出土遺物実測図 (1) (1/4) .....	20	第45図	C区11～14号土坑遺構実測図 (11は1/40、他は1/60) .....	50
第20図	B区2号祭祀土坑出土遺物実測図 (2) (1/4) .....	21	第46図	C区16・17・19～21号土坑遺構実測図 (1/40) .....	51
第21図	B区1号祭祀土坑出土石製品実測図 (2/3)[2.他1/2] (1/2) .....	21	第47図	C区土坑出土遺物実測図 (1/4、1/2[20.31]) .....	52
第22図	B区3～5号祭祀土坑遺構実測図 (1/30) .....	22	第48図	C区1号周溝状遺構、溝遺構実測図 (1/40) .....	55
第23図	B区3・4号祭祀土坑出土遺物実測図 (1/4) .....	23	第49図	C区1号周溝状遺構、1～3号溝、ピット出土遺物実測図 (1/4) .....	56
第24図	B区5号祭祀土坑出土遺物実測図 (1/6)[1.他1/4] .....	24	第50図	C区ピット出土石製品・土製品実測図 (1/2) .....	56
第25図	B区3・4号祭祀土坑出土石製品実測図 (1/2)[1.他2/3] .....	24			
第26図	B区2～4号土坑遺構実測図 (1/40) .....	26			



第5.1図	D区1~5号井F遺構実測図(1/60)	59
第5.2図	D区1~10号土坑遺構実測図(7.9.10は1/60、 他は1/80)	60
第5.3図	D区1~5号井戸、2号土坑出土遺物実測図 (1/4)	61
第5.4図	D区1・3・4・6~8号土坑出土遺物実測図 (1/4)	62
第5.5図	D区井戸、土坑出土石製品、土製品、金属製品 実測図(1/2、1/4[1.2])	62
第5.6図	D区1~3号溝遺構実測図(1.2は1/60、 3は1/40)	64
第5.7図	D区1~6号溝出土遺物実測図(1/4)	64
第5.8図	D区溝出土石製品、土製品、金属製品実測図 (1/2、1/3[1])	65
第5.9図	D区ピット出土遺物実測図(1/4)	65

### 写真・図版

図版1	①小板井屋敷遺跡5全景(真上から) ②A区全景(真上から) ③B区全景(真上から) ④C区全景(真上から) ⑤D区全景(真上から) ⑥調査区遠景(北から)[1次調査地・ 遺跡南端とのぞむ] ⑦調査区遠景(東から)[遺跡南西端 及び周辺遺跡とのぞむ]	
図版2	①A区SC01 貼床面(東から) ②A区SC01 完掘(東から) ③A区SC02 貼床面(東から) ④A区SC05 完掘(北から) ⑤A区SC07 貼床面(東から) ⑥B区ST01 出土状況(西から) ⑦B区SF01 出土状況(西から) ⑧B区SF02 出土状況(西から) ⑨B区SF05 出土状況(北から) ⑩B区SD01 b区ペルト土層(東から) ⑪B区SD02 西壁土層(東から) ⑫A区SC02 完掘(南西から) ⑬A区SC06 完掘(西から) ⑭B区SF03 遺物出土状況(南から) ⑮B区SF04・SK08 完掘(東から)	
図版3	①C区SC03 完掘(南から) ②C区SC05 貼床面(北から) ③C区SC05 貼床面(北から) ④C区SC06 完掘(南から) ⑤C区SC12 土器出土状況(東から) ⑥C区SC12 完掘(東から) ⑦C区SC17 完掘(南東から) ⑧C区SC20 貼床面(南から) ⑨C区SK04 遺物出土状況(東から) ⑩C区SK11 完掘(北から) ⑪C区SK16 完掘(北から) ⑫C区SK17 完掘(南から) ⑬C区SD01 土層(東から) ⑭D区SE01 完掘(南から) ⑮D区SE02 完掘(南から) ⑯D区SK02 完掘(北東から) ⑰D区SD01 土層(南から) ⑱D区SD02 土層(南から)	
図版4	遺物写真1	
図版5	遺物写真2	
図版6	遺物写真3	
図版7	遺物写真4	
図版8	遺物写真5	

### 表目次

小板井屋敷遺跡5出土遺物観察表	
・A区出土土器観察表	67
・B区出土土器観察表	67
・C区出土土器観察表	69
・D区出土土器観察表	72
・出土石製品観察表	74
・出土石製品観察表	75
・出土石製品観察表	75

付図 小板井屋敷遺跡5全体図(1/200)



## 第1章 はじめに

### 1. 調査に至る経緯

小板井屋敷遺跡5の調査は、平成21年7月29日付けて地権者の吉田健次氏より、小都市教育委員会に対して、小都市小板井字屋敷64-1、65-4、86-2、86-3、86-4において、共同住宅の建設及び市道の新設工事に伴い、予定地内の埋蔵文化財の有無について照会・事前審査願いが届出されたことを端緒とする（審査番号9028）。それを受け、平成21年9月8日に試掘調査を実施し申請地内に遺跡が確認された。この成果をもとに地権者と協議を行った。その結果、建物基礎部分が遺構面まで達する上、建物の構造上、設計変更もできないことから、やむを得ず遺跡が破壊される部分について発掘調査を行い、記録保存を測ることとなった。

### 2. 調査の経過

平成24年1月6日に3ヶ年度（平成23・24年度調査、25年度整理作業及び調査報告書作成）にわたる埋蔵文化財発掘調査の委託契約を締結し、これを受け同年1月12日～5月18日まで現地調査を実施した。調査の主な経過は以下のとおりである。

1/10 座標及びレベル移動 1/12～1/18 B→A→C区の順で表土剥ぎ 1/18 発掘作業員による人力での掘削及び検出作業開始（C区より） 1/26 C区SD02完掘 2/16 C区SD01完掘 2/24 C区SV01完掘 3/1～3/6 両天により作業が中断 3/7 西江調査に合流（B区担当）及び発掘作業員の増員 3/9 A区作業開始、労災事故が発生、危機管理を徹底し安全に努める 3/27 B区作業終了、作業終了に伴い西江離脱 4/6 A、B、C区バルーンによる全体撮影 4/9 坂井合流（D区担当）、D区表土剥ぎ開始、プレハブ・トイレの移動 4/10 B区、D区の表土剥ぎと併せて埋戻しを開始 4/11 D区表土剥ぎ一部を残して終了 4/18 D区の残りの表土剥ぎ開始、C区西より埋戻し開始 4/20 埋戻し終了 5/8 A区全体周測量 5/10 バルーンによるA区、D区の全体写真撮影 5/11 A区調査終了 5/15 D区調査終了 5/16～5/18 埋戻し、小板井屋敷遺跡5の引き渡し、調査のすべてを完了する

### 3. 調査体制

小都市教育委員会	教育長 清武輝 教育部長 吉浦大志博（～平成25年3月31日） 佐藤秀行（平成25年4月1日～）
課長	片岡宏二
係長	柏原孝俊
技師	西江幸子（B区調査・整理担当）
嘱託	坂井貴志（D区調査担当） 姫野久恵（調査、整理、編集担当）

#### 発掘従事者

阿南翔悟、荒巻国利、石井京子、伊東みさ子、今村祐介、小川高征、草場誠子、黒瀬明、小屋屋永利、佐藤照子、城島和正、朱雀聰一郎、田中賢二、田中正登、土井久江、西島勝徳、松永康弘、宮崎隆明、森下弥寿治 以上（敬称略）

## 第2章 位置と環境

小板井屋敷遺跡5は小都市の中央を南北に貫流する宝満川の西岸に位置し、市北部の丘陵地から、なだらかに続く低台地の縁辺部に所在する。また、当遺跡西側には埋没谷を挟んで小板井蓮輪遺跡(②)が存在する。現況面での標高は12.60～12.75 m前後である。遺跡の北から東側には段丘崖が残っており、築地川を望む立地である。（第1・2図）。

小板井屋敷遺跡(①)は、平成9年に1次調査を実施。それ以降計4回の調査が実施されている。1次調査（市報告139集）は本調査地南西に位置し、弥生時代中期後半、後期後半～古墳時代初頭の集落跡が、2次調査（市報告253集）では、飛鳥・奈良時代の集落跡や、鎌倉～室町時代、江戸時代の溝が検出されている。3次調査（市報告264集）は、2次調査の南側に位置し中世近世の大溝

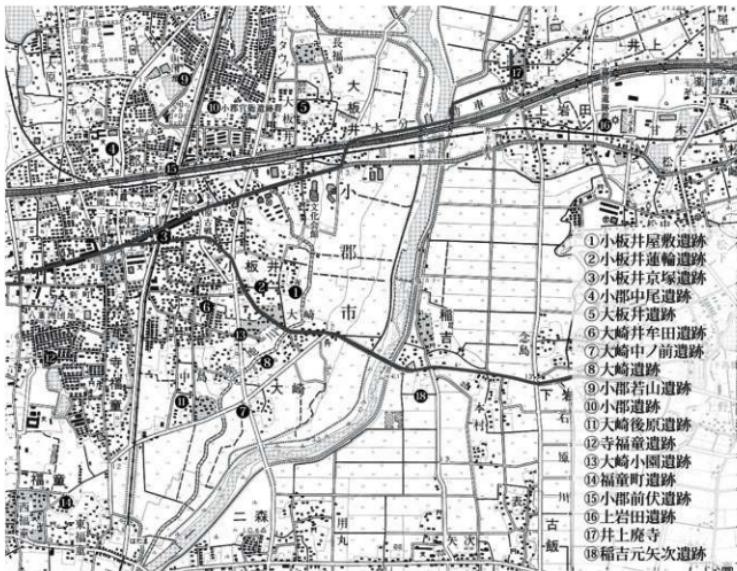
を検出した。4次調査（市報告269集）は遺跡北端に位置し、古墳時代前期、後期の土坑や住居が確認されている。また、5次調査後、平成25年4～8月に6～8次調査が相次いで隣接地において行われており、狹域な調査区ではあるが5次調査と同時に遺構が確認されている。

以下、当遺跡周辺に分布する遺跡を中心に歴史的環境を時期毎に概観していく。

旧石器時代・縄文時代の遺跡は希薄ではあるが、小板井京塚遺跡（③）において剥片尖頭器が確認されている。また、小郡中尾遺跡（④）、大坂井遺跡（⑤）、大崎井牟田遺跡（⑥）などで押型土器が確認され、特に大崎井牟田遺跡においては石組炉に伴う出土として注目される。

弥生時代になると人々の活動が活発化する。特に小郡・大板井地域は中核集落として前期～後期に至るまで展開する。まず前期中葉から、大板井遺跡(⑤)において貯蔵穴が多数認められ住居跡も確認されている。中期前半になると同遺跡の集落の規模が飛躍的に増大し、壇柏墓などの墓域も形成される。そのほかの中期～後期の遺跡として大崎中ノ前遺跡(⑦)、大崎遺跡(⑧)、小郡若山遺跡(⑨)、小郡遺跡(⑩)、大崎後原遺跡1・2(⑪)、小板井屋敷(⑪)、寺福童遺跡(⑫)、大崎小園遺跡(⑬)など多くの集落が確認されている。そのなかでも大崎中ノ前遺跡2（中期前半～後期初頭の集落跡）では、土坑より赤・黒塗り木製品や鍼など木製品が多数出土しており、注目される遺跡であろう。小板井屋敷遺跡1では、中期中頃の土坑が確認されている。寺福童遺跡5では弥生時代から古墳時代まで続く墓域が確認された。

古墳時代初頭から前期の遺跡として、大崎小園遺跡、小板井屋敷遺跡、大崎中ノ前遺道、福童町遺跡（④）などが挙げられる。大崎小園遺跡1・3では庄内式系・布留式系土器といった畿内系の土器を伴った住居跡が検出され、他の地域との交流が想定される。だが、一方では福童町遺跡1のように在地系の土器しか出土しない集落もある。当該期の周辺の墓域として、寺福童遺跡1があり、方形周溝墓が確認されている。中期では、小都市では小規模散在型の集落形態をなし、古墳時代後期になると集落の数が大幅に増加する。宝満川下流西岸の集落は、冲積地を望む丘陵辺縫部の剖析された台地を中心として6世紀以降継続的に営まれ、東岸部と同様に7世紀初頭前後を画期として中位段丘から



第1図 周辺遺跡分布図(1/25,000)



低位段丘上に集落域を拡大、新たな集落を展開している。

古代では、当遺跡より約1km北に御原郡衙に比定される小郡官衙遺跡（⑩）がある。コ字型に配された郡行跡や正倉とみられる倉庫群など機能的に整然と配置し、郡衙の構造を知る上で欠く事のできない重要な遺跡といえる。関連して、小郡前伏遺跡（⑪）では郡庁に至る道路状遺構が、大板井遺跡では4×5間の総柱建物跡が3棟検出されている。上岩田遺跡（⑫）では、大型の掘立柱建物跡が多数とその中心的な建物が基壇遺構上に確認され、その周辺からは山田寺系種先瓦や鬼板瓦が出土することから近接して位置する7世紀末から8世紀初頭に築造された井上廃寺（⑬）に先行する寺院と見られている。

中世では、宝満川の自然堤防上に立地し、方形溝で区画された集落がある稻吉元矢次遺跡（⑭）が知られている。龍泉窯や同安窯の青磁類が多数出土している。また、当遺跡に近接する小板井屋敷遺跡1からも龍泉窯系青磁が井戸から出土し、当遺跡を含めた小板井地区に中世期の集落が広範囲に広がっていることが予想される。

近世では、久留米から山家までの横隈街道（旧筑前街道）や、肥前田代方面から小郡・大板井・井上を経由して英彦山への参道として利用された彦山道など、大道（街道）や横道（小道）が小板井地区周辺においても整備されている。当該地域周辺においても、近代の遺物や遺構が確認されていることから当時の脈わいが想像できよう。

このように当遺跡周辺は文化財の宝庫であり、当地域もその一つと数えられるものである。

### 第3章 調査の内容

#### 1. 調査の概要

遺跡は現地表高12.60～12.75m前後、遺構検出面で12.00～11.90m前後を測る。東に向かい低くなっている。

基本層所は上層が耕作土層（約20cm前後の堆積）、暗灰黃褐色・暗灰茶褐色層で弥生～中近世まで多くの遺物を含む土層、その下で暗茶褐色・黄褐色の地山土、遺構面となる。遺構検出面までの深さは60～90cm前後を測る。

調査区はA区、B区、C区を先に調査し、倉庫撤去後、B区の埋戻しと併せて、D区の表土剥ぎを行った。

検出した遺構については各章で報告する。

#### 2. 報告に際して

##### (1) 住居跡（SC）

検出して住居跡とした遺構は総数29軒を数える。A区とC区で検出した。住居形態は各種あり、時期も弥生・時代中期～後期に及ぶ。以下では、表形式で説明を行うが、留意点は次のとおりである。

- ① 「貼床の有無」は、貼床と考えられる硬化する面である。
- ② 「長軸・短軸」の計測値は個々の最大値で、単位はm。「(数値)」は残存状況での数値である。
- ③ 「深さ」は検出面から貼床面までの深さである。「(数値)」は、検出面から、完掘面の深さである。また深さの左側の数値は、「検出面から貼床面」までの深さで、右側は「貼床面から完掘」までの深さである。単位はm。
- ④ 「主柱穴」は主柱穴と考えられる柱穴の数。
- ⑤ 「火床施設」は住居内の火床施設でカマド及び炉跡等である。
- ⑥ 「長軸方位」は長軸が北から東西方向に何度傾いているかを示している。
- ⑦ 「先」はその遺構に切り合い関係上先行する遺構で、「後」は同じく後にする遺構である。
- ⑧ 「出土遺物」のうち「土器」は、遺構における出土層位、位置を主に記載した。出土層位、位置は、覆土中、床下層、カマド及び炉跡等に分かれている。『その他の遺物』は、石器、金属器、



第2図 調査地位置図 (1/5000)



土製品等の出土点数と出土層位、位置を記載した。特に触れていないものは覆土中の出土である。これら『出土遺物』についての法量等の詳細は出土遺物観察表(p.67～p.75)を参照願いたい。  
⑨ 住居跡の遺構実測は各区ごとに掲載。出土遺物実測図についても同じである。

#### (2) 祭祀土坑 (SF)

検出し、祭祀土坑とした遺構は5基を数える。またB区のみで確認された。上記の遺構同様、表形式で説明を行う。留意点は以下のとおりである。

- ①『長軸』・『短軸』・『深さ』の計測値は個々の最大値で、単位はm。また、『(数値)』は残存状況での数値である。
- ②『長軸方位』は長軸が北から東西方向に何度傾いているかを示している。
- ③『先』はその遺構に切り合い関係上先行する遺構で、『後』は同じく後出する遺構である。
- ④『出土遺物』のうち『土器』は、遺構における出土層位、位置を主に記載した。出土層位、位置は、覆土中(上層・下層)等に分けてある。『その他の遺物』は石製品、金属器、土製品等の出土点数と出土部位を記載した。特に触れないものは覆土中の出土である。これら『出土遺物』についての法量等の詳細は出土遺物観察表(p.67～p.69)を参照願いたい。
- ⑤ 祭祀土坑の遺構実測図は、第5章の2に掲載。出土遺物実測図についても同じである。

#### (3) 土坑 (SK)

検出し、土坑とした遺構は総数41軒を数え、時期も多期にわたる。上記の遺構同様、表形式で説明を行う。留意点①～③は祭祀土坑①～③と同じとする。

- ④『出土遺物』のうち『土器』は、遺構における出土層位、位置を主に記載した。出土層位、位置は、覆土中(上層・下層)等に分けてある。『その他の遺物』は石製品、金属器、土製品等の出土点数と出土層位、位置を記載した。特に触れないものは覆土中の出土である。これら『出土遺物』についての法量等の詳細は出土遺物観察表(p.67～p.75)を参照願いたい。
- ⑤ 土坑の遺構実測図は、各区ごとに掲載。出土遺物実測図についても同じである。

#### (4) 井戸 (SE)

検出し、井戸とした遺構は5基を数え、D区のみで確認された。上記遺構同様、表形式で説明を行う。留意点は以下のとおりである。

- ①『長軸』・『短軸』・『深さ』の計測値は個々の最大値で、単位はm。また、『(数値)』は残存状況での数値である。『長軸』・『短軸』ともに同じ数値の場合は、南北軸=『長軸』、東西軸=『短軸』とした。
- ② 井戸の遺構実測図は、p.59に掲載。出土遺物実測図についてはp.61、p.62に掲載している。
- ③『長軸方位』、『主な遺構との先後関係』、『出土遺物』については、『(1) 住居跡の⑥～⑧』と同じである。

#### (5) 溝 (SD)

検出し、溝とした遺構は総数28条を数える。上記の遺構同様、表形式で説明を行う。留意点は以下のとおりである。

- ①『長軸』・『幅』・『深さ』の計測値は個々の最大値で、単位はm。また、『(数値)』は残存状況での数値である。
- ② 溝の遺構実測図は、A区p.12、B区p.31、C区p.55、D区p.64に掲載。出土遺物実測図についてはp.13～14、p.32、p.56、p.64～65に掲載している。
- ③『主な遺構との先後関係』、『出土遺物』については、『(1) 住居の⑥～⑧』と同じである。

### 第4章 A区の遺構と遺物

A区で検出した遺構は住居跡11軒、掘立柱建物跡1棟、土坑3基、溝3条、その他ピット約30基である。以下、住居跡・土坑・溝は表形式で、掘立柱建物跡、ピット群については文章で報告する。

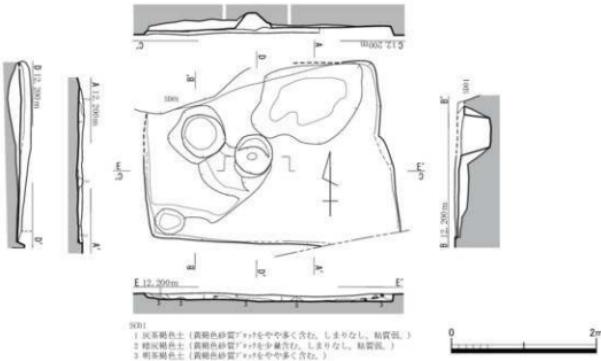


A区 1号住居跡							第3図／図版2			主な遺構との先後関係				
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD01				
	長方形あり	3.46	2.56	0.16	0.04	1?	—	90°	後	SC02				
出土遺物	土器〔第5図／図版4〕 外面下平に「アリ」を施した鉢や円筒を施した鉢などが出土している。 弥生後中期から古墳初頭と比定される。	その他の遺物〔第1図／図版1〕 出土遺物なし							—					
概要	住居北西部〔SD01〕に切られ南東隅部分は調査区外へと広がる。硬化する貼床と考えられる面を検出した。その面において、主柱穴と考えられる柱穴を住居のほぼ中央に1基確認できた。下層遺構は、西側から北東側にかけて掘り込まれた北東側は土坑状に削り込まれている。							—						
	—							—						
A区 2号住居跡							第4図／図版2			主な遺構との先後関係				
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SC01				
	方形あり(3.1)	(2.34)	0.18	0.10	1?	—	N 51° - W	後	SC06					
出土遺物	土器〔第5図／図版4〕 貼床より多くの遺物が出土。外面部目口付を施した縦式系土器の鉢が出土していることは特筆すべき点であろう。弥生後期から古墳初期と比定される。	その他の遺物〔第13図／図版8〕 不明土製品と、鉄鏃が出土。							—					
概要	住居の北側がSC01に切られ南側は調査区外へと広がる。貼床と思われる硬化する面を検出し、そのほぼ直上で土器が多く出土している。主柱穴は貼床面では確認できず、貼床削削後に主柱穴と考えられる柱穴を検出した。							—						
	—							—						
A区 3号住居跡							第6図／図版-			主な遺構との先後関係				
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD02・03、SC12・11				
	長方形?	—	(5.40)	(4.64)	(0.10)	—	—	N 75.5° - W	後	—				
出土遺物	土器〔第1図／図版-〕 弥生土器片が複数出土。いずれも岡示するに至らなかった。時期は弥生中期後葉以降と比定される。	その他の遺物〔第1図／図版-〕 出土遺物なし							—					
概要	周辺遺構に切られ、また、上層を表土剥ぎ時に削除しすぎたため、住居の全容は不明である。							—						
	—							—						
A区 5号住居跡							第6図／図版2			主な遺構との先後関係				
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD01・02、SK02				
	長方形あり	4.80	4.60	0.14	0.10	3	—	N 46° - E	後	SC06・07・08				
出土遺物	土器〔第11図／図版-〕 弥生中末期～後期初期と比定される土器が出土している。	その他の遺物〔第13図／図版-〕 丹塗りを施す。							—					
概要	住居は、SD01・02に分断される形で検出。北側・中央部分では、表土剥ぎ時に削除してしまった、貼床が確認できたのは、住居の南側のみである。							—						
	—							—						
A区 6号住居跡							第7図／図版2			主な遺構との先後関係				
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SC02・05				
	方形あり(3.70)	(2.40)	—	—	—	N 48° - E	後	P006						
出土遺物	土器〔第11図／図版-〕 弥生中末期～後期初期と比定される土器が出土している。	その他の遺物〔第12図／図版8〕 砥石が出土している。砥石はほぼ全面に及ぶ。							—					
概要	住居北側をSC05に切られ、南側が調査区外へと広がる住居である。貼床検出面で柱穴を2基検出したが主柱穴の可能性は低い。また、東側壁面にテラス状の段をもつ。下層遺構は東西住居壁面に沿って横溝状に削り込まれている。							—						
	—							—						
A区 7号住居跡							第7図／図版2			主な遺構との先後関係				
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD01・02、SC05				
	不明あり(1.90)	(0.90)	0.10	0.04	—	かづ?	N 73° - E	後	SC03					
出土遺物	土器〔第11図／図版4〕 出土遺物は以外は微量でいずれも細片である。7は貼床面から出土検出された。	その他の遺物〔第1図／図版-〕 出土遺物なし							—					
概要	住居は大半を他遺構に切られ全容は不明である。検出できたのは住居南側のみである。また、住居壁面に沿うように焼土を確認した。時期は弥生終末期であろう。							—						
	—							—						
A区 8号住居跡							付図／図版-			主な遺構との先後関係				
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD02・SK02、SC05				
	不明—	—	—	(0.06~0.10)	—	—	—	—	後	—				
出土遺物	土器〔第1図／図版-〕 出土遺物は微量。いずれも岡示するに至らなかったが、外間に付する。	その他の遺物〔第1図／図版-〕 出土遺物なし							—					
概要	調査区北東隅で検出。大半が調査区外へと広がる住居である。西側はSC05、南側はSD02に切られ全容は不明。住居としたのは、調査区北側とわずかに貼床と思われる硬化する面を確認できたからである。							—						
	—							—						



A区 9号住居跡			第7図／図版 -						主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD01, SD01
方形か?	あり	(3.10)	(2.26)	0.18	0.18	—	がく?	N-68°-W	後	
出土遺物	土器[第11図／図版4]	9号、外面丹塗りで、口縁部に穿孔が確認できる。時期は弥生中期と定められる。	その他他の遺物[第一図／図版-]							
概要										
北側はSD01に切られ、南側は調査区外へと広がり、全容は不明である。表土剥ぎ時に壁面が露呈している状態で検出。さらに、雨天後の精査時に住居西側の壁面が消失したため、調査区南壁面より住居西側を復元し、火床施設は確認できなかったが、東側において現状を検出した。何らかの火床施設が存在した可能性がある。										
A区 11号住居跡			第8図／図版 -						主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD02, SC12
方形	—	(2.40)	(0.80)	(0.05~0.10)	—	—	—	N-60°-E	後	SC13
出土遺物	土器[第11図／図版-]	その他の遺物[第一図／図版-]								
概要										
住居の北東隅部分のみを検出した。住居の全容は不明である。										
A区 12号住居跡			第8図／図版 -						主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD02
方形か?	—	(2.64)	(0.70)	(0.08~0.10)	—	—	—	N-72°-E	後	SC11, SC13
出土遺物	土器[第11図／図版-]	その他の遺物[第一図／図版-]								
概要										
弥生土器の口縁部片が出土。弥生中期後葉に比定されよう。										
A区 13号住居跡			第8図／図版 -						主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	東西軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD01, SD02, SC07
方形か?	—	(3.60)	(1.00)	(0.06~0.10)	—	—	—	N-75°-W	後	
出土遺物	土器[第11図／図版-]	その他の遺物[第一図／図版-]								
概要										
出土遺物は微量で、細片である。弥生中期後葉以降であろう。上層を表土剥ぎ時に露呈され、大半が他の遺構に切られるため、全容は不明である。住居西側において住居西側に沿うように溝状の掘込みが確認できた。										

SD01



第3図 A区 1号住居跡遺構実測図 (1/60)



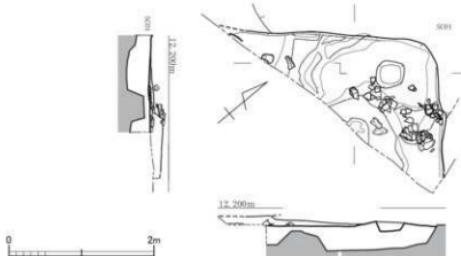
## 2. 挖立柱建物跡（S B）（第8図／図版一）

1号掘立柱建物跡はA区南西で検出した。北側を1号溝に、東側を9号住居跡に切られ南側は調査区外へと広がり、極めて残存状況が悪い。確認できたのは建物の北側で、規模は柱間3間であろう。

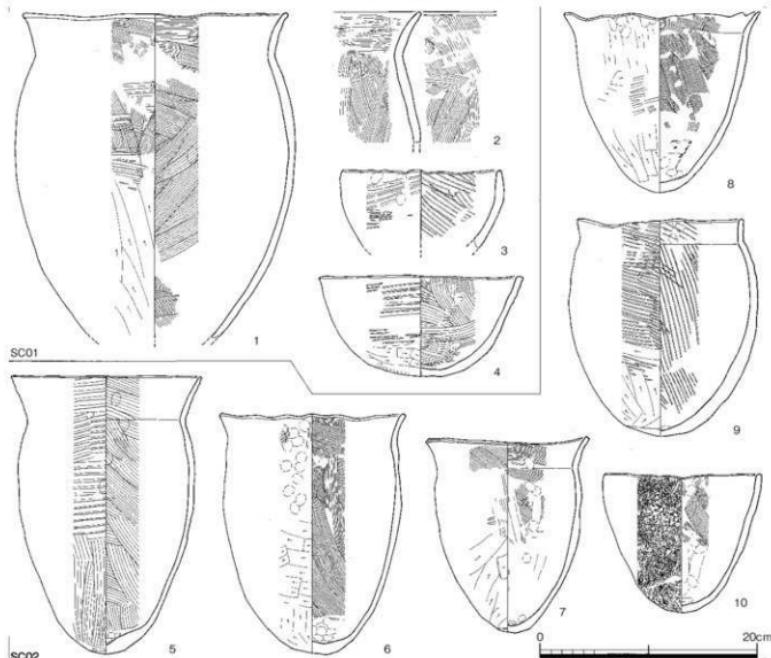
### 出土遺物（第11図／図版一）

出土遺物は弥生土器の小片などあるが、図化するに至ったのはP-1の出土遺物のみである。11は弥生土器鉢片で内外面ハケメ調整を施している。時期は弥生中期以降であろう。

SC02

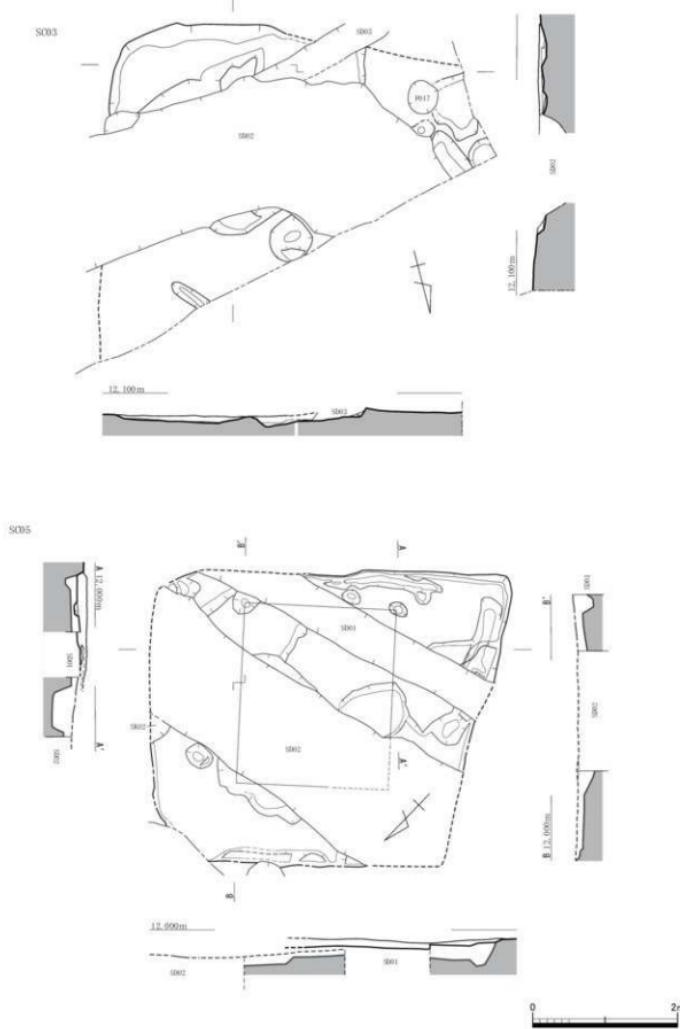


第4図 A区2号 住居跡遺構実測図（1/60）



第5図 A区1・2号住居跡出土遺物実測図（1/4）

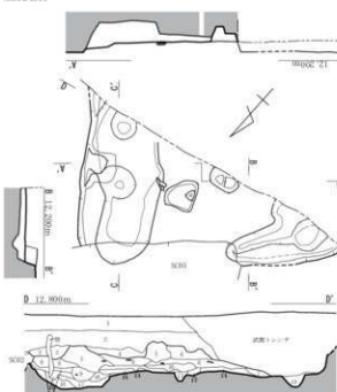




第6図 A区3・5号住居跡遺構実測図（1/60）



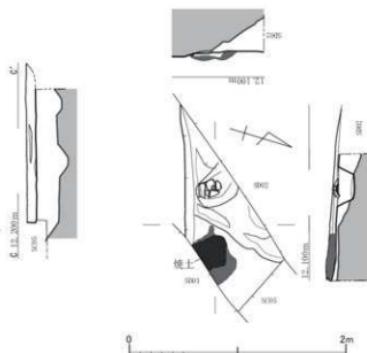
SC06(60)



## 地質

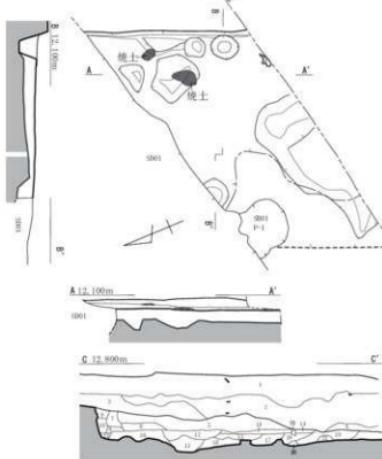
- 1 黄褐色土
- 2 利尻湖相土
- 3 黄褐色土
- 4 黄褐色土
- 5 黄褐色土 (3~5mの黄褐色池山?)を含む多く含む。) さり頭、粘質弱、土器をわずかに含む。)
- 6 利尻湖相土 (黒褐色土や多く含む。) しまり頭、粘質弱、土器をや多く含む。)
- 7 黄褐色土 (2~6mの黄褐色池山?)を含む無機物含む。) しまり頭、粘質弱、)
- 8 黄褐色土 (黄褐色池山をまだらに少含む。) 今ぐくしまる、粘質弱。)
- 9 滅失湖相土 (黄褐色池山をまだらに少含む。) 今ぐくしまる、粘質弱。)
- 10 緊灰湖相土 (しまり頭、粘質弱。)

SC07(40)



- 1 漢明灰黄褐色土 (非常に多く含む。粘質弱。)
- 2 滅失灰黄褐色土 + 黑褐色土 (黄褐色砂質地)を少含む。やや含む。粘質弱。)
- 3 滅失灰黄褐色土 + 黄褐色土 (少く含む。粘質弱。)
- 4 黄褐色土 (少く含む。)
- 5 滅失灰黄褐色土 + 黑褐色土 (黄褐色砂質地)を少含む。) 今ぐくしまる、非常に多く含む。)
- 6 滅失灰黄褐色土 + 黑褐色土 (黄褐色砂質地)を少含む。) 今ぐくしまる、粘質弱。)
- 7 黄褐色土 (少く含む。)
- 8 黄褐色土 (少く含む。)
- 9 黄褐色土 (黄褐色砂質地)を少含む。) 今ぐくしまる、粘質弱。)
- 10 黄褐色土 (黄褐色砂質地)を少含む。) 今ぐくしまる、粘質弱。)

SC09(60)

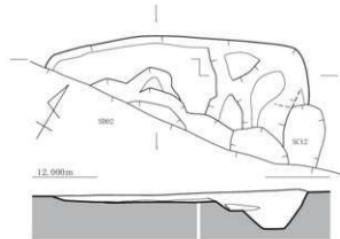


9009

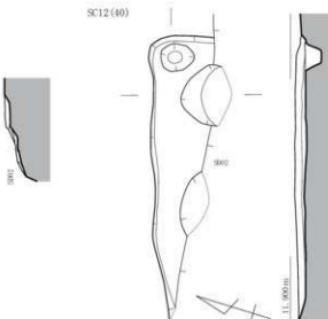
- 1 黄褐色土 (土器等をや多く含む。現代の耕作土。)
- 2 滅失灰黄褐色土 (土器をやや多く含む。) (塵土少量含む。)
- 3 黄褐色土 (少く含む。)
- 4 黄褐色土 (少く含む。) (塵土少り。黄褐色土を含まない。)
- 5 滅失灰黄褐色土 (2~4mの黄褐色?)を少含む。) しまり頭。)
- 6 滅失灰黄褐色土 (塵土を多く含む。) しまり頭。)
- 7 滅失灰黄褐色土 (塵土を多く含む。) しまり頭。) しまり頭。)
- 8 滅失灰黄褐色土 (塵土を多く含む。) しまり頭。) しまり頭。)
- 9 滅失灰黄褐色土 (塵土にいりて?)を少含む。) しまり頭。)
- 10 滅失灰黄褐色土 (塵土にいりて?)を少含む。) しまり頭。)
- 11 黄褐色土 (塵土を多く含む。) しまり頭。)
- 12 黄褐色土 (黄褐色砂質地)をやや多く含む。) (塵土少く含む。)
- 13 滅失灰黄褐色土 + 黄褐色池山の出口に近い。) (塵土少く含む。)
- 14 滅失灰黄褐色土 + 黄褐色土 (塵土少く含む。) (塵土少く含む。)
- 15 滅失灰黄褐色土 (塵土と黄褐色土を少く含む。) (塵土少く含む。)
- 16 黄褐色土 (黄褐色砂質地)を少含む。) (塵土少く含む。)
- 17 黄褐色土 (黄褐色?)を少含む。) 黃褐色砂質地)を少含む。) (塵土少く含む。)
- 18 黄褐色土 (黄褐色砂質地)を少含む。) (塵土少く含む。)
- 19 滅失灰黄褐色土 (黄褐色?)を少含む。) (塵土少く含む。)
- 20 滅失灰黄褐色土 (黄褐色?)を少含む。) (塵土少く含む。)
- 21 滅失灰黄褐色土 (黄褐色?)を少含む。) (塵土少く含む。)

第7図 A区6・9・7号住居跡遺構実測図 (6, 9は1/60, 7は1/40)

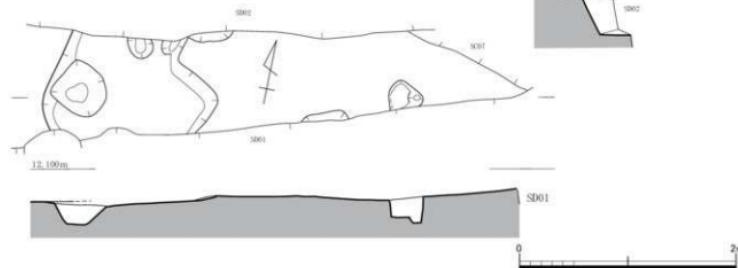
SC11 (40)



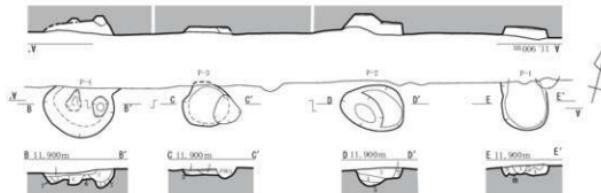
SC12 (40)



SC13 (40)



SB01 (60)



SB01 P-1 (B'-F')

- 1 灰褐色土 (砂質を非常に多く含む。しりとりなし。)
- 2 淡灰褐色土 (黄褐色地の砂質土を含む。)
- 3 淡灰褐色土 (黄褐色地の砂質土を含む。)
- 4 灰褐色土 (砂質を含む。壁上に石片。)
- 5 黄褐色土 (淡灰褐色土の上に重なっている。)
- 6 黄褐色土 (淡灰褐色土の上に重なっている。)
- 7 黄灰褐色土 (黄褐色地の土を非常に多く含む。混れ込みか。)

SB01 P-2 (C'-F')

- 1 灰褐色土 (砂質を非常に多く含む。固くしまる。)
- 2 淡灰褐色土 (黄褐色地の土を含む。)
- 3 淡灰褐色土 (砂質を非常に多く含む。しりとりなし。)
- 4 黄灰褐色土 (砂質。黄褐色砂質地山土を非常に多く含む。)
- 5 淡灰褐色土 (砂質。黄褐色砂質地山土を非常に多く含む。やや固くしまる。)

SB01 P-2 (D'-F')

- 1 灰褐色土 (しまらない。)
- 2 淡灰褐色土 (黄褐色地の土を粒子状にやや多く含む。)
- 3 淡灰褐色土 (黄褐色砂質地山土を多く含む。しりとりなし。)
- 4 黄灰褐色土 (黄褐色砂質地山土を非常に多く含む。)

SB01 P-3 (E'-F')

- 1 灰褐色土 (しまらない。)
- 2 淡灰褐色土 (黄褐色地の土を粒子状にやや多く含む。)
- 3 淡黄褐色土 (黄褐色砂質地山土を多く含む。しりとりなし。)
- 4 黄灰褐色土 (黄褐色砂質地山土を非常に多く含む。)

SB01 P-4 (F')

- 1 灰褐色土 (しまらない。)
- 2 淡灰褐色土 (黄褐色地の土を粒子状にやや多く含む。)
- 3 淡黄褐色土 (黄褐色砂質地山土を多く含む。しりとりなし。)
- 4 黄灰褐色土 (黄褐色砂質地山土を非常に多く含む。)

第8図 A区1~13号住居跡(1/40)、1号掘立柱建物跡遺構実測図(1/60)

## 2、土坑 (SK)

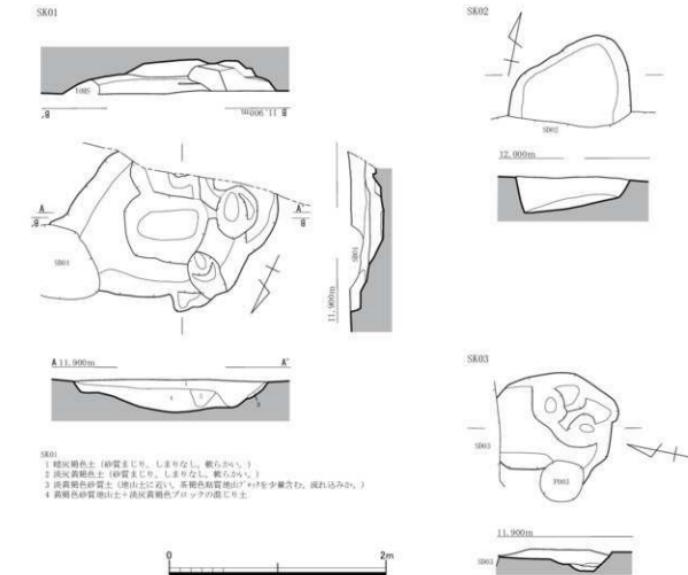
A区 1号土坑 第9図／図版						主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先 後
	やや方形	やや方形	1.94	(1.46)	0.20~0.32	N・64.5°・E	SB01 後
出土遺物	土器〔第 - 図／図版 - 〕						その他の遺物〔第 - 図／図版 - 〕
概要	少量の弥生土器片が出土した。時期は弥生中期後葉以降であろう。						出土遺物なし

A区 2号土坑 第9図／図版						主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先 後
	楕円	楕円	1.13	(0.84)	0.34	N・78.5°・E	SD02, 後 SC05・08
出土遺物	土器〔第 - 図／図版 - 〕						その他の遺物〔第12図／図版4〕
概要	遺物の出土はわずかである。外面を3回調査している鉢片が出土した。弥生後期終末以降であろう。						石が出土している。確認できた底面は3面である。表面に沈着物が見られる。

A区 3号土坑 第9図／図版						主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先 後
	円形	円形	(1.1)	1.00	0.10~0.20	N・11°・W	SD03, P003
出土遺物	土器〔第 - 図／図版 - 〕						その他の遺物〔第 - 図／図版 - 〕
概要	出土遺物はわずかである。いずれも細部で図示するに至らなかった。時期は弥生中期後葉以降であろう。						出土遺物なし



第9図 A区1~3号土坑遺構実測図(1/40)

A区		1号溝	第10回／図版・		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先
出土遺物	(17.63)	0.50~0.90	0.20	逆台形状	N-73.5°-E	後 SC01・05・07・091・13, SD01
概要	土器[第11回／図版・]				その他の遺物[第12回／図版・]	

出土遺物の量は多く、時期も様々である。SD02との先後関係で、砾石と石錐が出土している。石錐は口縁部の破片で口縁に埋設されたものとされる。工具類が残る。砾石は被熱を受けた可能性あり。

調査区南側を東西方向に横断する溝である。溝の中央部付近東西寄りにおいて30cm以上の石がまとまった状態で出土している。何らかの石組遺構の可能性がある。検出標高は11,800m。

A区		2号溝	第10回／図版・		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先
出土遺物	(15.86)	1.60~2.2	0.82	お椀形	N-77°-E	後 SD03・05・07・08・11~13, SD03
概要	土器[第11回／図版・]				その他の遺物[第12・13回／図版8]	

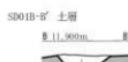
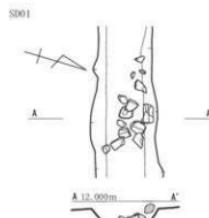
出土遺物の出土量は非常に多く、多期にわたる。時期は(17世紀以降であろう)。

調査区ほぼ中央を東西方向に横断し、西側は北へカーブする。検出標高は11,800m~11,900m。

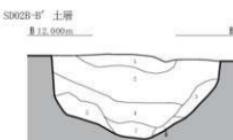
A区		3号溝	第10回／図版・		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先
出土遺物	(2.76)	0.40	0.12	逆台形	N-78.5°-E	後 SD03, SK03
概要	土器[第1回／図版・]				その他の遺物[第1回／図版・]	

出土遺物の出土は確認されなかつた。

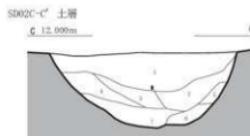
SD02に切られるため、全容は不明である。検出標高は11,900m。



SD01  
1.暗赤色土(暗らぶらん), しまりなし, 粘質弱。

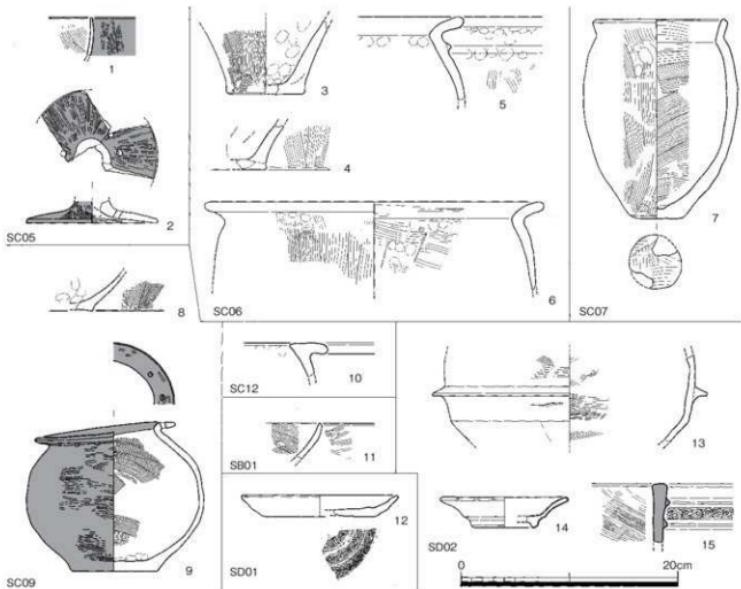


SD02B-B'  
1. 黄褐色土(細砂弱, 砂質を少含む。)  
2. 暗赤色土(砂質を多く含む。しまりなし, 粘質弱, 土器をや多く含む。)  
3. 暗褐色土(砂茶褐色の砂土をやや多く含む。砂粒をや多く含む。しまりなし, 粘質弱。)  
4. 暗褐色土(40cmほど砂層を含む。砂粒をや多く含む。)  
5. 暗褐色土(砂層を多く含む。砂粒をや多く含む。)  
6. 暗褐色土(明赤褐色含む。黄褐色の質土をや多く含む。砂粒を非常に多く含む。しまる。)  
7. 暗褐色土(砂粒を非常に多く含む。)

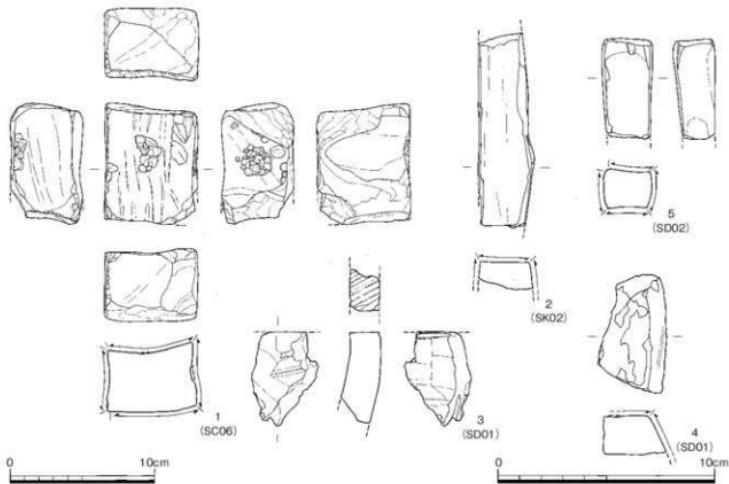


SD02C-C'  
1. 黄褐色土(砂層を含む。)  
2. 暗赤色土(砂粒を少含む。しまりなし, 粘質弱, 細砂らん。)  
3. 暗褐色土(砂粒を非常に多く含む。しまりあり, 粘質弱。)  
4. 暗褐色土(砂粒を非常に多く含む。しまりあり, 粘質弱, 黄褐色砂質を微含む。)  
5. 暗褐色土(砂粒を含む。)  
6. B-B' の砂層を含む  
7. T-B' の砂層を含む

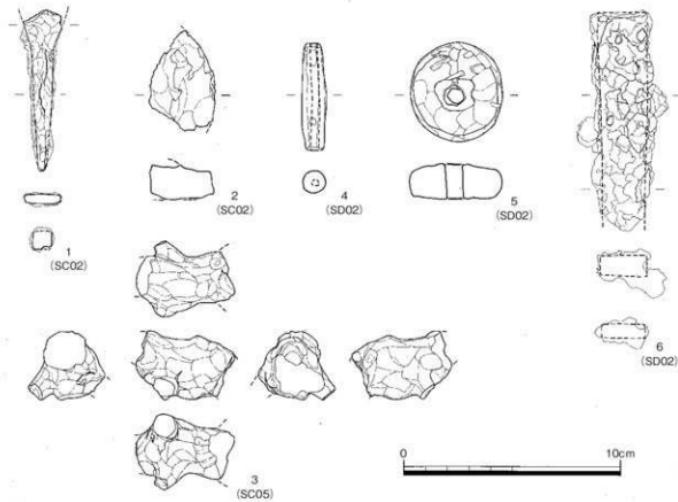
第10図 A区1~3号溝遺構実測図(1/40)



第11図 A区5~7・9・12号住居跡、1号掘立柱建物跡、1・2号溝出土遺物実測図(1/4)



第12図 A区出土石製品実測図(1/2,1/3[1,3])



第13図 A区出土土製品・金属製品実測図(1/2)

5. ピット (P) (付図／—)

検出したピットは、約30基である。そのうちの多くのピットから遺物が出土しているが、いずれも図示にいたらなかった。

## 第5章 B区の遺構と遺物

B区で検出した遺構は小児葬棺1基、祭祀土坑5基、土坑10基、溝6条、その他ビット50基である。以下、表形式で報告する。表についての留意点は第3章2を参照。

### 1. 裝置棺（S T）（第14図／図版2）

1号装置棺は3・4号溝に切られる形で検出した。装置の埋納角度は約30°である。

#### 出土遺物（第15図／4）

上蓋は底部が欠損している。内面に布あて具痕が残る。下蓋はほぼ完形である。時期は弥生時代中期中葉以降と比定される。

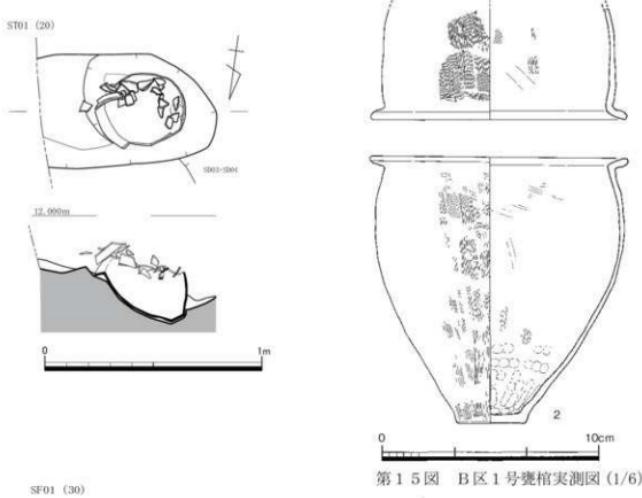
B区 1号祭祀土坑 第14図／図版2						主な遺構との先後関係
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位
	楕円	楕円	2.05	1.13	0.34~0.65	N~23.5°~E 後
出土遺物						その他の遺物[第21図／図版8]
数多くの遺物が出土している。器種も甕・壺をはじめとして、盞、器台、支脚などが出正在している。時期は弥生時代中期中葉以降に比定される。						多くの遺物が出土している。2は安山岩製の石磁である。3は砂岩の砥石である。欠損箇所があるが、ほぼ全面を鏡面として利用している。
概要						調査区南側中央で検出。北側にテラス状の段を持つ二段振りの土坑である。検出面から大量の土器を確認しており、埋土中からも土壺全形から大量の土器が出土した。また、埋土中上位の北東部中央よりから、標高11.7mの地点で黒曜石の原石を検出した。

B区 2号祭祀土坑 第18図／図版2						主な遺構との先後関係
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位
	楕円?	楕円?	3.44	1.30	0.28	N~52.0°~E 後
出土遺物						その他の遺物[第1図／図版-]
数多くの遺物が出土した。器種も甕・壺をはじめとして、盞、器台、支脚などが出正在している。第19図の1.0は墨跡書の頭部で、第20の1は埴輪外面に僅かだがらが残る。時期は弥生中期中葉～後業に比定される。						図示できなかった。
概要						調査区南側中央で検出。北西側と南東側にテラス状の段を持つ祭祀土坑である。祭祀土坑中央の平坦面より、検出面から埋土中にかけて大量的土器が出土した。

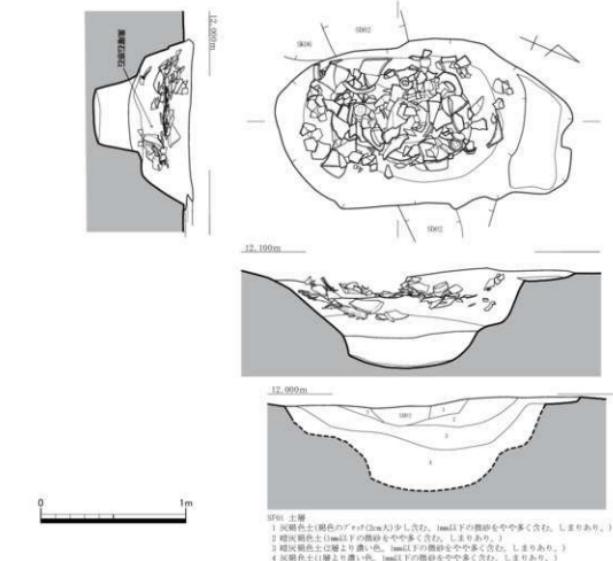
B区 3号祭祀土坑 第22図／図版2						主な遺構との先後関係
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位
	楕円?	楕円?	3.55	1.32	0.26~0.57	N~14.0°~E 後
出土遺物						その他の遺物[第1図／図版-]
数多くの遺物が出土。器種は甕・壺・支脚など多種にわたる。時期は弥生中期前業～中葉に比定される。						図示できなかった。
概要						調査区中央東側で検出。南側にかけてテラス状の段を持つ祭祀土坑である。特に、南側のテラス状の段上から、大量の土器が出土した。また、土器とともに焼土も確認した。

B区 4号祭祀土坑 第22図／図版2						主な遺構との先後関係
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位
	楕円?	楕円?	4.38	0.65	0.09~0.38	N~12.5°~W 後
出土遺物						その他の遺物[第25図／図版-]
やや多くの遺物が出土。器種も多種にわたる。時期は弥生中期前業～中葉に比定される。						黒曜石の剥片が3点出土している。
概要						調査区中央で検出。東側隅と西側隅にピットをもち、これらのピットをテラス状の段でつないでいる土坑である。東側隅のピットからは、残りがほぼ半分の甕が押しつぶされたような形で出土した。

B区 5号祭祀土坑 第22図／図版2						主な遺構との先後関係
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位
	楕円	楕円	1.67	1.32	0.40~0.83	N~9.5°~W 後 SK13
出土遺物						その他の遺物[第1図／図版-]
底部に突起を持つ甕や底部に丸みを持つ要などが出土している。時期は古墳初頭か？						図示できなかった。
概要						調査区西側隅で検出。南側から北側にかけて徐々に傾斜する壁面に二段振りをした土坑である。土器は、南側から北側にかけて徐々に傾斜する壁面に沿って土坑中央よりから出土した。

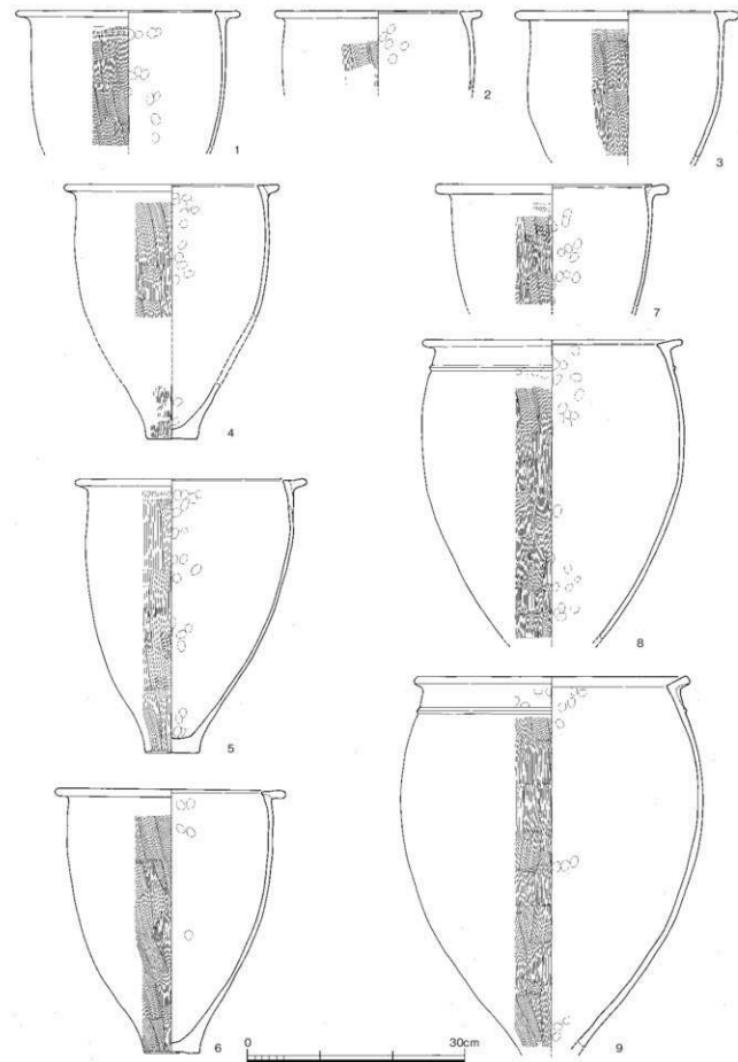


第15図 B区1号甕棺実測図(1/6)

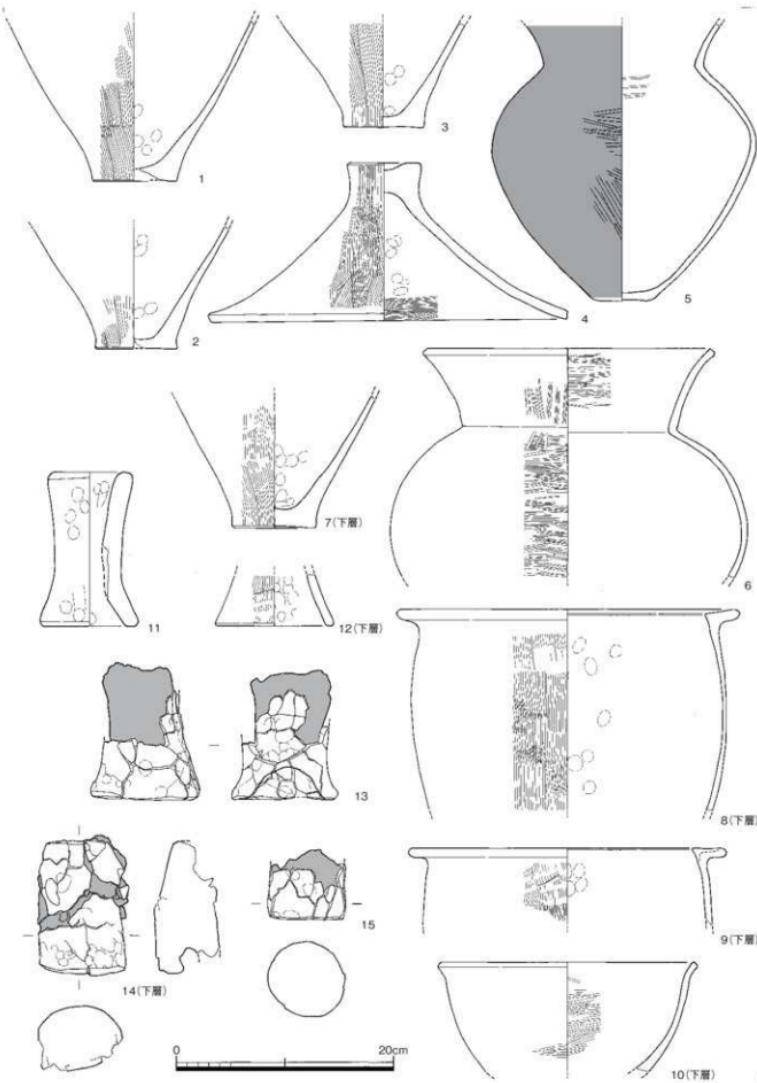


第14図 B区1号纈棺墓、1号祭祀土坑遺構実測図(ST01は1/20、SF01は1/30)

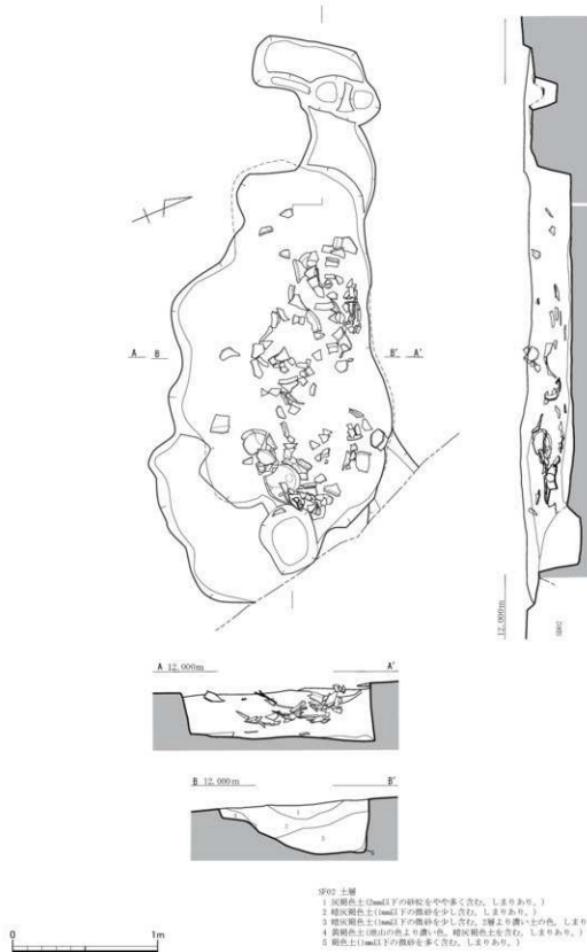
SP01 土層  
1 暗褐色土(褐色のアゲリ2cm大)少し含む。1mm以下の微鉄を多少多く含む。しまりあり。  
2 暗褐色土(1mm以下の微鉄をやや多く含む。しまりあり。)  
3 暗褐色土(土層より薄い色。1mm以下の微鉄をやや多く含む。しまりあり。)  
4 暗褐色土(層より濃い色。1mm以下の微鉄をやや多く含む。しまりあり。)



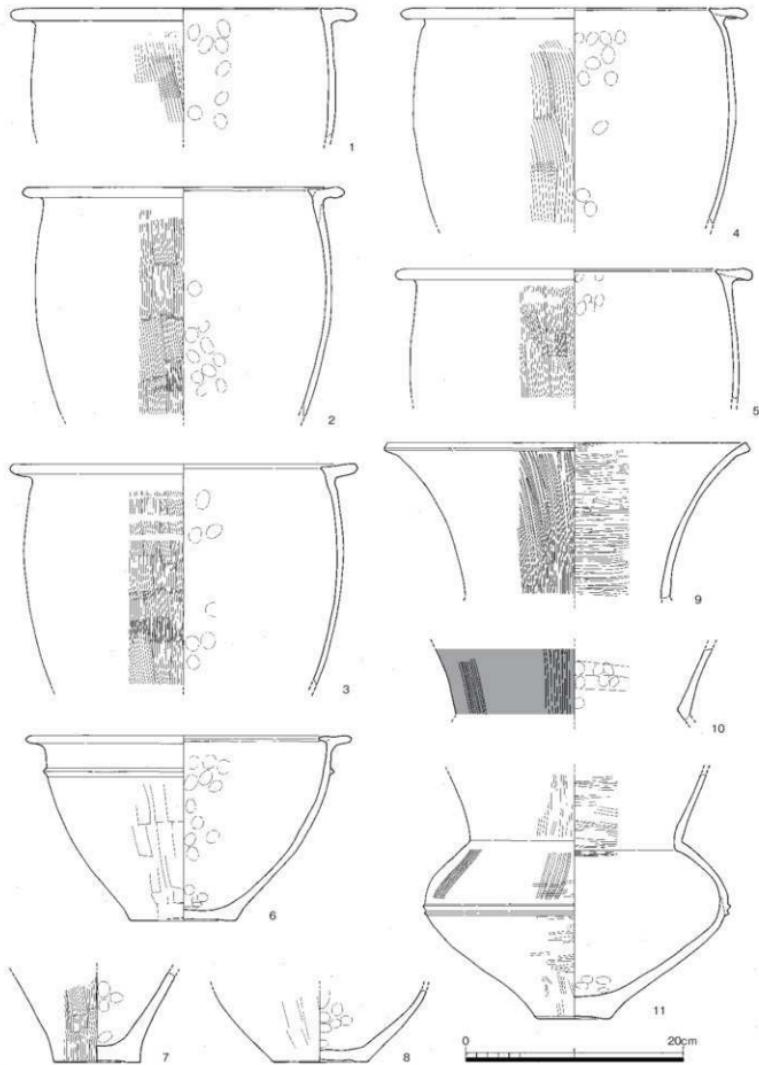
第16図 B区1号祭祀土坑出土遺物実測図①(1/6)



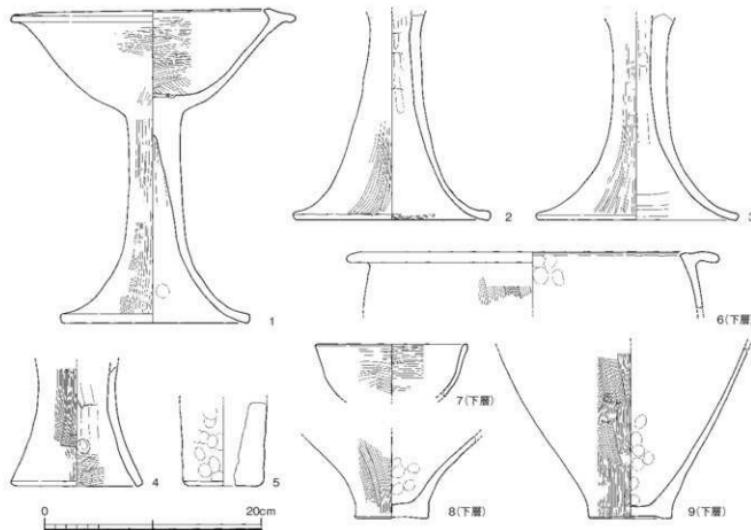
第17図 B区1号祭祀坑出土遺物実測図②(1/4)



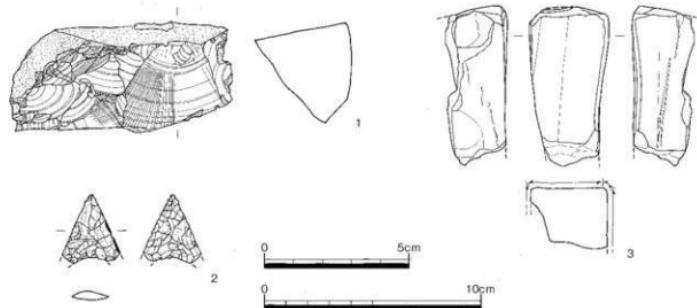
第18図 B区2号祭祀土坑遺構実測図(1/30)



第19図 B区2号祭祀土坑出土遺物実測図① (1/4)



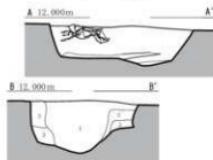
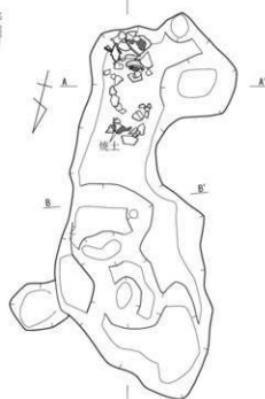
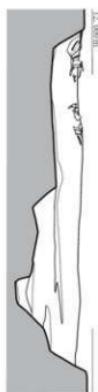
第20図 B区2号祭祀土坑出土遺物実測図②(1/4)



第21図 B区1号祭祀土坑出土石製品実測図(2/3[1,2]、1/2[3])



SF03



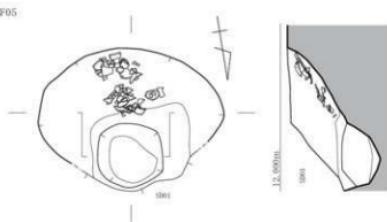
SF03 土層  
 1 黄褐色土(5cm大×5cm大)の黄褐色砂アリを多く含む。3mm以下の砂粒をやや多く含む。  
 しまりあり。)  
 2 白色砂(3cm大)の硅灰岩白色アリを少し含む。しまりあり。)  
 3 白色砂(0.5mm)。

SF04

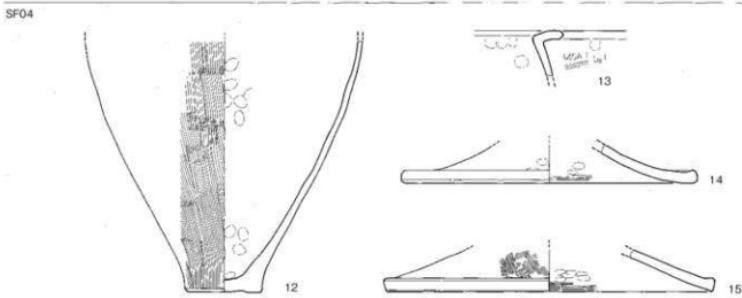
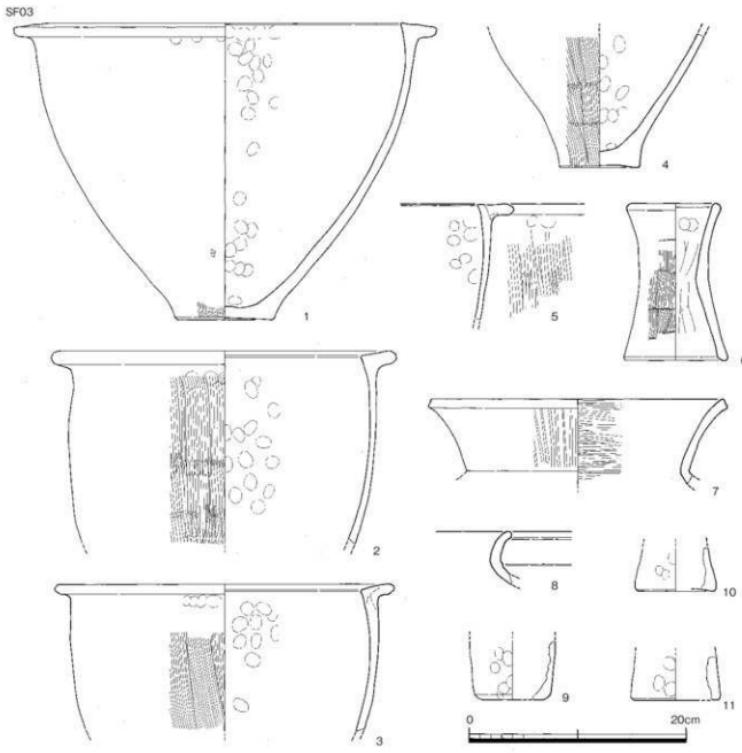


SF04 土層  
 1 硅灰岩白色土(1mm以下)の微粉を多く含む。しまりあり。)  
 2 白色砂(0.5mm)白色アリを少しある。砂質。

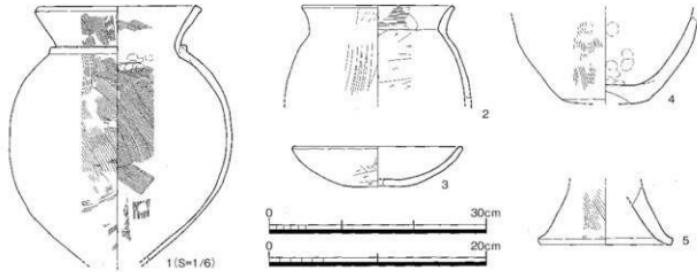
SF05



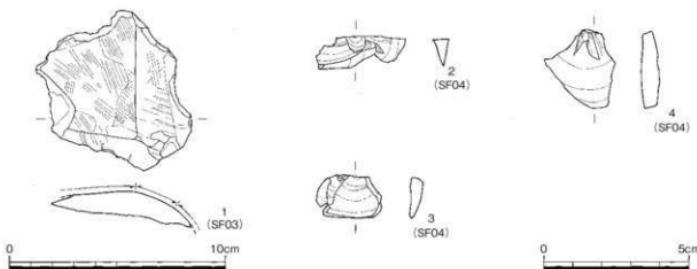
第22図 B区3～5号祭祀土坑遺構実測図(1/30)



第23図 B区3・4号祭祀土坑出土遺物実測図(1/4)



第24図 B区5号祭祀土坑遺物実測図(1/6[1]、他1/4)



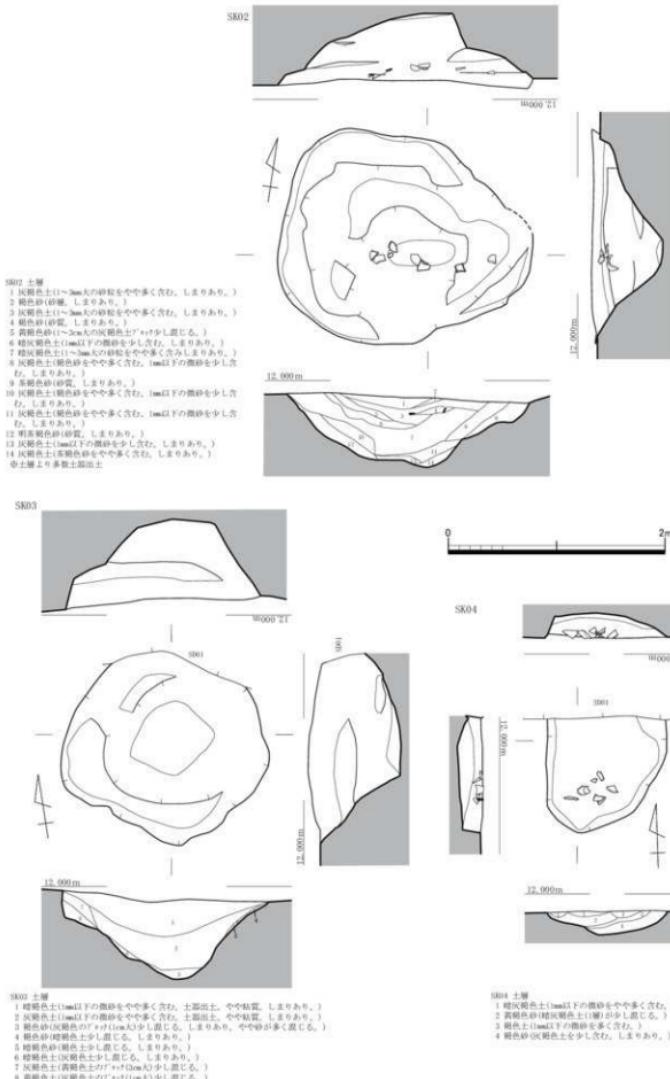
第25図 B区3・4号祭祀土坑出土石製品実測図(1/2[1]、他2/3)

B区 2号土坑						第26図／図版		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	主な遺構との先後関係	
	精円	精円	2.35	1.93	0.32~0.63	N~8.5°~E	後	SF04	
出土 遺物	土器[第29図／図版 - ]		その他他の遺物[第 - 図／図版 - ]		出土遺物なし		SF04		
概要	2・4は瓦器碗で、高台は貼り付けである。時期は11世紀 末~12世紀前半と比定される。		出土遺物なし		SF04		SF04		

B区 3号土坑						第26図／図版		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	主な遺構との先後関係	
	精円	精円	1.92	1.73	0.26~0.73	N~9.5°~W	後	SD01	
出土 遺物	土器[第29図／図版 - ]		その他他の遺物[第 - 図／図版 - ]		出土遺物なし		SD01		
概要	5は土器の底で上層からの出土である。時期は12世紀中 頃までに埋没したと考えられる。		SK01同様、調査区中央で検出。SD01に北側が一部切られる。 西側にテラス状の段を持つ土坑である。		SD01		SD01		

B区 4号土坑						第26図／図版		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	主な遺構との先後関係	
	精円	精円	1.10	(1.05)	0.21	N~2°~W	後	SD01	
出土 遺物	土器[第29図／図版 - ]		その他他の遺物[第 - 図／図版 - ]		出土遺物なし		SD01		
概要	7・8は甕である。時期は弥生時代中期中葉と比定され る。		出土遺物なし		SD01		SD01		
	調査区北東で検出。SD01に北側が一部切られる。西側にテラス状の段を持つ土坑である。		SD01		SD01		SD01		

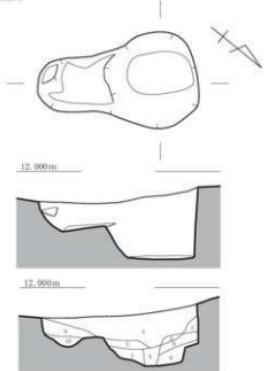
B区 5号土坑		第27回／図版 -					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態 楕円	底面形態 楕円	長軸 1.47	短軸 0.90	深さ 0.26~0.63	長軸方位 N・38.5°・E	先 後	
出土 遺物	土器[第29回／図版 - ] 1.0~1.2は甕である。弥生中期中葉と比定される。					その他の遺物[第一回／図版 - ]		
概要	調査区南西隅で検出。南西側にテラス状の段を持つ土坑である。					出土遺物なし		
B区 6号土坑		第27回／図版 -					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態 楕円?	底面形態 楕円?	長軸 1.00	短軸 (0.41)	深さ 0.15	長軸方位 N・6°・E	先 後	SD02
出土 遺物	土器[第29回／図版 - ] 1.3~1.4は甕である。1.5は丹塗り高环の破片である。時期は弥生中期中葉に比定される。					その他の遺物[第一回／図版 - ]		
概要	調査区南側中央で検出。SD02に北側が切られる。東隣にはSF01がある。					出土遺物なし		
B区 8号土坑		第27回／図版2					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態 方形?	底面形態 方形?	長軸 1.83	短軸 1.54	深さ 0.80~0.20	長軸方位 N・25.0°・E	先 後	SD07
出土 遺物	土器[第一回／図版 - ] 遺物の出土はあったが、図示することができなかった。					その他の遺物[第一回／図版 - ]		
概要	調査区中央で検出。南から北へ向かうテラス状の段を持つ土坑である。					出土遺物なし		
B区 9号土坑		第27回／図版					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態 楕円?	底面形態 楕円?	長軸 0.91	短軸 0.89	深さ 0.32	長軸方位 N・11.5°・E	先 後	
出土 遺物	土器[第29回／図版 - ] 出土遺物はいずれも破片である。時期は弥生中期中葉か?					その他の遺物[第一回／図版 - ]		
概要	調査区北東隅で検出。土坑南側は掘りすぎたため不明。土坑中央に向かって徐々に深くなる。					出土遺物なし		
B区 11号土坑		第28回／図版 -					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態 台形?	底面形態 台形?	長軸 1.88	短軸 1.03	深さ 0.28~0.45	長軸方位 N・18.5°・W	先 後	
出土 遺物	土器[第一回／図版 - ] 遺物の出土はあったが、図示することができなかった。					その他の遺物[第一回／図版 - ]		
概要	調査区南側中央で検出。東側に階段状の段を持つ土坑である。					出土遺物なし		
B区 12号土坑		第28回／図版					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態 楕円	底面形態 楕円	長軸 1.29	短軸 0.85	深さ 0.11~0.57	長軸方位 N・33.5°・E	先 後	SD07
出土 遺物	土器[第29回／図版 - ] 出土遺物はいずれも破片である。時期は弥生中期中葉か?					その他の遺物[第一回／図版 - ]		
概要	調査区西側中央で検出。土坑は二段掘りされている。					出土遺物なし		
B区 13号土坑		第28回／図版					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態 楕円	底面形態 楕円?	長軸 1.27	短軸 (1.20)	深さ 0.18~0.33	長軸方位 N・6.5°・E	先 後	SF05
出土 遺物	土器[第一回／図版 - ] 遺物の出土はあったが、図示することができなかった。					その他の遺物[第一回／図版 - ]		
概要	調査区西側隅で検出。テラスが土坑全体に広がり入り組んだ形をしている。					出土遺物なし		



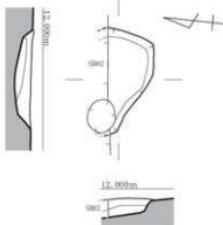
第26図 B区2~4号土坑遺構実測図(1/40)



SK05



SK06

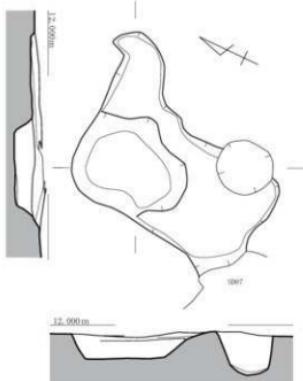


SK05 土層

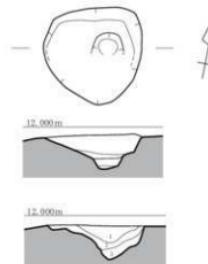
- 1 棕灰褐色土(1mm以下)の砂粒をやや多く含む。しまりあり。)
- 2 黒褐色土(1mm以下の砂粒をやや多く含む。しまりあり。)
- 3 黄褐色土(1mm以下の砂粒をやや多く含む。しまりあり。)
- 4 反覆地山土(1mm以下の砂粒をやや多く含む。しまりあり。)
- 5 黑褐色土(1mm以下の砂粒をやや多く含む。しまりあり。)
- 6 棕褐色土(1mm黒褐色砂土のり)が少し混じる。(1mm以下の砂粒をやや多く含む。しまりあり。)
- 7 黑褐色土(1mm以下の砂粒をやや多く含む。しまりあり。)
- 8 棕褐色土(1mm以下の砂粒をやや多く含む。しまりあり。1mmの棕褐色土とワタガラスを少し含む。)
- 9 反覆地山土(黄褐色砂を少し含む。1mm以下の砂粒をやや多く含む。しまりあり。)
- 10 黑褐色土(黄褐色砂を少し含む。3mm以下の砂粒をやや多く含む。しまりあり。)

0 2m

SK08



SK09

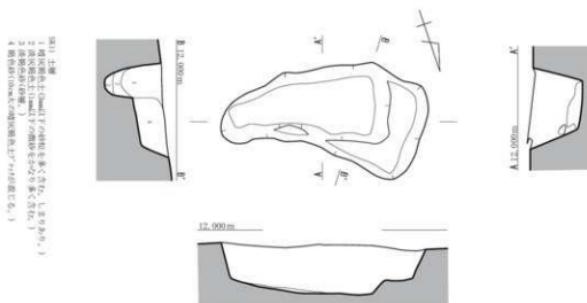


SK09 土層

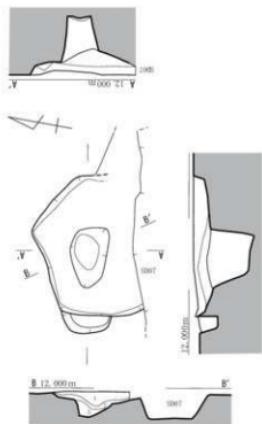
- 1 棕灰褐色土(1mm以下)の砂粒をやや多く含む。やや堅固。しまりあり。)
- 2 反覆地山土(1mm以下)の砂粒を多く含む。やや堅固。しまりあり。)
- 3 反覆地山土(1mmより上の土の色は薄い。純色砂少し混じる。)

第27図 B区5・6・8・9号土坑遺構実測図(1/40)

SK11

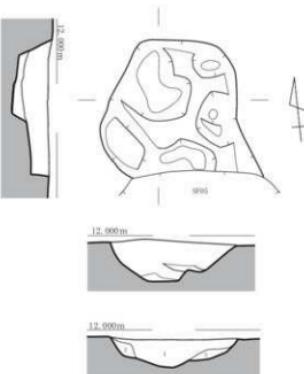


SK12



SK12 土層  
1 棕褐色土 (20cm以下) の砂をやや多く含む。しまりあり。  
2 淡灰色砂 (0~10cm)。  
3 淡灰色砂 (10~30cm)。

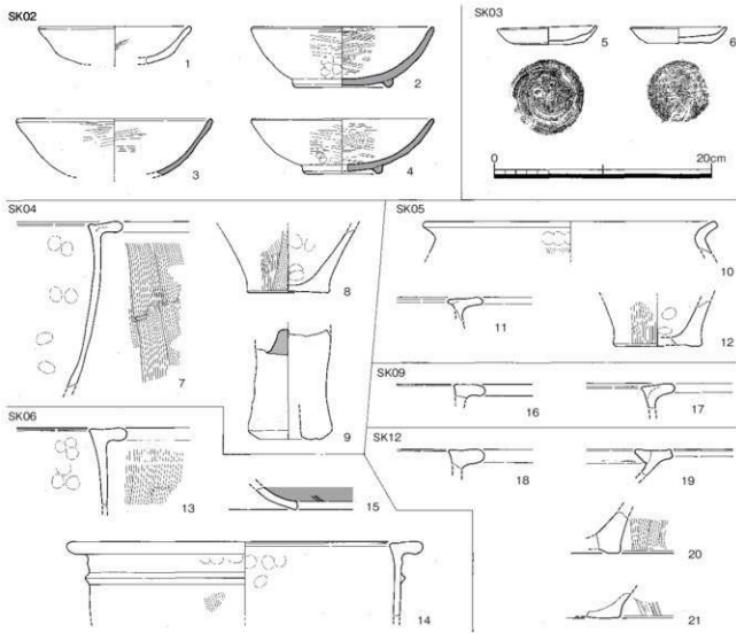
SK13



地層  
1 棕褐色土 (20cm以下) の砂をやや多く含む。細砂を少し含む。しまりあり。  
2 淡灰色砂 (0~10cm)。2cm以上の淡灰色土 (アーチ) を少し含む。しまりあり。



第28図 B区11~13号土坑遺構実測図 (1/40)



第29図 B区2~6・9・12号土坑出土遺物実測図(1/4)

B区 1号溝		第 図／図版 -			主な遺構との先後関係	
構造	長軸 幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	SF05、SK03・04
	(11.95) 2.58	0.88～0.96	逆台形状	N-73.5°・E	後	
出土遺物	土器[第31図／図版 - ]			他の遺物[第32図／図版8]		
	1は上層より出土、3は下層より出土である。時期は17世紀中期と比定される。			不明鉄製品が出土。		
概要	調査区北側を東西方向に横断する溝である。溝の中央部付近より東側にかけては、調査区外に広がっている。					
B区 2号溝		第 図／図版 -			主な遺構との先後関係	
構造	長軸 幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	SF01・02、SK06・11
	(13.10) 0.25～0.54	0.30	逆台形状	N-77°・E	後	SD03
出土遺物	土器[第 - 図／図版 - ]			他の遺物[第 - 図／図版 - ]		
	遺物の出土はあったが、図示することができなかつた。			出土遺物なし		
概要	調査区南側を東西方向に横断した後、東側側面でSD03に沿って北へカーブする溝である。祭祀土坑を切っており、特にSF01付近では堆土中より多量の弥生土器が出土した。おそらくSF01を一部削平して溝を掘ったと考えられる。					
B区 3号溝		第 図／図版 -			主な遺構との先後関係	
構造	長軸 幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	ST01、SD02・04
	(5.99) 0.52～1.11	0.36	お椀形	N-78.5°・E	後	
出土遺物	土器[第31図／図版 - ]			他の遺物[第 - 図／図版 - ]		
	時期は17世紀後半以降と比定される。			出土遺物なし		
概要	調査区南東側隅を西側から東側にカーブした後、SD02の東側を切りながら南北方向に伸びる溝である。ST01も切っているため、ST01は上部を削平された状態で出土した。					
B区 4号溝		第 図／図版 -			主な遺構との先後関係	
構造	長軸 幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	
	(0.67) (0.61)	0.14～0.48	逆台形状	N-73.5°・E	後	SD03
出土遺物	土器[第31図／図版 - ]			他の遺物[第 - 図／図版 - ]		
	時期は17世紀後半以降と比定される。			出土遺物なし		
概要	調査区南東側隅を南北方向に伸びる溝である。溝の大半をSD03に切られているため、全容は不明である。					
B区 5号溝		第 図／図版 -			主な遺構との先後関係	
構造	長軸 幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	
	(1.20) 0.25	0.20	逆台形状	N-77°・E	後	
出土遺物	土器[第 - 図／図版 - ]			他の遺物[第 - 図／図版 - ]		
	遺物の出土はあったが、図示することができなかつた。			出土遺物なし		
概要	調査区南側東よりから東側へのびる溝である。					
B区 7号溝		第 図／図版 -			主な遺構との先後関係	
構造	長軸 幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	
	(3.65) 0.40～0.93	0.35	逆台形状	N-78.5°・E	後	
出土遺物	土器[第31図／図版 - ]			他の遺物[第 - 図／図版 - ]		
	いずれも細片であるが、時期は弥生中期中葉か。			出土遺物なし		
概要	調査区西側壁面より南東方向へのびる溝である。南東側が浅く、西側壁面に向かうにつながり深くなる。					

## 5. ピット・その他

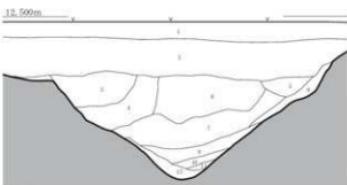
### ・ピット (P) (付図/-)

検出したピットは約30基である。多くのピットから遺物が出土したが図示できたピットはP 004、P 007、P 034、P 055のみである。

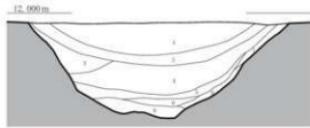
### 出土遺物 (第31・32図/-)

P 004、P 007は弥生土器である。いずれも中期中葉以降に比定される。P 055は石錘である。

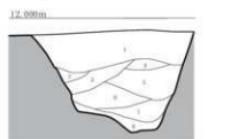
## SD01 西壁土層



## SD01 中央土層

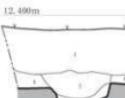


## SD01 東側土層



0 2m

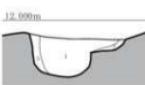
## SD02 西壁土層



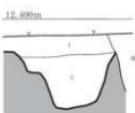
## SD02 ベルト土層



## SD03 ベルト土層



## SD04 南壁土層



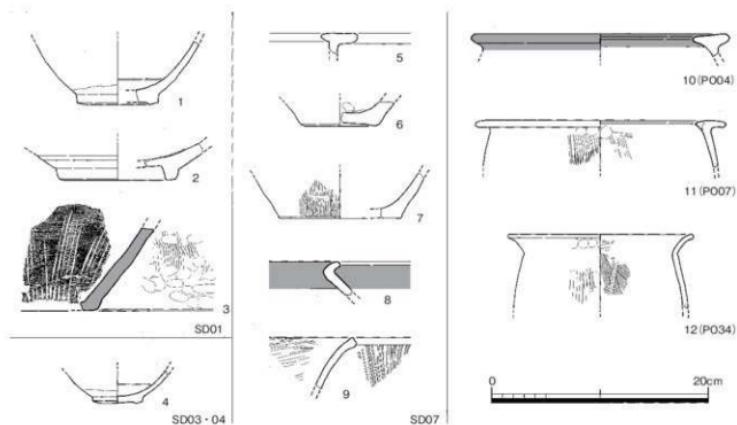
## SD05 南壁土層



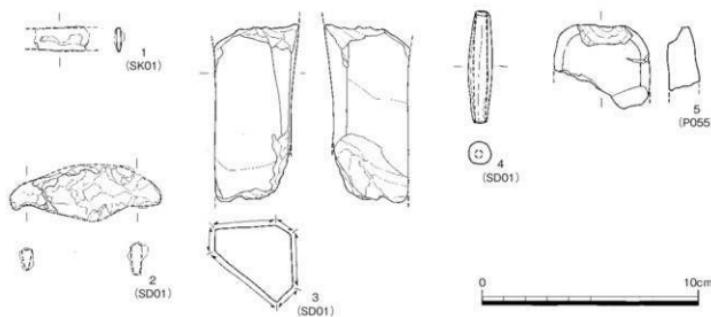
## SD07 土 層



第30図 B区1～5・7号溝遺構実測図(1/40)



第3-1図 B区溝、ピット出土遺物実測図 (1/4)



第3-2図 B区土坑、溝、ピット出土石製品・土製品・金属製品実測図 (1/2)

## 第6章 C区の遺構と遺物

C区で検出した遺構は住居跡17基、土坑21基、周溝状遺構1基、溝13条、その他ピット約140基である。以下、表形式で報告する。表についての留意点は第3章2を参照。

C区 2号住居跡		第3-3図／図版						主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先 後
	方形？あり(2.34)	(2.14)	0.08	0.08	—	—	—	N-75.5°-E	後 SC04
出土遺物	土器[第3-8図／図版-]								その他の遺物[第 - 図／図版 - ]
概要	出土遺物は貼床埋土より発掘され出土している。時期は弥生中期後葉～古墳初頭であろう。								出土遺物なし

C区 3号住居跡		第3-3図／図版2・3						主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先 後
	方形あり(1.68)	(1.50)	0.20	0.12	—	—	—	N-21.5°-E	後 SC04
出土遺物	土器[第3-8図／図版-]								その他の遺物[第 - 図／図版 - ]
概要	3号は直角の底である。西側下半はケル調整、胸部はヨリを行消している。弥生終末期～古墳の初期に比定できよう。								出土遺物なし

C区 4号住居跡		第3-3図／図版 -						主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先 後
	方形あり(4.24)	(3.56)	0.10	0.12	—	—	—	N-35°W	後 SD03, SK02・03・10
出土遺物	土器[第3-8図／図版-]								その他の遺物[第 - 図／図版 - ]
概要	SD02・03同様、弥生中期の遺物が混じるが、弥生終末期～古墳の初期に比定できよう。出土可能な同時期の遺物は9つのみであった。9は直角の底から外側は特徴的調整。								出土遺物なし

C区 5号住居跡		第3-3図／図版 3						主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先 後
	方形あり(1.96)	(1.96)	0.16	0.12	1	—	—	N-24°-E	後 SD03, SK04・03
出土遺物	土器[第3-8図／図版-]								その他の遺物[第 - 図／図版 - ]
概要	出土遺物から弥生中期後葉～末に比定されるが、住居の構造からは、弥生終末～古墳初頭の可能性も否定できない。								出土遺物なし

C区 6号住居跡		第3-4図／図版 -						主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先 後
	方形あり(4.40)	(3.70)	0.12	0.06	4	—	—	N-74°-E	後 SK09
出土遺物	土器[第3-8図／図版-]								その他の遺物[第 - 図／図版 - ]
概要	出土遺物の時期は弥生中期後葉と考えられるが、周辺の遺構より弥生終末～古墳初頭の可能性も否定できない。								出土遺物なし

C区 7号住居跡		第3-4図／図版 -						主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先 後
	方形？—3.74	(0.92)	(0.10)	—	—	—	—	N-79.5°-W	後 SD11
出土遺物	土器[第 - 図／図版 - ]								その他の遺物[第 - 図／図版 - ]
概要	出土遺物は少量で支脚や廻底部などが出土。いずれも図示するに至らなかった。時期は弥生中期中葉以降であろう。								出土遺物なし

C区	8号住居跡	第34回／図版3	主な遺構との先後関係
構造	平面形状 貼床 長軸	短軸 深さ 主柱穴 火床施設 長軸方位	先 SD01・04 後
	長方形 — 3.22	(2.92) (0.20)	
出土遺物	土器 第38回／図版 -	その他の遺物[第 - 回／図版 - ]	
	外面へ後括弧を施す蓋や鉢、糞便後から調整の要などが出土している。 弥生終末～古墳初頭と比定されよう。	出土遺物なし	
概要	表土剥ぎ、及び雨天後の精査段階で上層を掘り過ぎ、南側がSD01によって切られるため、全容は不明である。		
C区	9号住居跡	第35回／図版	主な遺構との先後関係
構造	平面形状 貼床 長軸	短軸 深さ 主柱穴 火床施設 長軸方位	先 SD01・02・03 後 SC20, SD13
	方形 あり 5.32	5.22 0.14 0.06	3
出土遺物	土器 第39回／図版5 -	その他の遺物[第 - 回／図版 - ]	
	多くの遺物が出土。底部が丸みを帯びる平底甕や持ち手を持つ支脚などが出正在している。弥生終末～古墳初頭と比定される。	出土遺物なし	
概要	東側を表土剥ぎ時に下げすぎており上層は不明な点が多い。西側で、土坑状遺構に多くの遺物が出土している。また、北側では貼床で多くの遺物を確認した。下層掘り込みは東側において顕著である。		
C区	10号住居跡	第35回／図版	主な遺構との先後関係
構造	平面形状 貼床 長軸	短軸 深さ 主柱穴 火床施設 長軸方位	先 SD03, SC02, SK07 後 SC04
	方形 あり (4.26)	(3.20) 0.10 0.10	2
出土遺物	土器 第 - 回／図版 -	その他の遺物[第 - 回／図版 - ]	
	出土遺物は少量の弥生中期後葉の土器断片が出土しているが、支脚などが出正在している。時期は弥生中期後葉。	1は石製の投擲が出土している。	
概要	先住民より住居はこの時期ではないと考える。 表土剥ぎ時に西側を下げすぎ、貼床が露呈してしまった。また、多くの遺構に切られるため、全容は不明である。		
C区	11号住居跡	第36回／図版	主な遺構との先後関係
構造	平面形状 貼床 長軸	短軸 深さ 主柱穴 火床施設 長軸方位	先 SK07, SC13, P022など 後
	方形 あり (4.60)	(2.96) 0.12 0.12	—
出土遺物	土器 第 - 回／図版 -	その他の遺物[第 - 回／図版 - ]	
	出土遺物は貼床下層からの出土である。時期は弥生中期後葉。	3は石剣である。住居は上層より出土で未成品である。住居の時期はこれ以降であろう。	
概要	10号住居同様、表土剥ぎ時に西側を下げすぎ、貼床が露呈してしまった。また、他遺構に切られるため、全容は不明である。		
C区	12号住居跡	第36回／図版3	主な遺構との先後関係
構造	平面形状 貼床 長軸	短軸 深さ 主柱穴 火床施設 長軸方位	先 SD01・04, P029他 後
	方形 ? あり 4.60	(3.60) 0.10 0.22	—
出土遺物	土器 第39～41回／図5～7版	その他の遺物[第 - 回／図版 - ]	
	非常に多くの遺物が出土している。甕や蓋、鉢、縁台、支脚などエラーライシヨンに富んでいる。時期は弥生終末～古墳初頭であろう。	出土遺物なし	
概要	表土剥ぎ時に住居東側を下げすぎ、貼床が露呈してしまった。住居廃棄時に土器も一緒に廃棄したと考える。住居西側では、堆山をそのまま利用したと考えられるベッド状遺構を確認した。下層掘り込みは、西より南側方向に向けて、溝状の掘り込みを確認している。		
C区	13号住居跡	第36回／図版	主な遺構との先後関係
構造	平面形状 貼床 長軸	短軸 深さ 主柱穴 火床施設 長軸方位	先 SK06 後 SC11
	方形 — (2.40)	(1.20) (0.04)	—
出土遺物	土器 第 - 回／図版 -	その他の遺物[第 - 回／図版 - ]	
	遺物は出土しなかった。	出土遺物なし	
概要	上層を表土剥ぎ時に掘りすぎ、住居西側は調査区外へと広がるため、全容不明である。		
C区	14号住居跡	第37回／図版	主な遺構との先後関係
構造	平面形状 貼床 長軸	短軸 深さ 主柱穴 火床施設 長軸方位	先 SD06 後
	方形 ? — (2.74)	(1.18) (0.44)	—
出土遺物	土器 第 - 回／図版 -	その他の遺物[第 - 回／図版 - ]	
	少量の遺物が出土している。弥生後期中葉の遺物が混じるが終末～古墳初頭であろう。	出土遺物なし	
概要	東側をSD06に切られ、南側は調査区外へと広がるため詳細不明である。		



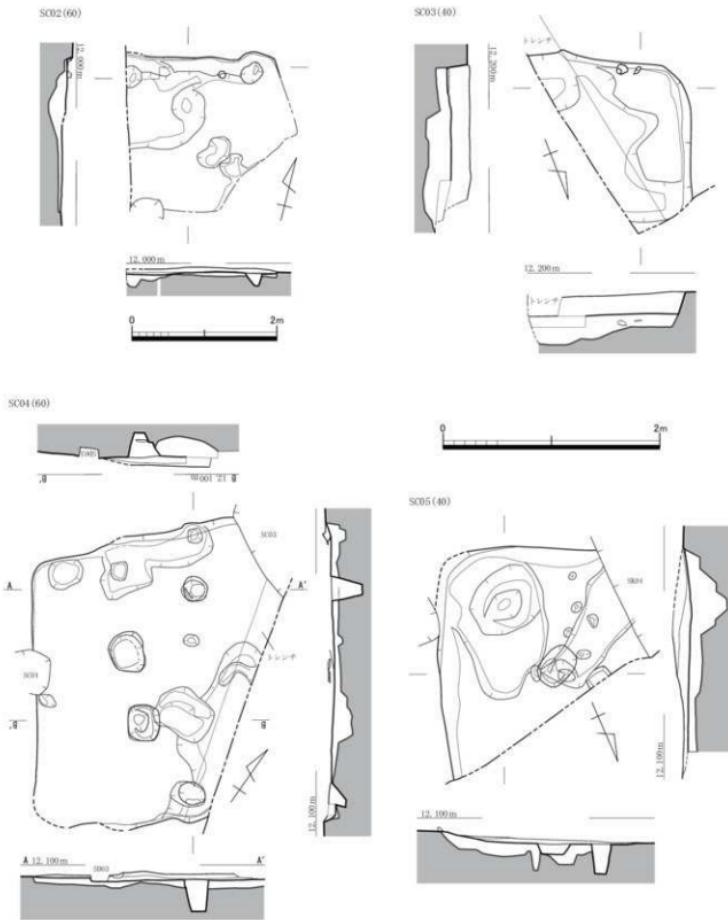
C区 15号住居跡 第37図／図版							主な遺構との先後関係		
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先
方形?	—	(2.66)	(2.26)	(0.10)	—	—	—	N-5°-E	SC14、その他柱穴 後
出土遺物	土器第 - 図／図版 - ]	その他の遺物[第 - 図／図版 - ]							
概要	出土遺物は図示するに至らなかったが、いずれも弥生終末～古墳初期に比定される。							出土遺物なし	
東側をSC15に切られ、南側は調査区外へと広がる。全容は不明である。									

C区 16号住居跡 第37図／図版							主な遺構との先後関係		
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先
方形?	—	3.84	(0.78)	(0.04)	—	—	—	N-82°-E	SD02 後
出土遺物	土器第 - 図／図版 - ]	その他の遺物[第 - 図／図版 - ]							
概要	遺物の出土は少量で、弥生中期後葉以降であろう。							出土遺物なし	
北側をSD02にきられ、南側は調査区外へと広がるため、全容は不明である。									

C区 17号住居跡 第37図／図版 3							主な遺構との先後関係		
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先
方形	—	(1.44)	(1.30)	(0.14)	—	—	—	N-25.5°-E	SD01 後
出土遺物	土器第 - 図／図版 - ]	その他の遺物[第 - 図／図版 - ]							
概要	弥生土器細片が微量に出土している。							出土遺物なし	
検出できたのは住居3-1部分である。SD01に切られ、全容は不明である。									

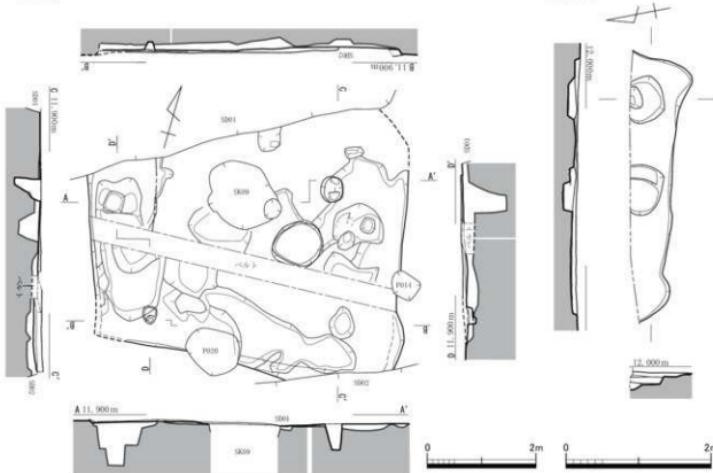
C区 20号住居跡 第37図／図版 3							主な遺構との先後関係		
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先
方形	あり	4.42	(3.12)	—	—	—	—	N-23°-E	SD01・02, SC09 後
出土遺物	土器第3-8図／図版 - ]	その他の遺物[第4-2図／図版 - ]							
概要	外縁に3付調整された支脚、甕などが出土している。じきは弥生時代末～古墳初頭に比定される。							石は砾石である。	
南北をSD02に、東側をSC09に切られる。住居北西で東側をSC09に切られるが、ペット状遺構を検出。南北1m、東西2.2m(残存状況)である。西端で焼土・炭を検出した。が跡かと考えられる。下層掘り込みは住居全体に及び。土坑状の掘り込みを検出した。									

C区 21号住居跡 第37図／図版							主な遺構との先後関係		
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先
方形?	なし	(1.5)	(0.74)	(0.3)	—	—	—	N-77.5°-E	SD01 後
出土遺物	土器第 - 図／図版 - ]	その他の遺物[第 - 図／図版 - ]							
概要	少數の弥生土器片が出土した。時期は弥生中期～後期の土器片である。いずれも図示することができなかった。							出土遺物なし	
住居3-1部分を検出した。南側が調査区外へと広がるため詳細は不明で、8号土坑としたが、隣接する小板瓦敷遺跡6(H25年度調査)の調査結果より、住居であったことが判明した。									

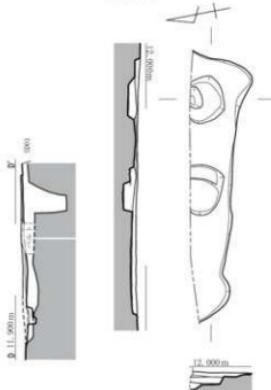


第33図 C区2～5号住居跡遺構実測図（2.4は1/60、3.5は1/40）

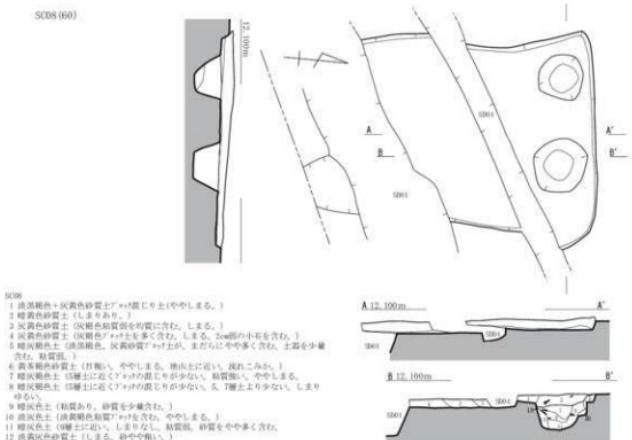
SC06 (80)



SC07 (60)

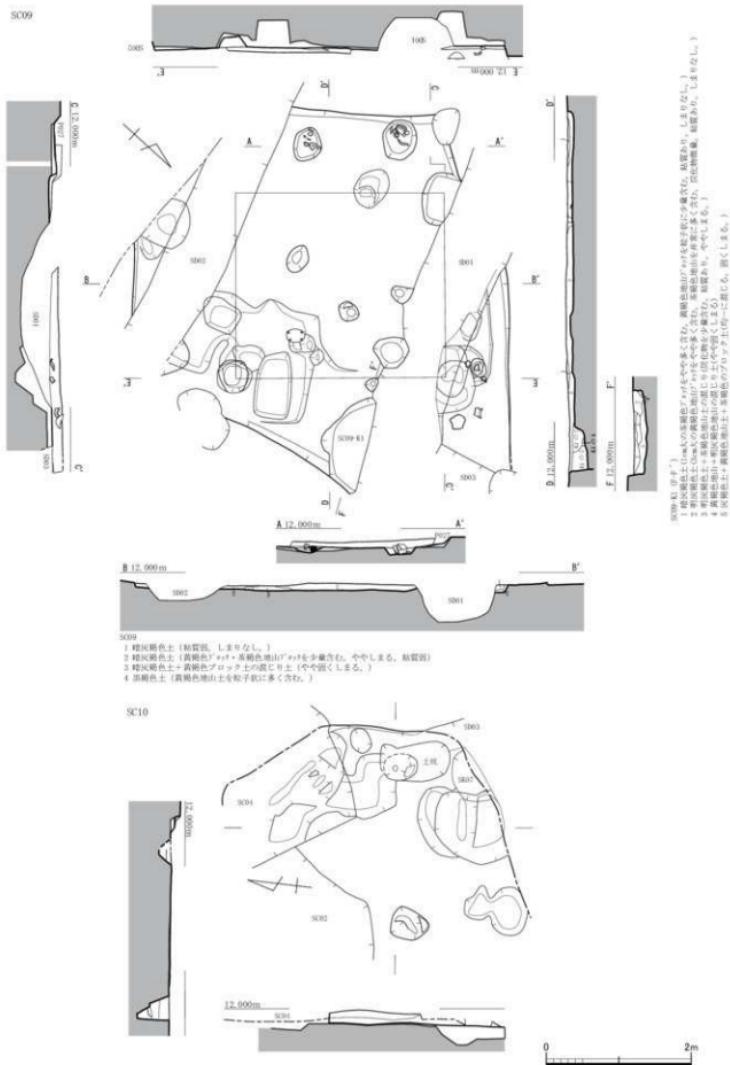


SC08 (60)



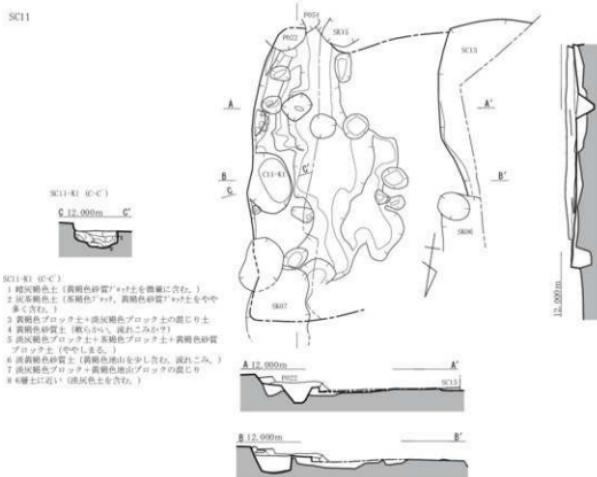
- 1 淡灰褐色 + 深褐色砂質土 (x) (鐵に土)ややしまる。)
- 2 淡灰褐色の質土 (灰褐色粘質砂質土)の多く含む。しまる。)
- 3 深褐色の質土 (灰褐色) x (x)を多く含む。しまる。3cm弱の小石を含む。)
- 4 淡灰褐色の質土 (淡褐色) x (x)を多く含む。しまる。まだにやや多く含む。土器を少數。
- 5 淡灰褐色の砂質土 (淡褐色)、灰褐色の質土 (x)が、まだにやや多く含む。土器を少數。
- 6 淡灰褐色の砂質土 (x) (x)。ややしまる。地表土を近い。成れこみか。)
- 7 淡灰褐色土 (暗土に着く) (x)の混じり少ない。粘質強。ややしまる。
- 8 淡灰褐色土 (暗土に着く) (x)の混じり少ない。8. T層土少數。しまり。
- 9 淡灰褐色土 (粘質強。砂質を多く含む。)
- 10 淡灰褐色土 (淡褐色粘質7 (x)を含む。ややしまる。)
- 11 淡灰褐色土 (暗土に着く) (x)の混じり多い。粘質強。砂質をやや多く含む。)
- 12 淡灰褐色砂質土 (しまる。砂や砂利入り。)
- 13 淡灰黄色砂質土 (しまる。やや粘質強じ。)

第34図 C区6~8号住居跡遺構実測図 (6は1/80、7.8は1/60)



第35図 C区9・10号住居跡遺構実測図(1/60)

sc11

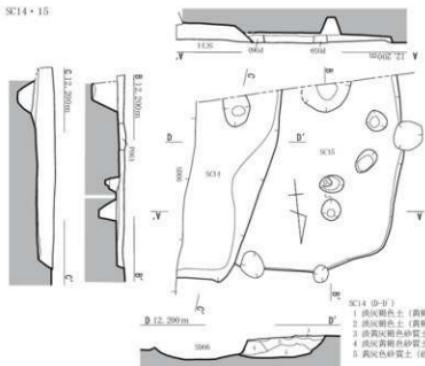


SC12

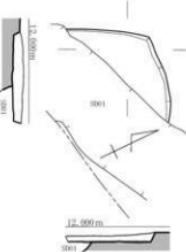


第36図 C区11・12号住居跡遺構実測図(1/60)

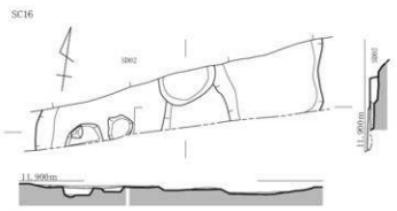
SC14・15



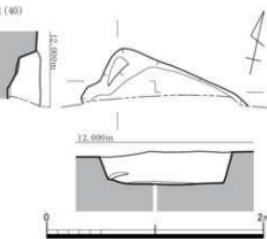
SC17



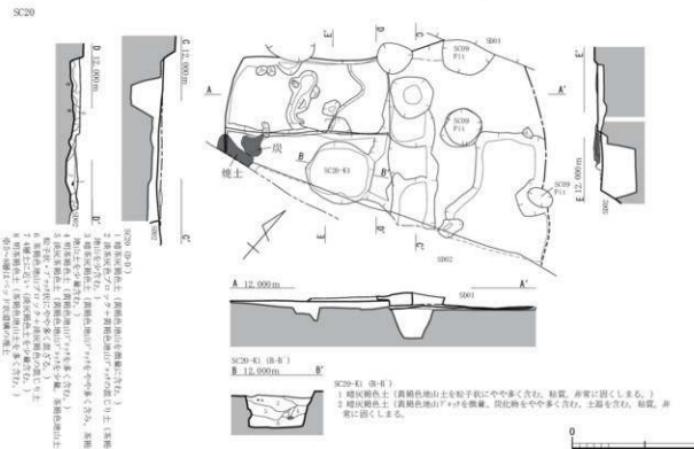
SC16



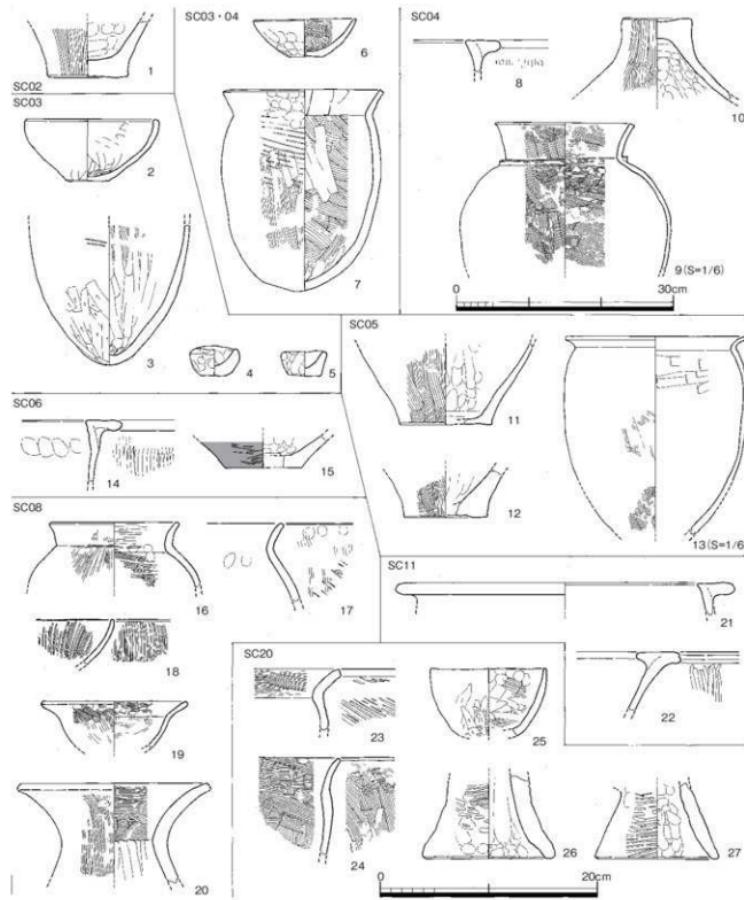
SC21 (40)



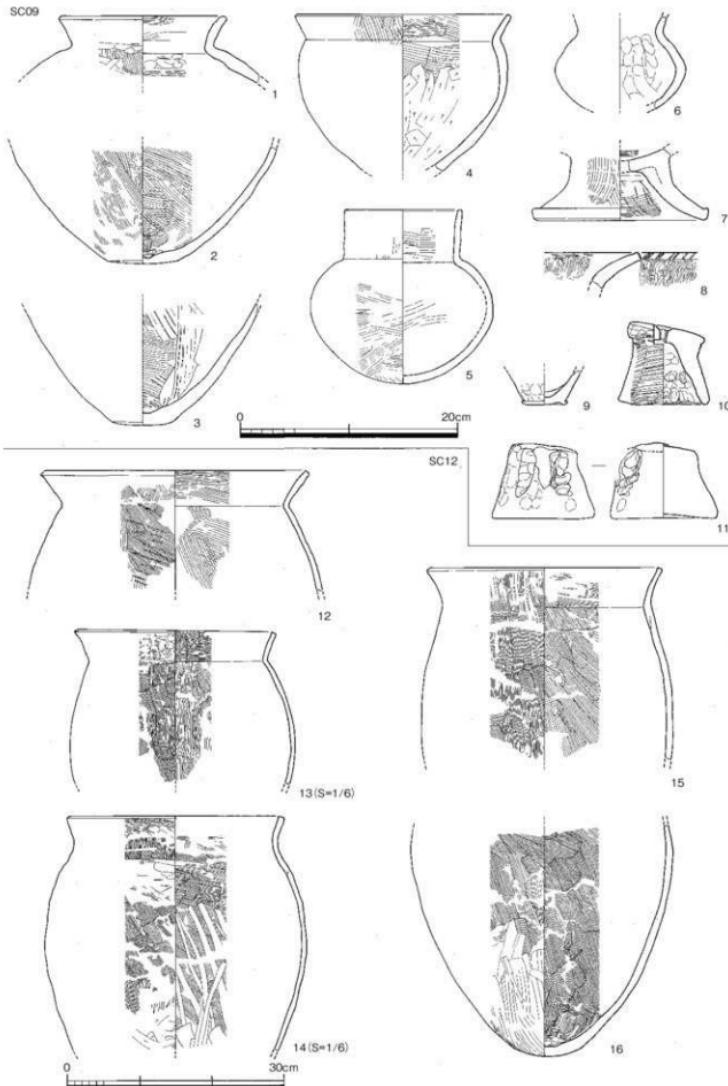
SC20



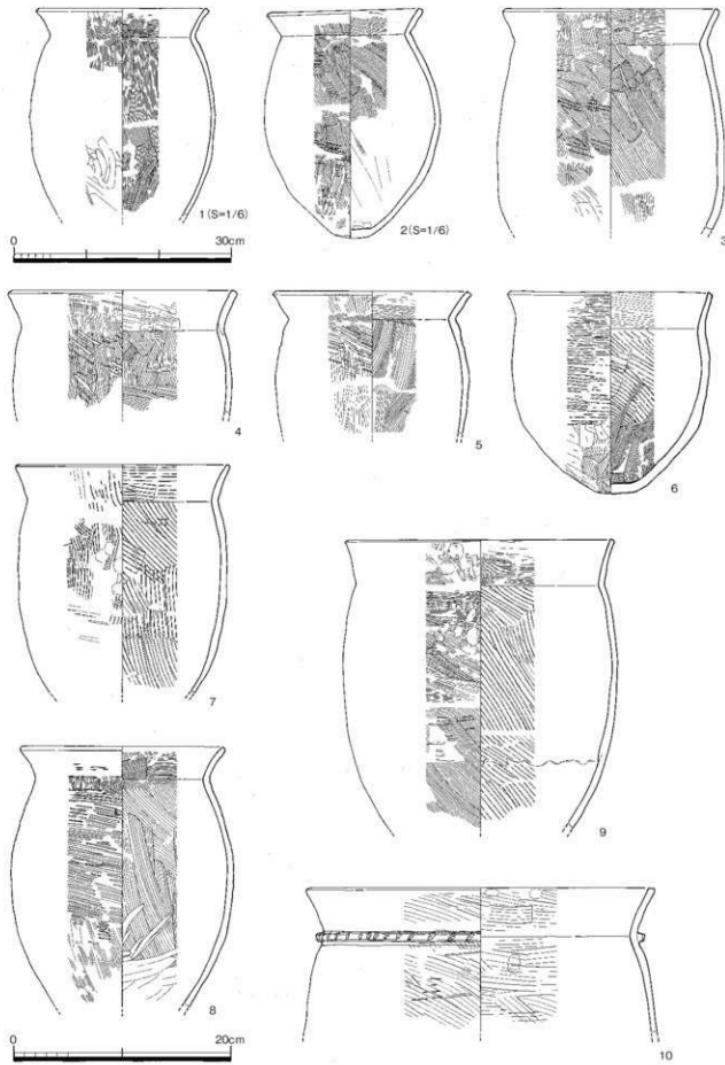
第37図 C区14~17・20・21号住居跡遺構実測図 (1/60, 21は1/40)



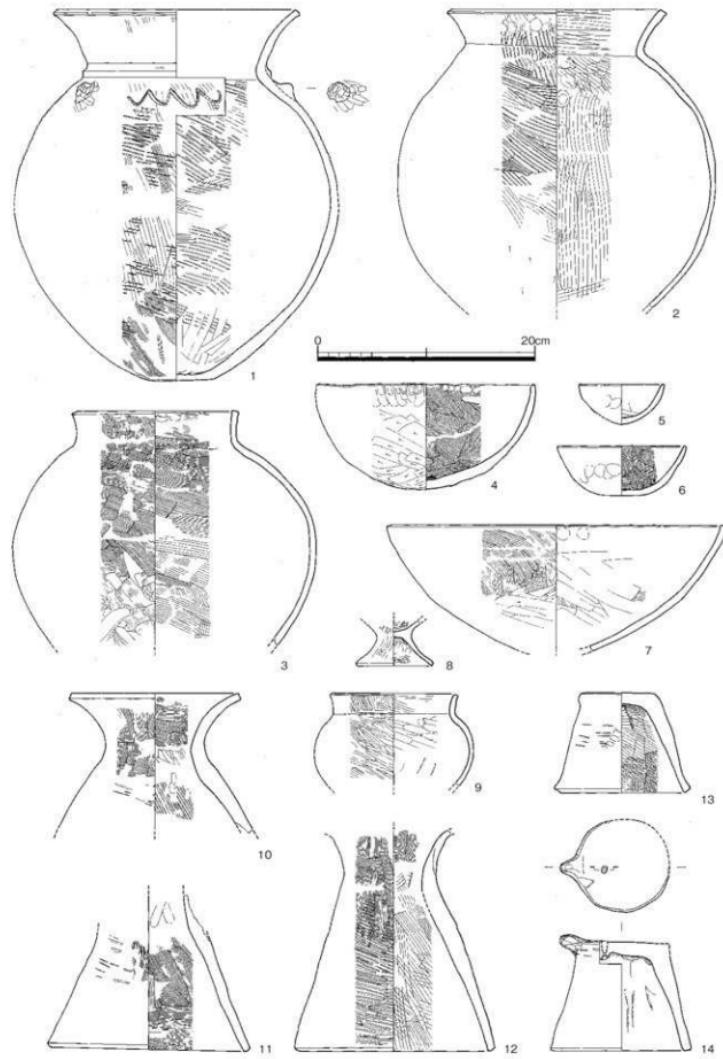
第38図 C区2~6・8・11・20号住居跡出土遺物実測図 (1/4、1/6[9, 11])



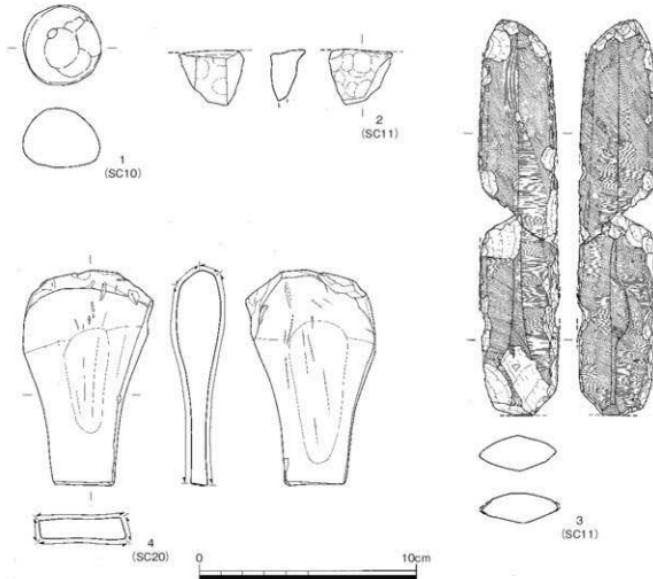
第39図 C区9・12号住居跡出土遺物実測図① (1/4、1/6[13,14])



第40図 C区12号住居跡出土遺物実測図② (1/4)



第41図 C区12号住居跡出土遺物実測図③ (1/4)



第4-2図 C区住居跡出土石製品、土製品遺物実測図(1/2)

## 2. 土坑 (SK)

C区		1号土坑	第4-3図／図版					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	後	
	精円	精円	(2, 44)	(0, 60)	0.10~0.78	N~11.5°~E		SK02	その他の遺物[第一 国／国版 - ]
出土遺物	土器[第一 国／国版 - ] 青銅片や須恵器細片などが出土したが、図示するに至らなかった。時期は中世以降である。								出土遺物なし
概要	C区北東隅で検出。大半が調査区外へ広がるため詳細は不明な点が多い。南から北へ、徐々に持続ながら低くなる。								
C区		2号土坑	第4-3図／図版					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	後	
	精円?	精円?	(0, 92)	(0, 72)	0.12~0.34	N~78.5°~W		SK01	その他の遺物[第一 国／国版 - ]
出土遺物	土器[第一 国／国版 - ] 赤生土器の細片が出土した。いずれも図示するに至らなかった。時期は弥生中期前葉～後葉であろう。								出土遺物なし
概要	SK01同様。調査区北東隅で検出。大半が調査区外へ広がり、SK01に切られる為、詳細は不明である。北から南へと低くなる。								
C区		3号土坑	第4-3図／図版					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	後	
	精円	精円	1.1	1.00	0.06	N~62°~W		P001・002・003	その他の遺物[第一 国／国版 - ]
出土遺物	土器[第一 国／国版 - ] 赤生土器の細片が出土。いずれも図示できなかった。								出土遺物なし
概要	検出した土坑は浅く、性格は不明である。埋土中に炭が微量だが混じる。								



C 区		4 号土坑	第 4.3 図／図版 3	主な遺構との先後関係					
構造	平面形態 構内	底面形態 構内	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	後	
			(3.46)	(1.28)	(0.36～0.56)	N・12.5°・W	SC05		
出土 遺物	土器〔第 4.7 図／図版 7〕		その他の遺物〔第 一 図／図版 一〕						
	多くの土器部品、瓦、瓦器碗などが出土した。1・3・5・8・14号は油焼が付着しており、灯明皿の可能性がある。土坑の時期は12世紀中頃～13世紀前半に比定される。		出土遺物なし						
概要	土坑の東側と北側は調査区外へと広がり全容は不明である。北より南へ向かい段を持ちながら低くなる。遺物は南側で多く出土していることが特徴である。また、多くの遺物が底部を下にして出土しているが、性格不明である。								
C 区		5 号土坑	第 4.4 図／図版 -	主な遺構との先後関係					
構造	平面形態 構内？	底面形態 構内？	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	P067	
			(1.06)	(0.24)	0.14	N・14°・E	後	SK06、SC10	
出土 遺物	土器〔第一 図／図版 - 〕		その他の遺物〔第一 国／図版 - 〕						
	弥生土器の細片が数点だが出土した。いずれも図示するに至らなかった。時期は弥生中期頃か？		出土遺物なし						
概要	土坑の西側は調査区外へと広がるため詳細は不明な点が多い。								
C 区		7 号土坑	第 4.4 図／図版 -	主な遺構との先後関係					
構造	平面形態 構内	底面形態 構内	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	P006・007・008	
			1.38	0.88	0.12～0.30	N・6.5°・E	後	SC10、11	
出土 遺物	土器〔第 4.7 図／図版 - 〕		その他の遺物〔第 4.7 国／図版 - 〕						
	22は上層より出土の台面である。弥生中期後葉以降であろう。土坑の時期は弥生中期後葉～末までと比定される。		32は安山岩製の石庖丁である。全体的に摩滅している。						
概要	南から北へ向かい段を持ちながら下がる。土坑のほぼ中央中段位より、遺物が出土している。								
C 区		9 号土坑	第 4.4 図／図版 -	主な遺構との先後関係					
構造	平面形態 構内	底面形態 構内	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先		
			0.96	0.96	0.19	N・12.5°・W	後	SC06	
出土 遺物	土器〔第 4.7 国／図版 - 〕		その他の遺物〔第一 国／図版 - 〕						
	23は茎か跡の底部である。底に茎状の圧痕が残る。その他、盤形土器片などが出土。時期は弥生中期末と比定される。		出土遺物なし						
概要	土坑のほぼ中央あたり、検出面直下において土器がまとまって出土している。								
C 区		10 号土坑	第 4.4 国／図版 -	主な遺構との先後関係					
構造	平面形態 構内	底面形態 構内	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	P030	
			(1.98)	0.96	0.12～0.47	N・0.5°・E	後		
出土 遺物	土器〔第一 国／図版 - 〕		その他の遺物〔第一 国／図版 - 〕						
	弥生土器の細片が出土しているが、図示するに至らなかつた。		出土遺物なし						
概要	南側に行は状の段を持つ土坑である。埋土中に遺物を含む。								
C 区		11 号土坑	第 4.5 国／図版 3	主な遺構との先後関係					
構造	平面形態 構内	底面形態 構内	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先		
			2.94	(2.20)	0.24	N・72.5°・E	後		
出土 遺物	土器〔第 4.7 国／図版 - 〕		その他の遺物〔第 4.7 国／図版 8〕						
	遺物の出土は微量で、最も破片である。25は弥生中期後葉～終末の甕で、内外面で調整している。		33は土製投弾である。						
概要	中央に柱穴を検出した。北側が調査区外へと広がり詳細は不明である。住居の可能性がある。								
C 区		12 号土坑	第 4.5 国／図版 -	主な遺構との先後関係					
構造	平面形態 構内	底面形態 構内	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SD02、P031・025その他柱穴2基	
			2.04	(1.62)	0.42～0.68	N・28°・E	後	P058	
出土 遺物	土器〔第 4.7 国／図版 - 〕		その他の遺物〔第一 国／図版 - 〕						
	須恵器片や土器片などが出土している。時期は7世紀後半以降であろう。		出土遺物なし						
概要	SD02に切られる為、全容は不明な点が多い。								

C 区 13 号土坑			第4.5図／図版 -				主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
	楕円	楕円	2.40	1.86	0.28	N・56° - W	後	SD07
出土遺物	土器[第4.7図／図版 - ]	須恵器破片や土師器の破片が出土している。27は土師器の片である。須恵器の模造品か?時期は7世紀以降であろう。				その他の遺物[第 - 図／図版 - ]		
概要	柱穴状の掘り込みが4基確認できたが、用途不明である。							

C 区 14 号土坑			第4.5図／図版 -				主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
	楕円	楕円	0.92	0.7	0.20	N・47° - E	後	SD11
出土遺物	土器[第4.7図／図版 - ]	底部はやや平底の名残が残る丸底である。また、器台も出土している。時期は、弥生後期中葉～後葉であろう。				その他の遺物[第 - 図／図版 - ]		
概要	埋土中に遺物を含む。							

C 区 16 号土坑			第4.6図／図版 3				主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
	楕円	楕円	0.86	0.76	0.42	N・83.5° - E	後	PD49
出土遺物	土器[第4.7図／図版 6]	遺物の出土は少量である。30は小形の跡で、胸腹中位に1条の突帯、口唇部は欠損もしくは打ち欠きの可能性あり。時期は弥生中期後葉以降であろう。				その他の遺物[第 - 図／図版 - ]		
概要	土坑の上層～中層にかけて遺物を検出した。							

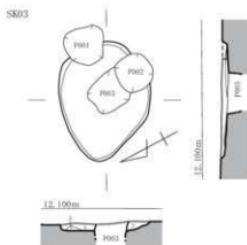
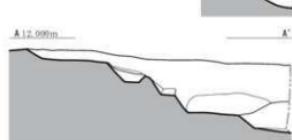
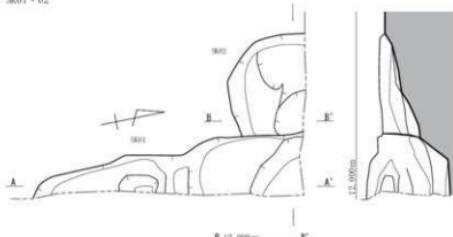
C 区 17 号土坑			第4.6図／図版 3				主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
	方形?	方形?	(1.84)	(0.46)	0.19～0.56	N・81.5° - E	後	
出土遺物	土器[第4.7図／図版 - ]	31は脚付跡と推察しておく。内外面付近を調整である。上下の可能性がある。その他須恵器の縞片が出土している。				その他の遺物[第 - 図／図版 - ]		
概要	北側及び東側が調査区外へと広がるため全形は不明であるが、検出した土坑17より、方形の可能性がある。土坑の中央は柱穴状に掘り下がり下層にいくつか遺物が出土している。掘り下がっている東西両側に「ハ」状の段を持つ。							

C 区 19 号土坑			第4.6図／図版 -				主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
	楕円	楕円	2.52	0.88	0.10	N・64° - E	後	SD01
出土遺物	土器[第 - 図／図版 - ]	底部が凸凹状の後の底部片などから、弥生後期終末～古墳頭以降に比定されよう。				その他の遺物[第 - 図／図版 - ]		
概要	SD01に切られるため、全容は不明である。							

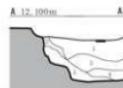
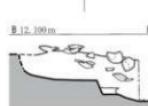
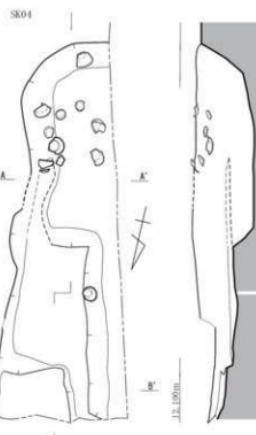
C 区 20 号土坑			第4.6図／図版 -				主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
	方形?	方形?	2.94	(1.20)	0.18～0.44	N・86° - W	後	SD06
出土遺物	土器[第 - 図／図版 - ]	丹波土器片や弥生土器破片などが出土。いずれも墨書きによる筆跡なかった。時期は弥生中期以降であろう。				その他の遺物[第 - 図／図版 - ]		
概要	北側が調査区外へと広がるため全形は不明だが、検出した土坑17より、方形の可能性がある。土坑は西から東へと並ぶ。							

C 区 21 号土坑			第4.6図／図版 -				主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
	やや方形?	やや方形?	1.62	(0.50)	0.18	N・80° - E	後	SD25
出土遺物	土器[第 - 図／図版 - ]	少量の遺物が出土した。いずれも墨書きのため図示するに至らなかった。時期は弥生後期中葉～終末であろう。				その他の遺物[第 - 図／図版 - ]		
概要	南側が調査区外へと広がりビット等に切られるため、全体形は不明。やや方形気味のため住居の可能性も遺構である。							

SK01 + 02



- SK03  
1 明顯褐色ブロック土 (1~2mの黄褐色アリ)をや多く含む。間が少無地じる。  
2 黄褐色アリ  
3 黄褐色ブロック土+黄褐色地山ブロック土 (地山に現れる。)  
3.2 土とほぼ同じ (黄褐色アリ土を3層土より多く含む。) 色は濃じない。)

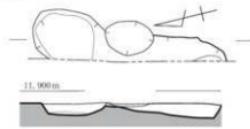


- SK04  
1 明顯褐色土 (褐色アリ)を少含む。非常に柔らかく。  
2 黄褐色土+灰褐色粘土の混じり土 (褐色アリ)  
2.2 灰褐色土 (褐色アリ)を少含む。地山土には(褐色アリ)  
4 灰褐色粘土土 (褐色粘土をや多く含む。) 色は濃くしまる。)  
5 灰褐色粘土土+黄褐色地山土の混じり土 (非常に固くしまる。)

第4.3図 C区1~4号土坑遺構実測図 (1/40)

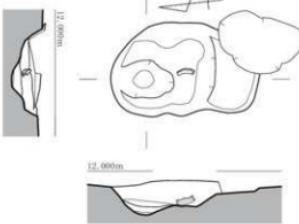


SK05



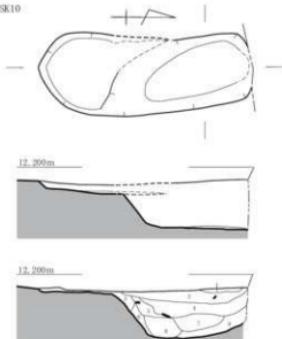
11,900m

SK07



12,000m

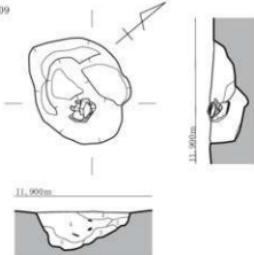
SK10



12,200m

12,200m

SK09



11,900m

基盤

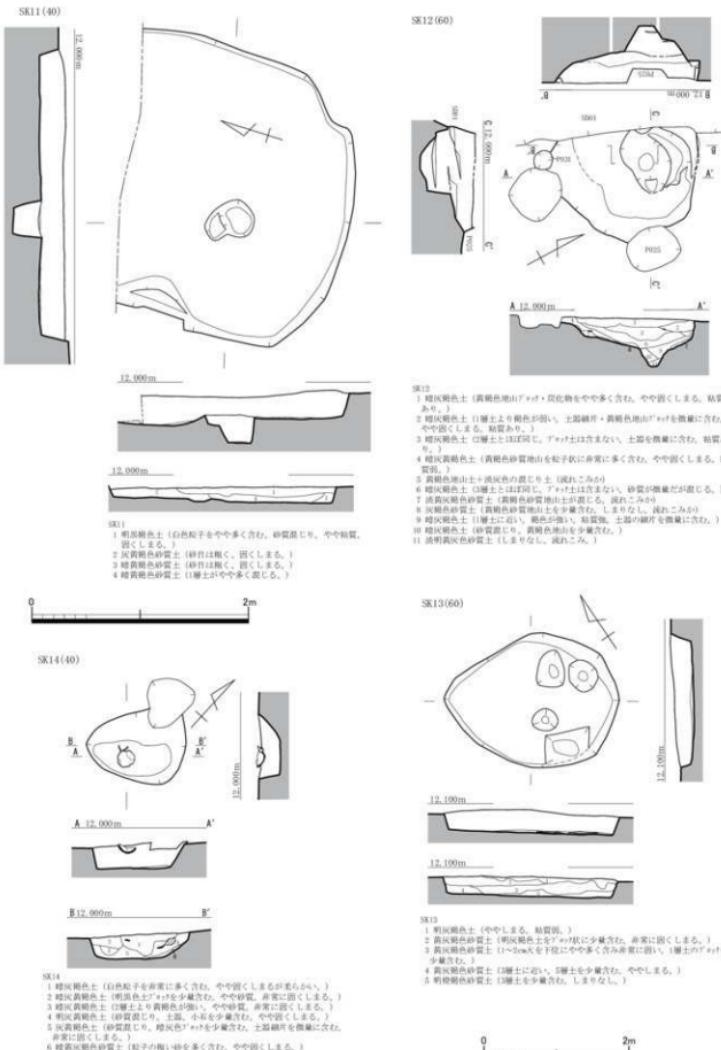
- 1 黒褐色土 (黄褐色地山) ブロックを多く含む。やや固くしまる。粘質弱。)
- 2 水潤褐色土 (黄褐色地山) ブロックを少含む。)
- 3 水潤褐色土 + 黄褐色土の混じり (やや固くしまる。砂質土。)
- 4 黄褐色土 (黄褐色地山) ブロックを多く含む。やや固くしまる。
- 5 粘黄褐色土 (やや粘質土。固くしまる。)
- 6 粘黄褐色砂質土 (地山土に近い。)
- 7 粘黄褐色土 (粘質土が無い。砂質土に近い。しまる。)
- 8 黄褐色砂質土 (1号砂質土と似る。砂質土をやや含む。)
- 9 黄褐色砂質土 (砂土と似併列。黄褐色土をわずかに含む。)

SK09

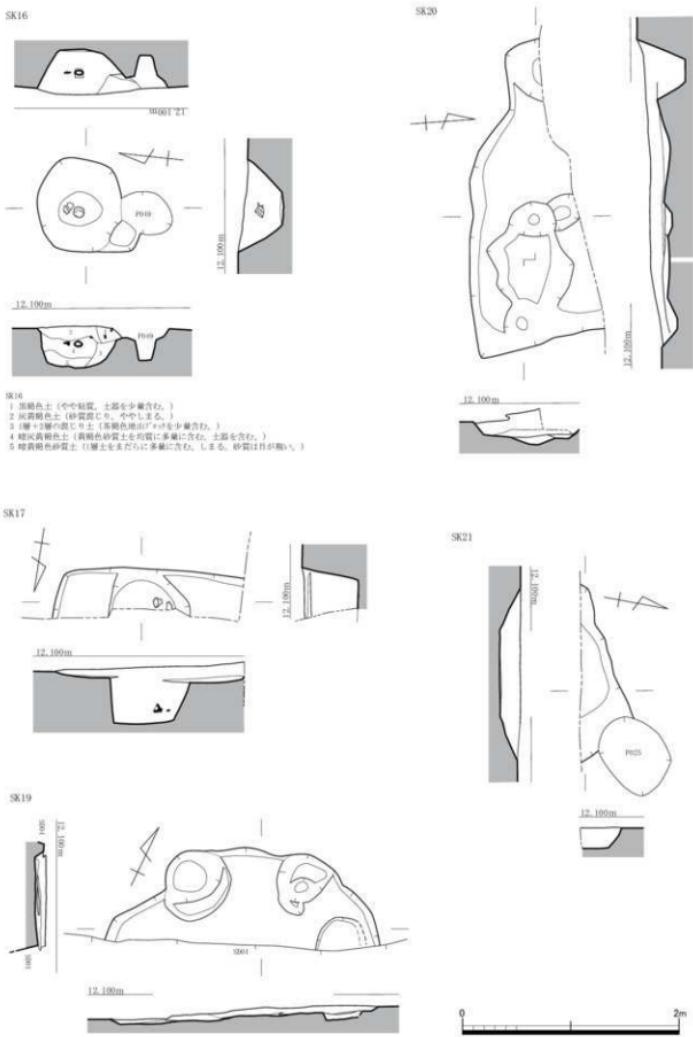
- 1 黑褐色土 (黄褐色ブロックを少含む。粘質なし。しまなし。)
- 2 明治褐色ブロック + 黄褐色地山ブロックの混じり土 (明治褐色土が多い。)
- 3 黄褐色地山ブロック + 明治褐色ブロック + 黄褐色地山ブロックの混じり
- 4 晩次灰褐色土 (本褐色地山。黄褐色地山をやや多く含む。又、化物を少含む。古瓦。植物灰入層。)
- 5 黑褐色土 (晩次灰褐色ブロックを少量含む。)



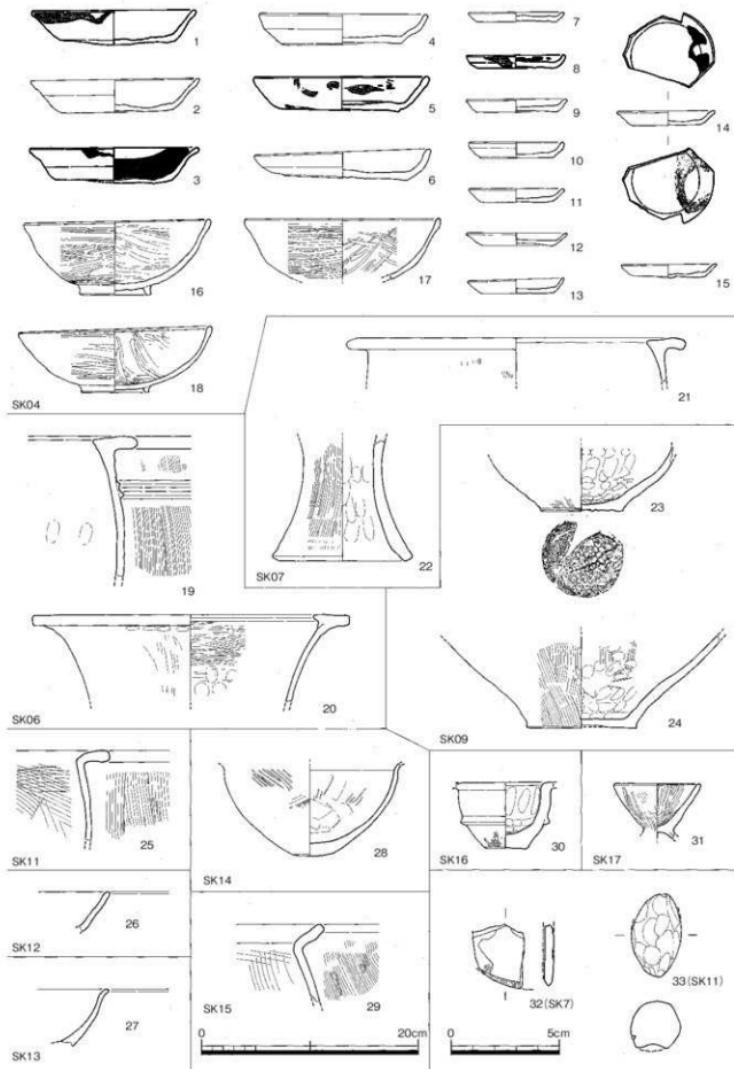
第44図 C区5・7~10号土坑遺構実測図(1/40)



第45図 C区1区1~14土坑遺構実測図 (11.14は1/40、他は1/60)



第46図 C区16・17・19~21号土坑遺構実測図 (1/40)



第47図 C区土坑出土遺物実測図 (1/4、1/2[30,31])

### 3. 周溝状遺構（S V）

1号周溝状遺構（第48図／図版一）

調査区東端で検出した。ほぼ南北に縱走し、南北ともに調査区外へと広がるため全容は不明である。断面形状は逆台形である。

**出土遺物**（第49図／図版一）

出土遺物は混ざりと考えられる弥生中期前葉焼片が出土している。1は土師器の杯で、7世紀頃に比定される。

C区 1号溝		第48図／図版3			主な遺構との先後関係	
構造	長軸 幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	後
	(28, 40) 0.90~1.00	0.48	逆台形状	N - 59° - E	SD03, SC06・09・., SK12その他多数	
出土遺物	土器[第49図／図版 - ]				その他の遺物[第 - 図／図版 - ]	
					多期にわたる多くの遺物が出土した。2は最下層からの出土遺物なし	
概要	多期にわたる多くの遺物が出土した。2は最下層からの出土である。17世紀後半の所産である。					
	調査区を東西方向へ横断する溝である。検出標高は11,900mである。					

C区 2号溝		第48図／図版 -			主な遺構との先後関係	
構造	長軸 幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	後
	(12, 80) 0.70~0.84	0.22~0.42	逆台形状	N - 66° - E	SD05, SC06・09・20・16その他柱穴	
出土遺物	土器[第 - 図／図版 - ]				その他の遺物[第 - 図／図版 - ]	
	SD01同様、多期にわたる多くの遺物が出土した。時期はSD01と同時期埋設したと考える。				出土遺物なし	
概要	SD01に並行する溝である。SD01に比べ浅い。検出標高は11,800m~12,000mである。					

C区 3号溝		第48図／図版 -			主な遺構との先後関係	
構造	長軸 幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	後
	(12, 80) 0.24~0.40	0.20	逆台形状	N - 27° - W	SC04・05・09, SD09・12その他多数	
出土遺物	土器[第49図／図版 - ]				その他の遺物[第 - 図／図版 - ]	
	多期にわたる多くの土器片が出土している。越州窯系青磁皿? 破片より11世紀~12世紀代の溝であろう。				出土遺物なし	
概要	南北に縱断する溝である。幅も狭く西に向かい浅くなる。検出標高は12,000mである。					

C区 4号溝		第48図／図版 -			主な遺構との先後関係	
構造	長軸 幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	後
	14, 28 0.48~0.54	0.52	逆台形状	N - 76° - E	SC8・12その他多数	
出土遺物	土器[第49図／図版 - ]				その他の遺物[第 - 図／図版 - ]	
	土器底部へ切り替わる皿や瓦質土器、青磁碗破片などが出土している。12世紀ごろ埋没か?				出土遺物なし	
概要	SD01, 02と同じく東西方向に横断する溝である。幅も狭く西に向かい浅くなる。検出標高は12,000mである。					

C区 5号溝		第48図／図版 -			主な遺構との先後関係	
構造	長軸 幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	後
	(4, 40) 1.20	0.38	不整形な逆台形	N - 12° - W	SD02, その他柱穴	
出土遺物	土器[第49図／図版 - ]				その他の遺物[第 - 図／図版 - ]	
	弥生土器や鉢が出土している。時期は弥生中期末以降に埋没したと考えられる。				出土遺物なし	
概要	南北方向に縱断する溝。上層を表土剥ぎ及び検出時に下げすぎたため全容は不明である。西から北にかけてテラス状の段を持ち、他の溝と違い断面が階段状である。他の溝と性格が違うと考えられる。検出標高は11,900m前後である。					

C区 6号溝		第48図／図版 -			主な遺構との先後関係	
構造	長軸 幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	後
	(5, 04) 0.50~1.34	0.17	不整形な逆台形	N - 5° - W	SK20, SC14	
出土遺物	土器[第 - 図／図版 - ]				その他の遺物[第 - 図／図版 - ]	
	遺物出土量は少なく、弥生土器片や丹波土器片などが出土している。時期は弥生中期後葉以降であろう。				出土遺物なし	
概要	南北方向に縱断する溝である。部分的に溝幅が狭くなる箇所が確認できる。検出標高は12,000m前後である。					

C区 7号溝		第4.8回／図版・			主な遺構との先後関係	
構造	長軸 (4.40)	幅 1.54	深さ 0.40	断面形態	長軸方位 N・9.5° - E	先 P075 後 SK13
出土遺物	土器[第一 回／図版 - ] 出土遺物は弥生土器片、丹塗土器片などがある。弥生終末～古墳初頭の埋没か?			その他の遺物[第一 回／図版 - ] 出土遺物なし		
概要	南北方向の溝である。SK13に切られ、北側は調査区外へと広がるため全容は不明である。					

C区 8号溝		第4.8回／図版・			主な遺構との先後関係	
構造	長軸 (1.24)	幅 0.54	深さ 0.07	断面形態	長軸方位 N・45.5° - E	先 SD03、P056 後 SD09その他の遺構
出土遺物	土器[第一 回／図版 - ] 遺物の出土は微量で、それでも示すに至らなかつた。時期は弥生中期後葉以降であろう。			その他の遺物[第一 回／図版 - ] 出土遺物なし		
概要	南北方向の溝である。東側は調査区外へのび、西側はSD03に切られるため全容は不明であるが、溝の幅も一定ではないため、SD01～04とは性格が違う溝だと考えられる。					

C区 9号溝		第4.8回／図版・			主な遺構との先後関係	
構造	長軸 (2.52)	幅 0.90	深さ 0.18	断面形態	長軸方位 N・61° - W	先 SD03・08
出土遺物	土器[第4.9回／図版 - ] 弥生土器の鉢や、外面に暗文のある鉢形高杯が出土。 弥生中期末～後期前葉の埋没か?			その他の遺物[第一 回／図版 - ] 出土遺物なし		
概要	溝の底の形態は他のものとは違ない、#7状の段を持ちながら南へ低くなる。SD01～04とは性格が違う溝だと考える。					

C区 10号溝		第4.8回／図版・			主な遺構との先後関係	
構造	長軸 1.54	幅 0.22	深さ 0.12	断面形態	長軸方位 N・32.5° - W	先
出土遺物	土器[第一 回／図版 - ] 外側が斜めに削り落としている弥生土器片が出土。図示不可能であったが、時期は弥生終末以降であろう。			その他の遺物[第一 回／図版 - ] 出土遺物なし		
概要	上層を掘削時に削り落としたため、溝の一部分のみが検出できた。検出標高1.80m前後である。南北方向に縱断する溝であったと考えられる。おそらく、SD03に並行する溝であろう。性格は不明である。					

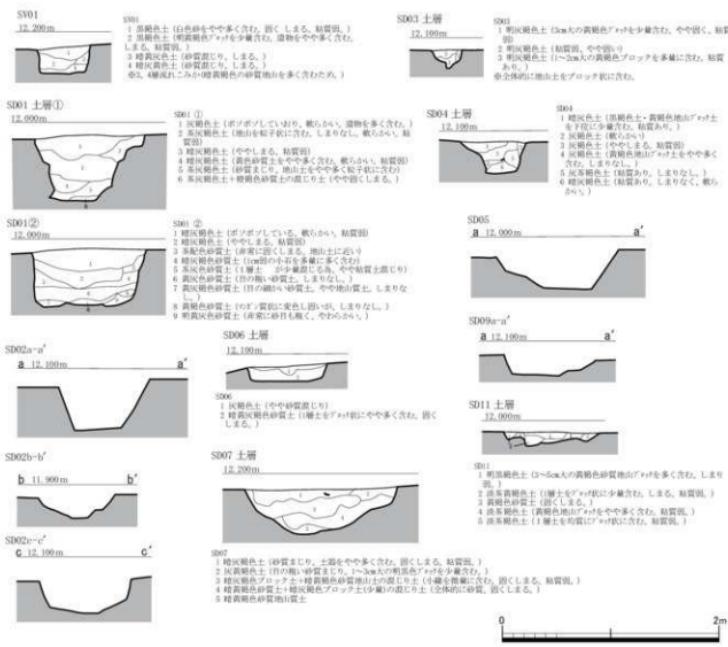
C区 11号溝		第4.8回／図版・			主な遺構との先後関係	
構造	長軸 (2.08)	幅 0.90	深さ 0.08	断面形態	長軸方位 N・38.5° - E	先 P032・035・047、SK14
出土遺物	土器[第一 回／図版 - ] 微量だが弥生土器片が出土している。時期は弥生中期後葉以降であろう。			その他の遺物[第一 回／図版 - ] 出土遺物なし		
概要	非常に浅い溝である。南側はSK14に切られ、北は調査区外へと広がるため、詳細は不明である。					

C区 12号溝		第4.8回／図版・			主な遺構との先後関係	
構造	長軸 (2.40)	幅 1.16	深さ 0.22	断面形態	長軸方位 N・3.5° - E	先 SD01・03その他の柱穴
出土遺物	土器[第4.9回／図版 - ] 支脚や器台、甕など多くの遺物が出土している。時期は弥生中期後葉～後期中葉の埋没である。			その他の遺物[第一 回／図版 - ] 出土遺物なし		
概要	北側は調査区外へと広がり、南はSD01に切られるため全容は不明な点が多い。検出標高1.900m前後である					

C区 13号溝		第4.8回／図版・			主な遺構との先後関係	
構造	長軸 (1.70)	幅 (0.50)	深さ 0.03	断面形態	長軸方位 N・60.5° - E	先 SC09
出土遺物	土器[第4.9回／図版 - ] 弥生土器の高杯、甕や支脚などが出土している。時期は中期後葉と比定される。			その他の遺物[第一 回／図版 - ] 出土遺物なし		
概要	SC09に切られることと、東側を擾乱により削平されていることにより、全容は不明である。					



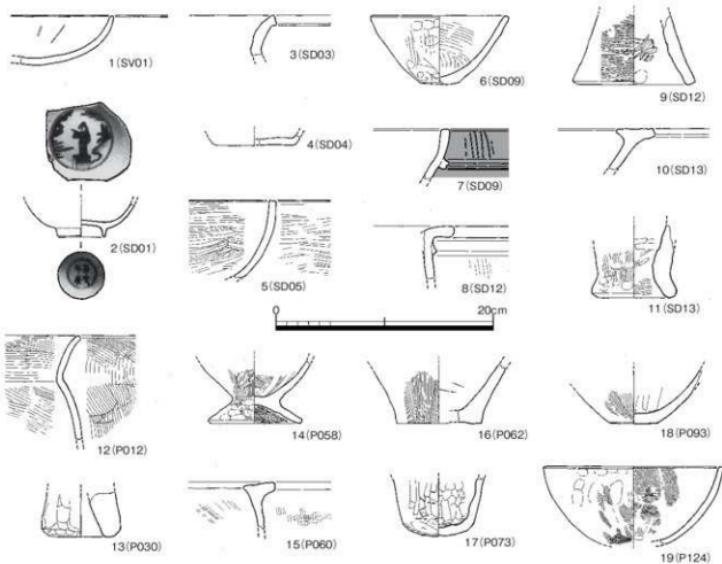
第48図 C区1号周溝状遺構、1~13号溝遺構実測図(1/40)

##### 5. ピット(SP)(付図/図版一)

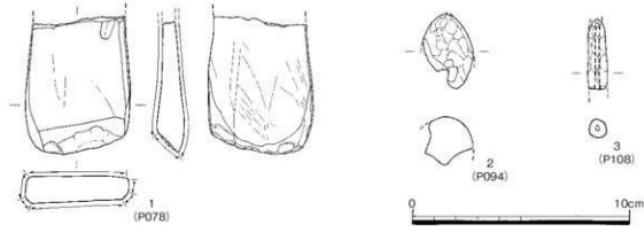
C区で検出した柱穴は約140基でそのうち約120基より遺物が出土している。そのうち8基が図示可能であったためここで報告しておく。

##### 出土遺物(第49図/図版一)

いずれも破片であったが、図示可能なものを図化した。時期は、弥生中期中ごろと、終末期に比定されよう。



第49図 C区1号周溝状遺構、1~13号溝、ピット出土遺物実測図(1/4)



第50図 C区ピット出土石製品、土製品実測図(1/2)

## 第7章 D区の遺構と遺物

D区で検出した遺構は井戸17基、土坑21基、溝13条、その他ピット約40基である。以下、表形式で報告する。表についての留意点は第3章2を参照。

### 1、井戸 (S E)

D区	1号井戸		第5.1図／図版3				主な遺構との先後関係	
	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	後
構造	楕円	円	1.04	1.30	1.46	N-34°-W		
出土遺物	土器[第5.3図／図版-]					その他の遺物[第-図／図版-]		
概要	土器小皿・杯、青磁碗などが出土している。13世紀前半ごろの所産と考えられる。					出土遺物なし		
	北は調査区外へと広がる。南から中央の最深部まで2段階のX字状の段を持つ。下から2段目の行は、壁面が緩く内溝して立ち上がる。また、南東部分から最深部までX字状の段をもつ。							

D区	2号井戸		第5.1図／図版3				主な遺構との先後関係	
	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	後
構造	円	円	0.90	(0.06)	0.84	N-6.5°-E		
出土遺物	土器[第5.3図／図版-]					その他の遺物[第5.5図／図版-]		
概要	土器小皿・杯、青磁碗などが出土している。12世紀前半ごろに比定される。					1は砾石である。ほぼ全面を砾面として使用している。		
	西側が調査区外へと広がるため、全容は不明な点が多い。中央部分が最深部で、X字状の段を持つ。このX字状の段から、壁面が内溝して立ち上がる。							

D区	3号井戸		第5.1図／図版-				主な遺構との先後関係	
	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	後
構造	円	楕円	1.26	1.26	1.12	N-22.5°-W		
出土遺物	土器[第5.3図／図版-]					その他の遺物[第-図／図版-]		
概要	12世紀末～13世紀初頭の所産と考えられる。土器小皿・杯、中世須恵器林5が出土している。					出土遺物なし		
	東側上層を擾乱により削平される。一段のX字状の段を持つ。							

D区	4号井戸		第5.1図／図版-				主な遺構との先後関係	
	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	後
構造	楕円	楕円	1.06	1.06	1.00	N-10°-E		SD04
出土遺物	土器[第5.3図／図版6]					その他の遺物[第-図／図版-]		
概要	土器小皿・杯、青磁碗、青白磁などが出土している。12世紀ごろ～13世紀ごろであろう。							
	南側上層をSD04に切られる。東側に行X字状の段を持つ。中央部分が最深部となる。最深部は南へと低くなる。壁面より立ち上がりは緩やかである。							

D区	5号井戸		第5.1図／図版-				主な遺構との先後関係	
	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	後
構造	不整形	楕円	1.46	1.32	0.58	N-0°-E		
出土遺物	土器[第5.3図／図版-]					その他の遺物[第-図／図版-]		
概要	青白磁碗の破片のはがき、瓦質の擂鉢が出土している。					出土遺物なし		
	西側上層をSD04に切られる。中央が最深部となる。最深部から緩やかに立ち上がり、一段の段を持つ。そこから内溝しながら立ち上がる。							

### 2、土坑 (SK)

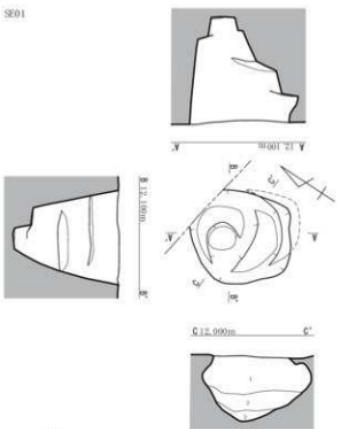
D区	1号土坑		第5.2図／図版-				主な遺構との先後関係	
	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	後
構造	楕円	楕円	3.14	(1.66)	4.2	N-79°-W		P016・017
出土遺物	土器[第5.4図／図版-]					その他の遺物[第-図／図版-]		SK06
概要	多くの土器が出土している。時期は、弥生中期後葉までであろう。					出土遺物なし		
	北側が調査区外へと広がるため全容は不明である。東西両側に行X字状の段が確認できる。							

D区	2号土坑		第5.2図／図版3				主な遺構との先後関係	
	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	後
構造	楕円	円	4.24	2.44	1.04	N-29.5°-W		
出土遺物	土器[第5.3図／図版7]					その他の遺物[第5.5図／図版-]		
概要	土器小皿・小盤や瓦器、青白磁など多くの遺物が出土している。時期は、12世紀前半～13世紀代であろう。					2は石鏡である。口縁部に放射状の工具痕が残る。3は鉄製鍼である。		
	上層はSD04に切られる。土層観察により、振り返しが確認できた。南側は振り返しである。最深部より緩やかに立ち上がり、X字状の段が確認できる。北側の底面は緩やかに立ち上がる。							

D区		3号土坑 第5.2図／図版					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	後
	長楕円	長楕円	3.64	1.00	0.58	N-42°-東	P023	
出土遺物	土器〔第5.4図／図版-〕					その他の遺物〔第-図／図版-〕		
概要	弥生中期末～後期初頭に比定される土器が出土している。					出土遺物なし		
	漫乱により削平箇所があるため、詳細不明な点がある。最深部は南側で80cm前後の土坑状に掘り込まれ、東から西へと下がる。最深部から北へ一段上がり、長軸1.36m、短軸0.96mの土坑状の浅い掘り込みがある。性格の不明で							
D区		4号土坑 第5.2図／図版					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	後
	長楕円?	長楕円?	(27.6)	(14.2)	0.9	N-10.5°-西	SK01	
出土遺物	土器〔第5.4図／図版-〕					その他の遺物〔第-図／図版-〕		
概要	出土遺物は少量である。時期は弥生中期中頃に比定されよう。					出土遺物なし		
	北側は現代の井戸に切られ、東側はSD01に切られるため、遺構の全形体は不明である。							
D区		5号土坑 第5.2図／図版					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	後
	楕円	楕円	0.86	(0.76)	0.14	N-79°-西	P020	
出土遺物	土器〔第-図／図版-〕					その他の遺物〔第-図／図版-〕		
概要	出土遺物なし					出土遺物なし		
	他の遺構に切られ、全容は不明である。底面は、西から東へ下がる。							
D区		6号土坑 第5.2図／図版					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	後
	楕円?	楕円?	1.20	(0.76)	0.15	N-79°-西	SK05	
出土遺物	土器〔第5.4図／図版-〕					その他の遺物〔第-図／図版-〕		
概要	時期は弥生中期後葉～中期後葉であろう。					出土遺物なし		
	平面形態は楕円だが南北隔がやや方形狀である。北側をSK01に切られるが全容は不明である。底面は南から北へ下がる。							
D区		7号土坑 第5.2図／図版					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	後
	不整形楕円	円形	1.26	0.80	0.62	N-73°-E		
出土遺物	土器〔第5.4図／図版-〕					その他の遺物〔第-図／図版-〕		
概要	内面に棱が入らないだけの土師器の小甕である。時期は5世紀後半以降であろう。					出土遺物なし		
	最深部は西側である。中央が一番低く鉢状で、東へ緩やかに立ち上り、环节の段を持つ。性格は不明である。							
D区		8号土坑 第5.2図／図版					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	後
	長楕円	長楕円	4.68	(1.18)	0.30	N-81°-東	P028	
出土遺物	土器〔第5.4図／図版6〕					その他の遺物〔第-図／図版-〕		
概要	土器の丸底甕や有稜の高杯が出土している。時期は古墳中期中葉～後期初期であろう。					4号土製の模造鏡である。		
	南側は調査区外へ広がるため詳細不明である。底面は中央部分がいちばん低くゆるい鉢形状である。性格不明な土坑である。							
D区		9号土坑 第5.2図／図版					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	後
	円形	円形	0.82	0.76	0.84	N-10.5°-E	P029	
出土遺物	土器〔第-図／図版-〕					その他の遺物〔第-図／図版-〕		
概要	多くの遺物を出土しているが、図化するに至らなかった。時期は12世紀中～後期である。					出土遺物なし		
	底面からほぼ垂直に壁面が立ちあがる。また、中央部分がいちばん低い。							
D区		10号土坑 第5.2図／図版					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	後
	楕円?	楕円?	1.22	(0.80)	0.40	N-9.5°-東		
出土遺物	土器〔第-図／図版-〕					その他の遺物〔第-図／図版-〕		
概要	土器片が出土しているが、細部である。時期不明古代か？					出土遺物なし		
	上層を擾乱によって削平され、東側はSD05により切られ詳細は不明である。底面は北から南へ下がる。							

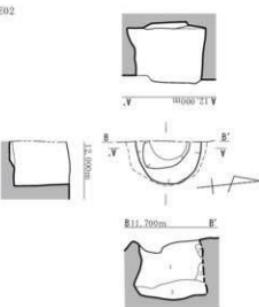


SE01



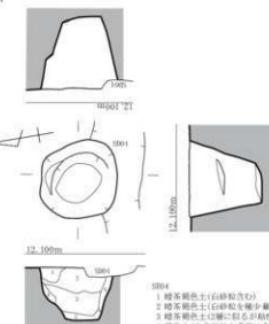
- SE01  
1 黄褐色土(粘性質でよくしまる。黄褐色土と砂質に混じる。土層片含む。)  
2 黄褐色土(粘性質でよくしまる。黄褐色砂質土が多量に含む。土層片含む。)  
3 黄褐色土(シルト質。黄褐色粘土混じる。)

SE02



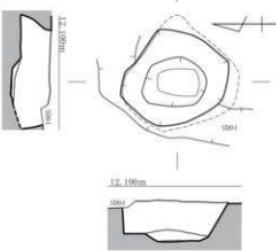
- SE02  
1 黄色土(粘質でよくしまる。灰黄色砂質土と混じる。)  
2 灰灰褐色土(砂質でよくしまる。)壁面強度土か。  
3 灰灰褐色土(砂質でよくしまる。)灰褐色土と灰黄色砂質土と粘土が多量に混じる。)

SE04

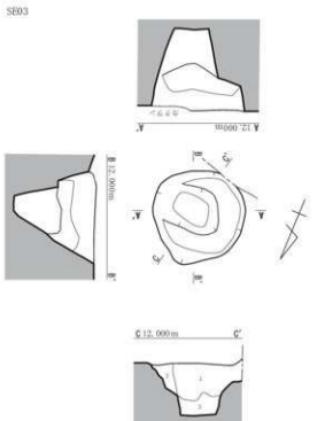


- SE04  
1 棒条網土工(白粘土含む)  
2 黄褐色土(砂質でよくしまる。)  
3 粘土網土工(白粘土含む)  
4 粘土土(白色砂質を多量に含む)  
5 灰灰褐色土(ややゆるく粘性が無い)

SE05



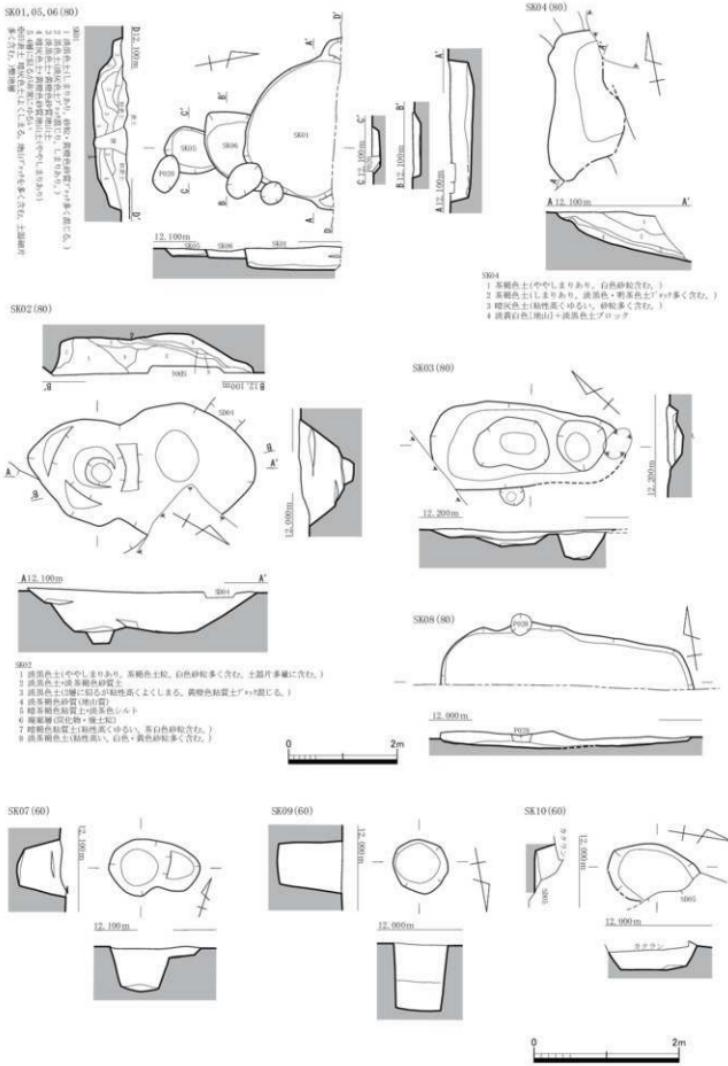
SE03



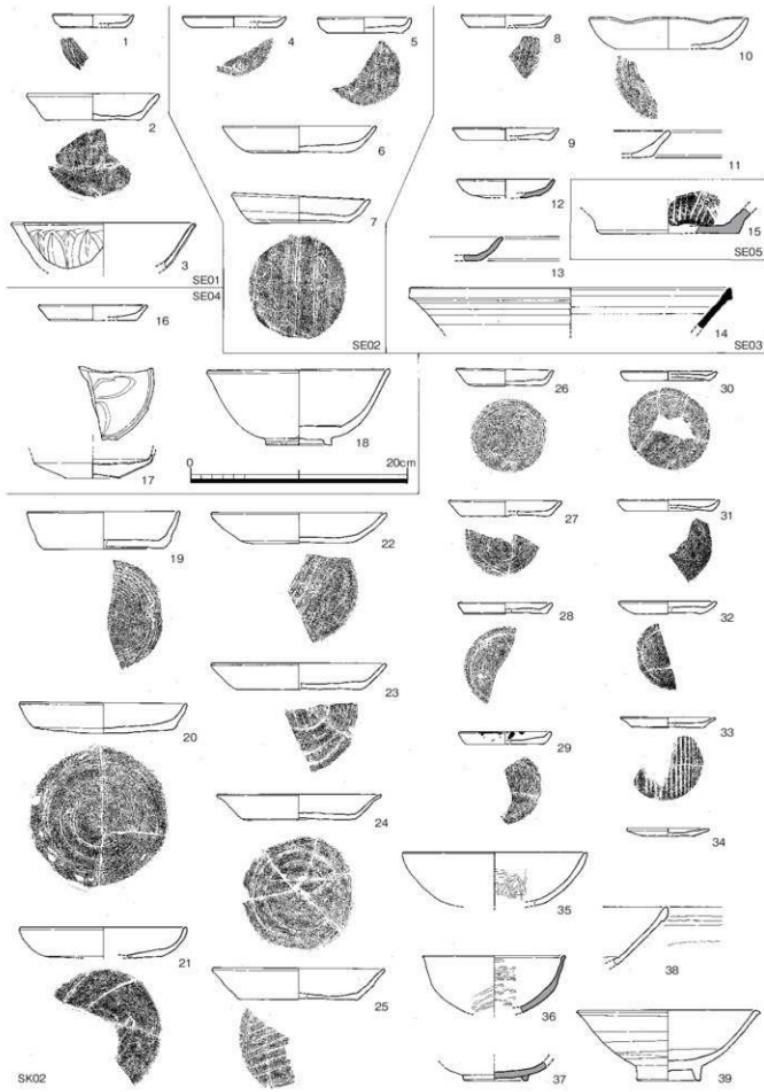
- SE03  
1 黄色土(よくしまる。)  
2 灰灰褐色土(しまる。黄褐色土混じる。)灰灰褐色土  
3 灰灰褐色土(ややゆるい。)灰褐色土が多量に混じる。)

0  
2m

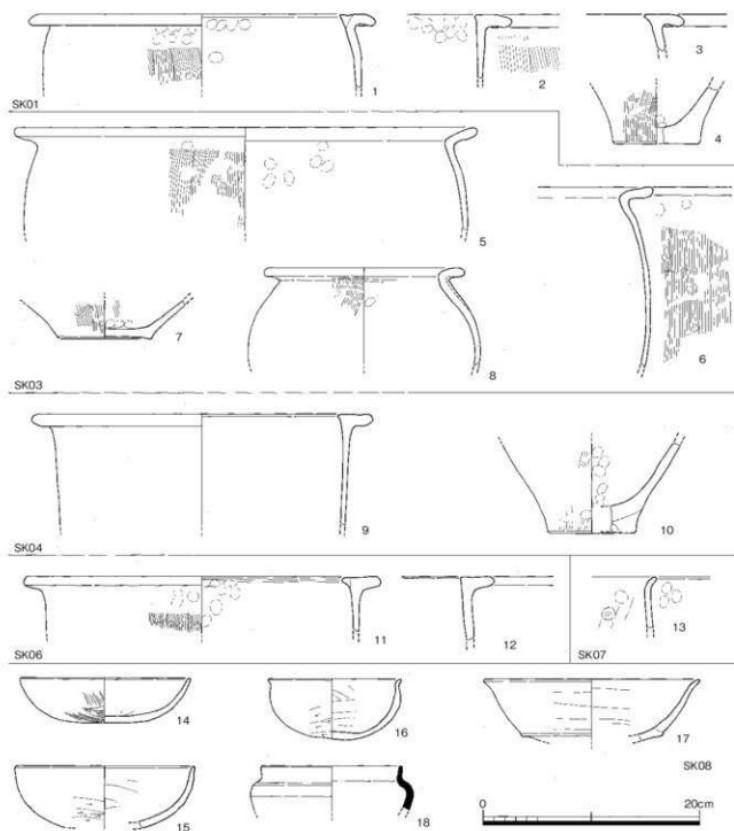
第51図 D区1～5号井戸遺構実測図(1/60)



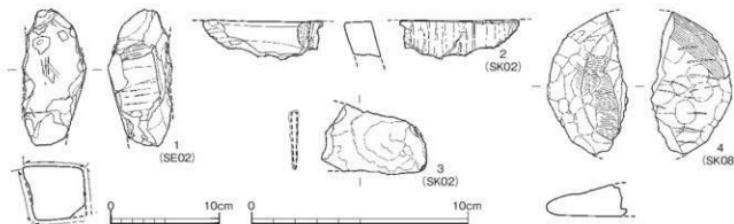
第52図 D区1~10号土坑遺構実測図 (7,9,10は1/60、他は1/80)



第53図 D区1~5号井戸、2号土坑出土遺物実測図(1/4)



第54図 D区1・3・4・6～8号土坑出土遺物実測図(1/4)



第55図 D区井戸、土坑出土石製品、土製品、金属製品実測図(1/2、1/4[1,2])

D区 1号溝 第56回／図版3				主な遺構との先後関係		
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先
	(5.90)	2.80	1.09	ラッパ状	N・11° W	後 SK04
出土遺物	土器[第57回／図版-]				その他の遺物[第58回／図版-]	
	多期にわたる多くの遺物が出土した。陶磁器片より、11は石錠である。2は土鉢である。外面は中央に沈線が残る。					
概要	調査区に縦断する溝である。AI-KSD02の続きの溝であろう。多くの遺物が出土している。					

D区 2号溝 第56回／図版3				主な遺構との先後関係		
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先
	(5.48)	4.00	0.70	ラッパ状	N・10.1° E	後 SD03
出土遺物	土器[第57回／図版-]				その他の遺物[第一回／図版-]	
	15世紀中ごろ以降の土師質の鍋である。				出土遺物なし	
概要	南北に縦断する溝である。南北ともに調査区外へと広がるため、詳細は不明である。断面は、中央部分がいちばん広くやや「V」字形風である。					

D区 3号溝 第56回／図版-				主な遺構との先後関係		
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先
	(5.82)	0.88	0.44	逆台形	N・8.5° - W	後
出土遺物	土器[第57回／図版-]				その他の遺物[第一回／図版-]	
	青白磁の破片や、土師器の小皿が出土している。時期は13世紀中ごろ～14世紀初めであろう。				出土遺物なし	
概要	ほぼ南北に縦断する溝である。南北ともに調査区外へと広がるため、詳細は不明である。					

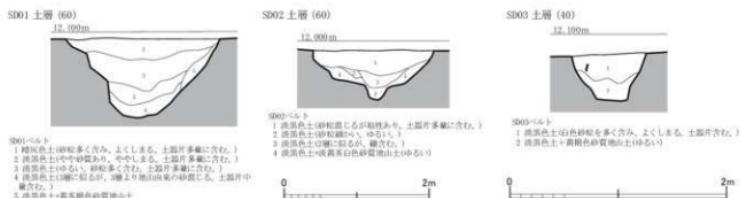
D区 4号溝 付図／図版-				主な遺構との先後関係		
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先
	48.42	0.54~0.76	0.18	逆台形	N・79.5° - E	後 SK02、SE04、SE05
出土遺物	土器[第57回／図版-]				その他の遺物[第一回／図版-]	
	17世紀末～18世紀中ごろの所産と考えられる染付の猪口が出土している。				出土遺物なし	
概要	方形の周溝状の遺構で、北半分を検出した。地圖上で墓地の区画とほぼ一致するため、墓地の区画溝であると考えられる。					

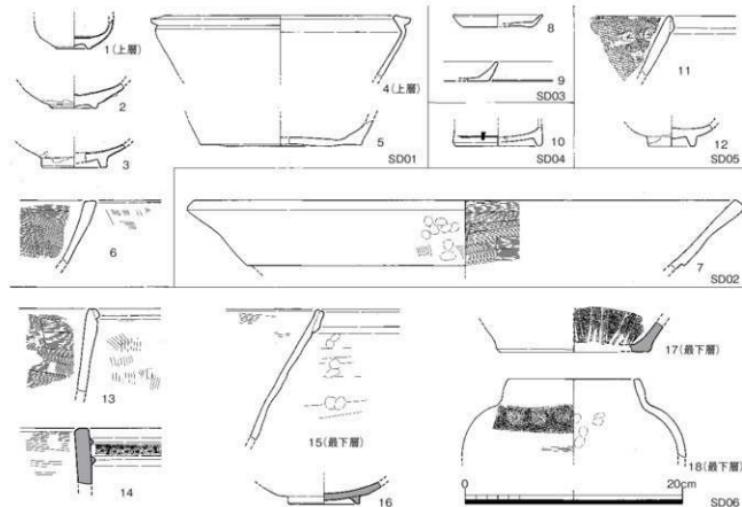
D区 5号溝 付図／図版-				主な遺構との先後関係		
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先
	(49.0)	1.02~1.44	0.36~0.44	逆台形	N・2° - W	後 SK10
出土遺物	土器[第57回／図版-]				その他の遺物[第一回／図版-]	
	土師器の鍋破片や、染付碗が出土している。17世紀中ごろ埋没したと考えられる。				出土遺物なし	
概要	ほぼ南北に縦断する溝で、北から南へと深くなっていく。南北ともに調査区外へと広がるため、詳細は不明である。					

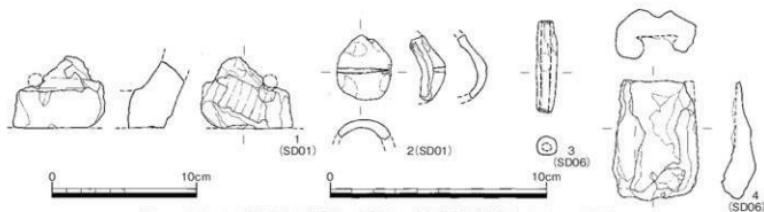
D区 6号溝 付図／図版-				主な遺構との先後関係		
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先
	(5.12)	1.18~2.16	0.53~0.25	鉢状	N・3° - W	後 SK10
出土遺物	土器[第57回／図版-]				その他の遺物[第58回／図版-]	
	多期にわたる多くの遺物が出土している。17世紀前半以降には埋没したと考えられる。				上層で砾石と不明金属製品が出土した。不明金属製品は斧の可能性がある。3は土鐘で下層よりの出土である。	
概要	ほぼ南北に縦断する溝で、南から北へと深くなる。南北ともに調査区外へと広がるため、詳細は不明である。					



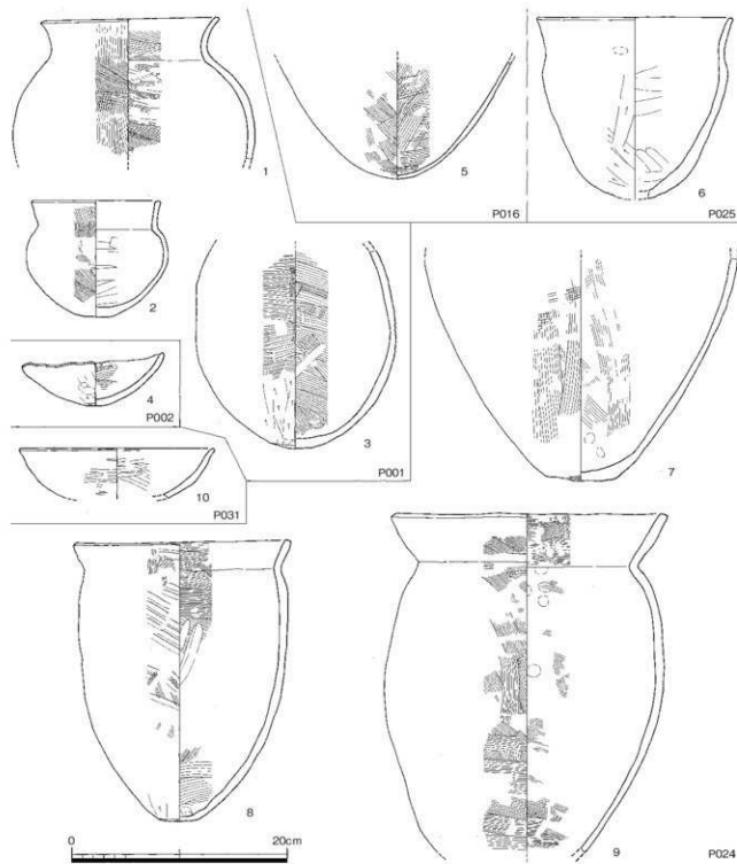
第5.6図 D区1~3号溝遺構実測図 (1,2は1/60、3は1/40)



第5.7図 D区1~6号溝出土遺物実測図 (1/4)



第5.8図 D区溝出土石製品、土製品、金属製品実測図 (1/2, 1/3[1])



第5.9図 D区ピット出土遺物実測図 (1/4)



## 第8章 調査の成果

### 1.まとめ

小板井屋敷遺跡は、これまでの調査により弥生時代中期後半、弥生時代後期後半～古墳時代初頭の住居跡や中近世の井戸状遺構や区画溝と思われる大溝が多く確認されている。本調査は5次調査にあたるが、他調査と同様の時期の遺構が数多く確認された。

小板井屋敷遺跡5次調査で検出した遺構は以下とおりである。

小堀1基（B区）、祭祀土坑5基（B区）、住居跡29軒（A区11軒、C区18軒）、土坑41基（A区3基、B区10基、C区18基、D区10基）、井戸5基（D区）、溝28条（A区3条、B区6条、C区13条、D区6条）その他ピット群が260基である。

まず、B区であるが、平成9年に調査された小板井屋敷遺跡の1次調査地の南約100m地点に位置するが、当初、1次調査と同時期の遺構を予想していたが、検出したのは弥生時代中期前葉～中葉の小堀1基と、祭祀土坑5基である。小板井屋敷遺跡においても、当該時期の遺構はあまり確認されておらず、周辺遺跡の大板井遺跡や、小板井ぐうてんさん遺跡との関連も注目される。また、今回報告はできなかったが、B区1号祭祀土坑より出土した、黒曜石を産地同定に出しておらず小板井地区の弥生時代遺跡群の様相もあきらかになってくるであろう。（詳細は、今年度報告の三沢遺跡に掲載。参照されたい。）

A区、C区であるが、ほぼ同時期の住居群が検出されている。特筆すべき点は、A区の2号住居跡出土の鉢である。（第5図の10）である。外面に格子目のたたきを施す。当該地域周辺では見られない様相の鉢である。大陸からの影響を受けている可能性がある。

C区であるが、表土剥ぎ時に上層を剥ぎすぎてしまい、詳細な住居の記録は取れなかったが、12号住居において大量の土器が出土している。遺物はいずれも貼床直上のベット状遺構から、床面にかけての出土である。住居廃棄時に一括して住居内に廃棄した可能性がある。

D区であるが、他区と違い、住居跡は出土せず、土坑や井戸が出土している。特筆すべき点は4号溝であるが調査開始前に字図で墓地（近世）を確認しており、現地においても、まだ現在も使用されている墓が存在していた。表土剥ぎ後、検出した区画と墓地の区画が一致することから、4号溝は近世の墓域の区画溝であることが判明した。

溝であるが、検出した溝は28条にも及ぶ。そのうち、A区2号溝とD区1号溝は同一の大溝であることが分かった。時期は17世紀後半以降の埋没と考えられる。この溝は今年度調査の近隣調査区からも検出されている。この『大溝』は、小板井屋敷遺跡3次調査からも区画と考えられる溝が発見されていることからも、区画溝と考えている。また、B区1号溝とC区1号溝も同一の溝であろう。時期も先に報告した大溝同様17世紀後半以降の埋没である。同時期の区画溝と考えられる溝が何条も存在していた可能性がある。今後の調査成果で明らかになってくるであろう。

以上、小板井屋敷遺跡5の概略をまとめたが、A区、C区において詳細な記録を取ることができず、各遺構について十分な評価を行うことができなかったことを、ここで深く陳謝する。





学名	種名	固有名	別種	出處	形態	特徴	構成	成形・調節物	備考	
日本 金魚	金魚	-	-	(15, 25) 小井	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (1)口: 内: 外: 内: 口: 真珠		
	金魚	-	(7, 6)	(5, 7) 底井	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (2)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	外側に口筋。底部外側面に後退筋有 り。頭部後方有	
	金魚	-	(7, 7)	(9, 9) 底井	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (3)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	頭部により詳細不明	
日本 金魚	金魚	(37, 20)	(2, 20)	目: 頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (1)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	外側に口筋		
	金魚	(8, 20)	(4, 11)	目: 頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (2)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	口筋面に赤変色あり		
	金魚	(2, 20)	牛井	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (3)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	口筋面に赤変色あり		
日本 金魚	金魚	-	-	(7, 43)	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (1)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	口筋面に赤変色あり	
	金魚	-	-	(6, 8)	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (2)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	口筋面に赤変色あり	
	金魚	-	-	(12, 8)	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (3)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	口筋面に赤変色あり	
日本 金魚	金魚	-	-	(1, 30)	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (1)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	外側に口筋あり。鰓蓋を黒化	
	金魚	-	-	(2, 23)	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (2)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	外側に口筋あり	
	金魚	-	-	(3, 21)	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (3)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	外側に口筋あり	
日本 金魚	金魚	(10, 8)	高井	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (1)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	外側に口筋あり		
	金魚	(7, 20)	高井	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (2)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	外側に口筋あり		
	金魚	(7, 6)	高井	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (3)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	外側に口筋あり		
日本 金魚	金魚	(5, 10)	高井	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (1)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	外側に口筋あり		
	金魚	(4, 10)	高井	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (2)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	外側に口筋あり		
	金魚	(3, 10)	高井	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (3)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	外側に口筋あり		
日本 金魚	金魚	-	-	(1, 30)	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (1)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	外側に口筋あり	
	金魚	-	-	(2, 21)	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (2)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	外側に口筋あり	
	金魚	-	-	(3, 21)	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (3)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	外側に口筋あり	
日本 金魚	金魚	(11, 4)	高井	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (1)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	外側に口筋あり		
	金魚	(7, 6)	高井	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (2)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	外側に口筋あり		
	金魚	(5, 6)	高井	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (3)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	外側に口筋あり		
日本 金魚	金魚	-	-	(1, 30)	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (1)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	外側に口筋あり	
	金魚	-	-	(2, 21)	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (2)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	外側に口筋あり	
	金魚	-	-	(3, 21)	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (3)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	外側に口筋あり	
日本 金魚	金魚	(3, 11)	高井	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (1)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	外側に口筋あり		
	金魚	(4, 15)	高井	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (2)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	外側に口筋あり		
	金魚	(5, 15)	高井	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (3)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	外側に口筋あり		
日本 金魚	金魚	(23, 21)	(7, 21)	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (1)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	外側に口筋あり		
	金魚	(23, 20)	(8, 20)	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (2)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	外側に口筋あり		
	金魚	(17, 20)	(8, 8)	頭部へは、鱗片が密で、内 側は、鱗片が少なくて、無色	紹和 約1~2mm	真珠	目: (3)口: 背: 尾: 腹: 内: 外: 真珠	外側に口筋あり		

《C区出土土器》

通算	品目番号	品種	収量		施肥	耕作	色調	粒土	地成	成形・整備方法		備考	
			kg/ha	t/ha									
9303	39-1	穀	-	7.8	(0.3)	施用	年:にご山色、内:無黒色	砂粒:無粒、無砂	直野	等高行間:15cm、幅:15m、行距:1.5m、耕深:10cm	内蔵に無黒色で作物付の草花見出る。		
	39-2	穀	12.4	9.7	4.8	無施肥	色:にご山色、内:無黒色	砂粒:無粒、無砂	直野	等高行間:15cm、幅:15m、行距:1.5m、耕深:10cm	内蔵に無黒色で作物付の草花見出る。		
9303	39-3	穀	-	11.8	1/4	無施肥	色:無黒色、灰葉黒色	砂粒:無粒、無砂	直野	等高行間:15cm、幅:15m、行距:1.5m、耕深:10cm	内蔵に無黒色で作物付の草花見出る。		
	39-4	穀	3.7	2.2	2.7	無施肥	色:灰葉黒色、灰葉黑色、内:無黒色	砂粒:無粒、無砂	直野	等高行間:15cm、幅:15m、行距:1.5m、耕深:10cm	内蔵に無黒色で作物付の草花見出る。		
	39-5	穀	3.8	2.9	2.2	無施肥	色:灰葉黒色、灰葉黒色、内:灰葉黒色	砂粒:無粒、無砂	直野	等高行間:15cm、幅:15m、行距:1.5m、耕深:10cm	内蔵に無黒色で作物付の草花見出る。		
9303	39-6	穀	9.5	6.1	3.4	追肥深耕	色:無黒色、灰葉黒色、内:灰葉黒色	砂粒:無粒、無砂	直野	等高行間:15cm、幅:15m、行距:1.5m、耕深:10cm	内蔵に無黒色で作物付の草花見出る。		
	39-7	穀	(14.8)	-	18.6	3/4施肥	色:無黒色、灰葉黒色、内:無黒色	砂粒:無粒、無砂	直野	等高行間:15cm、幅:15m、行距:1.5m、耕深:10cm	内蔵には無黒色で作物付の草花見出る。		
	39-8	穀	-	13.8	3/4	追肥	色:にご山色、色:にご山色	砂粒:無粒、無砂	直野	等高行間:15cm、幅:15m、行距:1.5m、耕深:10cm	内蔵には無黒色で作物付の草花見出る。		
9304	39-9	5	穀	(19.2)	-	(20.2)	1/4施肥	色:にご山葉黒色、灰葉黒色、内:無黒色	砂粒:無粒、無砂	直野	等高行間:15cm、幅:15m、行距:1.5m、耕深:10cm	内蔵には無黒色で作物付の草花見出る。	
	39-10	穀	8.3	-	(9.5)	半施肥	色:灰葉黒色、内:無黒色	砂粒:無粒、無砂	直野	等高行間:15cm、幅:15m、行距:1.5m、耕深:10cm	内蔵には無黒色で作物付の草花見出る。		
	39-11	穀	-	(8.6)	(7.0)	1/4施肥	色:灰葉黒色、灰葉黒色、内:無黒色	砂粒:無粒、無砂	直野	等高行間:15cm、幅:15m、行距:1.5m、耕深:10cm	内蔵には無黒色で作物付の草花見出る。		
9305	39-12	穀	-	(7.7)	(14.2)	1/4施肥	色:にご山葉黒色、灰葉黒色、内:無黒色	砂粒:無粒、無砂	直野	等高行間:15cm、幅:15m、行距:1.5m、耕深:10cm	内蔵には無黒色で作物付の草花見出る。		
	39-13	穀	-	(24.9)	(25.0)	1/4施肥	色:にご山葉黒色、灰葉黒色、内:無黒色	砂粒:無粒、無砂	直野	等高行間:15cm、幅:15m、行距:1.5m、耕深:10cm	内蔵には無黒色で作物付の草花見出る。		
9306	39-14	穀	-	(5.7)	小作	色:にご山葉黒色、内:無黒色	砂粒:無粒、無砂	直野	等高行間:15cm、幅:15m、行距:1.5m、耕深:10cm	内蔵には無黒色で作物付の草花見出る。			
	39-15	穀	-	(7.0)	(2.4)	1/4施肥	色:灰葉黒色、灰葉黒色、内:無黒色	砂粒:無粒、無砂	直野	等高行間:15cm、幅:15m、行距:1.5m、耕深:10cm	内蔵には無黒色で作物付の草花見出る。		
	39-16	穀	(11.9)	-	(6.0)	約施肥	色:無葉、灰葉黒色	砂粒:無粒、無砂	直野	等高行間:15cm、幅:15m、行距:1.5m、耕深:10cm	内蔵には無黒色で作物付の草花見出る。		
	39-17	穀	-	-	(5.2)	小作	色:無葉、灰葉黒色	砂粒:無粒、無砂	直野	等高行間:15cm、幅:15m、行距:1.5m、耕深:10cm	内蔵には無黒色で作物付の草花見出る。		
9307	39-18	穀	-	-	(4.1)	小作	色:無葉、灰葉黒色、色:灰葉、内:無黒色	砂粒:無粒、無砂	直野	等高行間:15cm、幅:15m、行距:1.5m、耕深:10cm	内蔵には無黒色で作物付の草花見出る。		
	39-19	穀	(13.5)	-	(4.2)	約施肥	色:無葉、灰葉黒色、内:無黒色	砂粒:無粒、無砂	直野	等高行間:15cm、幅:15m、行距:1.5m、耕深:10cm	内蔵には無黒色で作物付の草花見出る。		
	39-20	穀	(17.0)	-	(9.1)	小作	色:灰葉黒色、内:無黒色	砂粒:無粒、無砂	直野	等高行間:15cm、幅:15m、行距:1.5m、耕深:10cm	内蔵には無黒色で作物付の草花見出る。		

地名	地番	階級	面積	位置		色調	助士	構成	形状・断面技法		備考	
				山側	谷側				断面	構成		
SCH	38-21	傾	(30.1)	-	13.0	1/8	外:にい葉緑色 内:赤褐色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 内:1/17	内外壁兼用し二段構成壁	
	38-22	傾	-	-	13.3	小介	外:にい葉緑色 内:赤褐色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:向右傾 壁:西:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
	38-23	傾	-	-	15.5	小介	外:暗緑色 内:赤褐色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
	38-24	傾	-	-	18.9	小介	外:深緑色 内:赤褐色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
SCB	38-25	傾	(10.7)	-	16.2	1/4	赤褐色～黒褐色 内:深緑色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
	38-26	土蔵	-	壁(12.2)	17.0	1/8	外:灰黒褐色 内:にい葉緑色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
	38-27	土蔵	-	壁(1.4)	17.0	1/8	外:にい葉緑色～黒褐色 内:赤褐色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
	38-1	傾	(14.4)	-	9.2	1/3	内:にい葉緑色 内:赤褐色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	内面の工作はほりの工作を使用した。	
S39	38-2	傾	-	6.5	16.0	7.7	赤:にい葉緑色～黒褐色 内:赤褐色	砂粒-無筋 柱	良好	外:赤:外:方柱 壁:壁:壁	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
	38-3	傾	-	15.0	(11.0)	1/3	内:にい葉緑色～黒褐色 内:赤褐色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
	38-4	傾	-	(18.9)	-	1/4	赤褐色～黒褐色 内:にい葉緑色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
	38-5	傾	-	10.9	隔壁	16.8	16.1	山形地盤	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。
S39	38-6	傾	-	-	(9.0)	1/4	赤褐色～黒褐色 内:にい葉緑色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
	38-7	脚付傾	-	台盤	16.0	16.0	外:にい葉緑色～黒褐色 内:にい葉緑色～黒褐色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
	38-8	傾	-	-	(3.2)	1/8	外:赤褐色 内:赤褐色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
	38-9	二三ツアーハシ	-	-	(4.2)	1/3	内:にい葉緑色 内:にい葉緑色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
S39	38-10	土蔵	土蔵	1.3	隔壁	4.4	赤褐色～黒褐色 内:にい葉緑色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
	38-11	土蔵	土蔵	5.9	隔壁	6.6	6.9	赤褐色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。
	38-12	傾	(24.0)	-	(11.0)	1/3	内:赤褐色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
	38-13	傾	(27.0)	-	(21.0)	1/3	内:赤褐色～黒褐色 内:赤褐色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
SC22	38-14	傾	-	-	(32.0)	1/1.2	内:赤褐色～黒褐色 内:にい葉緑色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
	38-15	傾	-	-	(17.7)	2/3	内:赤褐色～黒褐色 内:にい葉緑色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
	38-16	傾	-	-	(21.0)	1/3	内:赤褐色～黒褐色 内:にい葉緑色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
	38-17	傾	-	-	(23.0)	2/3	内:赤褐色～黒褐色 内:にい葉緑色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
SC22	38-18	傾	(21.0)	-	30.7	2/3	内:赤褐色～黒褐色 内:にい葉緑色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
	38-19	傾	(20.0)	-	(26.4)	1/7	内:赤褐色～黒褐色 内:にい葉緑色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
	38-20	傾	(21.0)	-	(17.2)	2/3	内:赤褐色～黒褐色 内:にい葉緑色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
	38-21	傾	(21.0)	-	(17.2)	2/3	内:赤褐色～黒褐色 内:にい葉緑色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
SC22	38-22	傾	(21.0)	-	30.7	2/3	内:赤褐色～黒褐色 内:にい葉緑色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
	38-23	傾	(20.0)	-	(26.4)	1/7	内:赤褐色～黒褐色 内:にい葉緑色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
	38-24	傾	(21.0)	-	(17.2)	2/3	内:赤褐色～黒褐色 内:にい葉緑色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
	38-25	傾	(18.0)	-	(13.1)	1/3	内:赤褐色～黒褐色～黒褐色 内:にい葉緑色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
SC22	38-26	傾	(18.0)	-	18.6	-	赤褐色～黒褐色～黒褐色 内:にい葉緑色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
	38-27	傾	(19.0)	-	(21.0)	1/2	内:赤褐色～黒褐色～黒褐色 内:にい葉緑色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
	38-28	傾	(18.0)	-	(20.0)	1/4	内:赤褐色～黒褐色～黒褐色 内:にい葉緑色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	
	38-29	傾	(18.0)	-	(13.1)	1/3	内:赤褐色～黒褐色～黒褐色 内:にい葉緑色	砂粒-無筋 柱	良好	柱(10m×10m) 西:外:1/17 壁:内:1/17	外壁は土壁で、壁の上部に石垣の上部が残っている。	

出立 連番	固有名	出場	位置		色調	毛主	被毛	成形・輪郭技法		備考	
			上位	下位				現存	復元		
40-9	蟹	(24.6)	-	(26.5) 1/3	角・黑色～灰褐色帶	内に灰色	砂粒・點狀	1/3	1/3	外側に筆の跡があり、脚部側面には輪郭線による土台構造がある。	
40-10	蟹	(32.1)	-	(13.2) 1/2	角・黑色～灰褐色帶	内に灰色	砂粒・點狀	1/2	1/2	内側に輪郭線による土台構造がある。	
41-1	蟹	(22.6)	-	(34.6) 1/3	角・明赤色	内に赤	砂粒・點狀	1/3	1/3	外側に輪郭線による土台構造がある。	
41-2	5 倍	(28.1)	-	(27.4) 1/4	角・に赤い斑紋・黑色	内に赤い斑紋	砂粒・點狀	1/4	1/4	外側に輪郭線による土台構造がある。	
41-3	蟹	(15.3)	-	(21.4) 3/4	角・半赤褐色～黑色	内に黑色	砂粒・點狀	3/4	3/4	外側に輪郭線による土台構造がある。	
41-4	蟹	20.9	-	9.7	角・黑色～灰褐色	内・外に黑色	砂粒・點狀	1/2	1/2	外側に輪郭線による土台構造がある。	
41-5	蟹	17.40	-	3.7	角・火炙焼	内・外に黑色	砂粒・點狀	1/2	1/2	外側に輪郭線による土台構造がある。	
41-6	蟹	14.8	-	4.6	山形光背	内に黑色～灰褐色	砂粒・點狀	1/2	1/2	外側に輪郭線による土台構造がある。	
41-7	6 踏	(31.2)	0.1.3	1/2	角・に赤い斑紋・黑色	内・外に黑色	砂粒・點狀	1/2	1/2	外側に輪郭線による土台構造がある。	
41-8	蟹脚付	-	脚(1.2)	(4.1) 1/4	脚・火炙焼	内に黑色	砂粒・點狀	1/4	1/4	外側に輪郭線による土台構造がある。	
41-9	蟹	(14.7)	-	(8.6) 現存	角・に赤い斑紋・黑色～灰褐色	内に赤い斑紋	砂粒・點狀	1/2	1/2	外側に輪郭線による土台構造がある。	
41-10	蟹脚付	(15.6)	-	(12.4) 1/2	脚・火炙焼	内に黑色	砂粒・點狀	1/2	1/2	外側に輪郭線による土台構造がある。	
41-11	蟹脚	-	18.6	(14.4) 5/6	5/6腰焼	内に・に赤い斑紋	砂粒・點狀	1/2	1/2	内側に輪郭線による土台構造がある。	
41-12	6 踏	-	18.4	(23.6) 1/2	脚・火炙焼	内に黑色	砂粒・點狀	1/2	1/2	内側に輪郭線による土台構造がある。	
41-13	蟹脚	17.3	9.2	2/2	脚・に赤い斑紋・黑色	内に黑色	砂粒・點狀	1/2	1/2	内側に輪郭線による土台構造がある。	
41-14	蟹脚	16.9	10.7	1/2	脚・火炙焼	内に黑色～灰褐色	砂粒・點狀	1/2	1/2	内側に輪郭線による土台構造がある。	
41-15	蟹脚	15.1	10.5	3.1	脚・火炙焼	内に黑色	砂粒・點狀	1/2	1/2	内側に輪郭線による土台構造がある。	
41-16	蟹脚	15.5	9.9	2.9	火炙焼	内に黑色	砂粒・點狀	1/2	1/2	内側に輪郭線による土台構造がある。	
41-17	蟹脚	15.8	10.8	3.2	2/2	脚・火炙焼	内に黑色	砂粒・點狀	1/2	1/2	内側に輪郭線による土台構造がある。
41-18	蟹脚	15.5	10.9	2.8	1/2/3	脚・火炙焼	内に黑色	砂粒・點狀	1/2	1/2	内側に輪郭線による土台構造がある。
41-19	蟹脚	(18.1)	11.3	3.8	1/2/3	脚・火炙焼	内に黑色	砂粒・點狀	1/2	1/2	内側に輪郭線による土台構造がある。
41-20	蟹脚	16.2	11.3	2.4	1/2/3	脚・火炙焼	内に黑色	砂粒・點狀	1/2	1/2	内側に輪郭線による土台構造がある。
41-21	蟹脚	18.0	7.2	0.9	1/2	脚・火炙焼	内に黑色	砂粒・點狀	1/2	1/2	内側に輪郭線による土台構造がある。
41-22	蟹脚	9.1	7.4	1.1	火炙焼	内に黑色	砂粒・點狀	1/2	1/2	内側に輪郭線による土台構造がある。	
41-23	蟹脚	9.2	7.4	1.2	火炙焼	内に黑色	砂粒・點狀	1/2	1/2	内側に輪郭線による土台構造がある。	
41-24	蟹脚	10.6	6.8	1.5	火炙焼	内に黑色	砂粒・點狀	1/2	1/2	内側に輪郭線による土台構造がある。	
41-25	蟹脚	8.8	6.5	1.2	火炙焼	内に黑色	砂粒・點狀	1/2	1/2	内側に輪郭線による土台構造がある。	
41-26	蟹脚	9.3	6.5	1.1	1/2/2	脚・火炙焼	内に黑色	砂粒・點狀	1/2	1/2	内側に輪郭線による土台構造がある。
41-27	蟹脚	9.8	6.4	1.3	火炙焼	内に黑色	砂粒・點狀	1/2	1/2	内側に輪郭線による土台構造がある。	
41-28	蟹脚	10.0	6.3	1.3	2/2	脚・火炙焼	内に黑色	砂粒・點狀	1/2	1/2	内側に輪郭線による土台構造がある。
41-29	蟹脚	6.7	6.5	1.2	1/2/2	脚・火炙焼	内に黑色	砂粒・點狀	1/2	1/2	内側に輪郭線による土台構造がある。
41-30	蟹脚	17.7	10.6	1.1	1/2/2	脚・火炙焼	内に黑色	砂粒・點狀	1/2	1/2	内側に輪郭線による土台構造がある。
41-31	蟹脚	10.8	-	5.6	火炙焼	内・外に黑色	砂粒・點狀	1/2	1/2	内側に輪郭線による土台構造がある。	
41-32	蟹脚	17.9	高6.5	4.2	脚・火炙焼	内・外に黑色	砂粒・點狀	1/2	1/2	内側に輪郭線による土台構造がある。	
41-33	蟹脚	-	-	12.9	1/2/2	脚・火炙焼	内・外に黑色	砂粒・點狀	1/2	1/2	内側に輪郭線による土台構造がある。
41-34	蟹脚	(29.2)	-	8.6	小舟	内に黑色	砂粒・點狀	1/2	1/2	内側に輪郭線による土台構造がある。	





(出土石製品觀察表)

出土地點	地名	測量番号	測量種類	石材	法面(復元後)cm			法面g	備考
					L(高さ)	W(幅)	t(厚さ)		
A- SK06	12-1	8	砾石	石英斑岩	8.4	6.5	5.0	384.5	全面使用が認められる。
A- SK02	12-2	8	砾石	(やぐら砂配)	(89.5)	(2.6)	(1.25)	50.5	砥面に沈着物あり。
A- SD01	12-3		石織	滑石	残存高:6.2cm			97.6	
A- SD01	12-4		石織	流紋岩	(5.45)	(3.15)	(1.8)	37.4	
A- SD02	12-5		石織	砂岩	(4.6)	(2.25)	(1.85)	35.0	上記全面砥面として使用。
B- SF01	21-1	8	石織	黒巖石	7.7	3.8	3.35	137.1	自然面残る。SF01中位より出土。
B- SF01	21-2	8	石織	安山岩	2.85	1.0	0.3	1.1	
B- SF01	21-3	8	砾石	砂岩	(7.35)	(3.7)	(2.8)	100.9	上記全面砥面として使用か?下半が欠損している。
B- SF05	25-1		砾石	砂岩	(7.4)	(7.2)	(1.7)	58.0	
B- SF04	25-2		洞片	黒巖石	1.1	3.1	0.5	1.2	自然面残る。
B- SF04	25-3		洞片	黒巖石	1.5	2.3	0.45	1.5	自然面残る。
B- SF04	25-4		洞片	黒巖石	2.7	2.5	0.65	4.3	自然面残る。
B- SD01	32-3	8	砾石	砂岩	(8.1)	(3.95)	(3.5)	125.1	全面を砥面として使用か?
B- PN05	32-5	8	石織	花崗岩	(3.85)	(4.4)	(1.45)	30.0	上部を打ち欠き、下部欠損している。
C- SC10	42-1		投掷	安山岩	3.65	3.6	2.75	43.2	
C- SC11	42-3		磨削石劍	頁岩	(18.15)	(5.8)	1.6	150.5	刮削後に転用。再研磨。中央部分の研磨が粗
C- SC20	42-4		砾石	頁岩	9.9	5.95	2.1	128.1	全面に化粧石を盛り込んだ複合形状を呈する。
C- SK07	47-32		石壺	安山岩	(2.4)	(2.9)	(1.4)	4.8	研磨した表面を盛り込み、刃部に使用痕残る。
C- P07b	50-1		砾石	頁岩	(6.3)	(4.85)	(1.25)	51.3	上記全面を砥面として使用か?
D- SE02	55-1		砾石	流紋岩	(12.6)	(5.9)	5.0	444.5	全面を砥面として使用しているが、横積みの方法で使用はなく、使用していくうちに上面を削除していこうと考えらる。
D- SK02	55-2		石織	滑石	残存高:3.3cm			160.4	口縁:波状の工芸痕後に研磨、内部:研磨、外縁:斜角の工芸痕。二次加工で直線化。
D- SD01	58-1		石織	船用品	滑石	残存高:4.6cm		135.2	内部:工具痕無。下面下位に付着。幸運あり。

(出土金属器観察表)

出土遺構 区・遺構	種別 番号	図版 番号	器種	残存	法量(残存値) cm			法量 g g(重さ)	備考
					L(長さ) mm	W(幅) mm	t(厚さ) mm		
A	SC02	13-1	鉄鏃	基部:完形 身部約1/3	(7.4)	(1.8)	-	14.2	基部断面は方形か?
A	SD02	13-2	櫛		10.0	2.3	1.0	98.7	
B	SK01	32-1	刀子		(2.5)	(1.1)	0.2	1.8	
B	SD01	32-2	不明鉄製品		6.95	2.6	(0.5)	21.1	
D	SD02	55-3	鍾		(4.9)	(3.3)	0.3	12.9	破断面の縁が著しく、断面形状がはっきりとしない。
D	SD06	58-4	不明鉄製品		5.5	3.95	2.3	55.6	

(出土土製品観察表)

出土遺構 区・遺構	種別 番号	図版 番号	器種	残存	法量 (残存) cm	重量 g	色調	胎土	焼成	成形・調製技 法		備考	
										方法	工具		
A	SC02	13-2	不明 土製品	1/4彌 怪	(8.2)	18.8	にぶい黄 褐色	やや粗い 表面	良	手打 <sup>+</sup> 、竹 <sup>+</sup> 、T 字 <sup>+</sup> 指頭圧痕 <sup>+</sup> 工具瓶		边缘部にかなり厚みがある。横造縫といふよりは筋 縫の可能性がある。	
A	SC05	13-3	土物形 土製品	部 体 高 約2/3 (3.1)	長:(4.6) 幅:(3.5) 高:(3.1)	27.5	にぶい橙 色	やや粗 い表面。径2mm以 下の石英・長石・雲 母など少し含む。	良	T字 <sup>+</sup> 指頭圧痕 頭部、尻部、脚部3本火 焰をもつて成形する。横 縫に筋が短く、錐重な腹部 を呈する。軸?			
A	SD02	13-4	管状 土縫	完形 幅:1.1 径:1.05	長:4.95	5.5	褐色	黒褐色 表面。径1mm以下の 石英・石英・長石・ 雲母等僅かに含む。	良				
A	SD02	13-5	筋縫車	ほぼ完 形	長軸:(4.55) 周輪:(3.2) 厚さ:(1.05)	37.6	にぶい黄 褐色	黒褐色 表面。径2mm以 下の石英・石英・長 石・雲母等少し含む。	良	T字 <sup>+</sup> 指頭圧 痕、布目痕			
B	SD01	32-4	管状 土縫	完形 幅:(1.1) 厚:(1.0)	長:(5.15)	4.8	黒褐色	黒褐色 表面。径1mm以下の 石英・長石・雲母等 僅かに含む。	良				
C	SC11	42-2	ミニ チュア 土器	破裂 片	高:(2.35)	-	にぶい橙 色	黒褐色 表面。径1mm以下の 石英・長石・雲母等 僅かに含む。	良	15.7 <sup>+</sup> ×12.7 <sup>+</sup> 5.7 <sup>+</sup> ×3.1 <sup>+</sup> 材材	手捏ね		
C	SK11	47-33	8	投弾	約2/3 厚:(2.15)	長:(3.8) 幅:(2.3) 厚:(2.15)	12.3	にぶい橙 色～根 褐色	黒褐色 表面。径1mm以下の 石英・長石・雲母等 僅かに含む。	良	T字 <sup>+</sup> 指頭圧痕 黒底あり		
C	P094	50-2	8	投弾	約2/5 厚:(2.2)	長:(3.4) 幅:(2.3) 厚:(2.2)	10.3	にぶい赤 褐色	黒褐色 表面。径1mm以下の 石英・長石・雲母等 僅かに含む。	良	T字 <sup>+</sup> 指頭圧痕 黒底あり		
C	P108	50-3	土縫	破裂 片	長:(3.25) 幅:(0.9) 厚:(0.85)	2.7	褐色	黒褐色 表面。径1mm以下の 石英・長石・雲母等 僅かに含む。	良				
D	SK08	55-4	8	模造鏡	1/2彌 怪	(7.2) 厚:(1.45)	25.0	青部:に ぶい褐色 裏面:根 褐色	やや粗い。 径2mm 以下の石英・長石・ 雲母等やや多く 含む。	良	背面:灰 <sup>+</sup> 、根 部:小人 <sup>+</sup> 、竹 <sup>+</sup> 、T 字 <sup>+</sup> 、鏡面:灰 色 <sup>+</sup> 、竹 <sup>+</sup> 、T字 <sup>+</sup> 指頭後 <sup>+</sup>	边缘部の厚みは不均一。 背面中央附近にひびが認められる。鏡面裏部にコロ ド状の跡が残る。	
D	SD01	58-2	土縫	約1/4	高:(3.0)	3.8	淡黄褐色	細緻、1mm以下の 砂粒を僅かに含む	良	外表面:丁寧なT 字 <sup>+</sup> 、内面:洗 <sup>+</sup> 痕、根部:粗 <sup>+</sup>	外面上に沈線あり。		
D	SD06	58-3	土縫	ほぼ完 形	長:(4.2) 幅:(0.95) 厚:(0.85)	2.7	明赤褐色	細緻、1mm以下の 砂粒を僅かに含む	良		表面の摩擦感が著しい。		

図版 1



①小板井屋敷遺跡 5 全景（真上から）



②A 区全景（真上から）



③B 区全景（真上から）



④C 区全景（真上から）



⑤D 区全景（真上から）



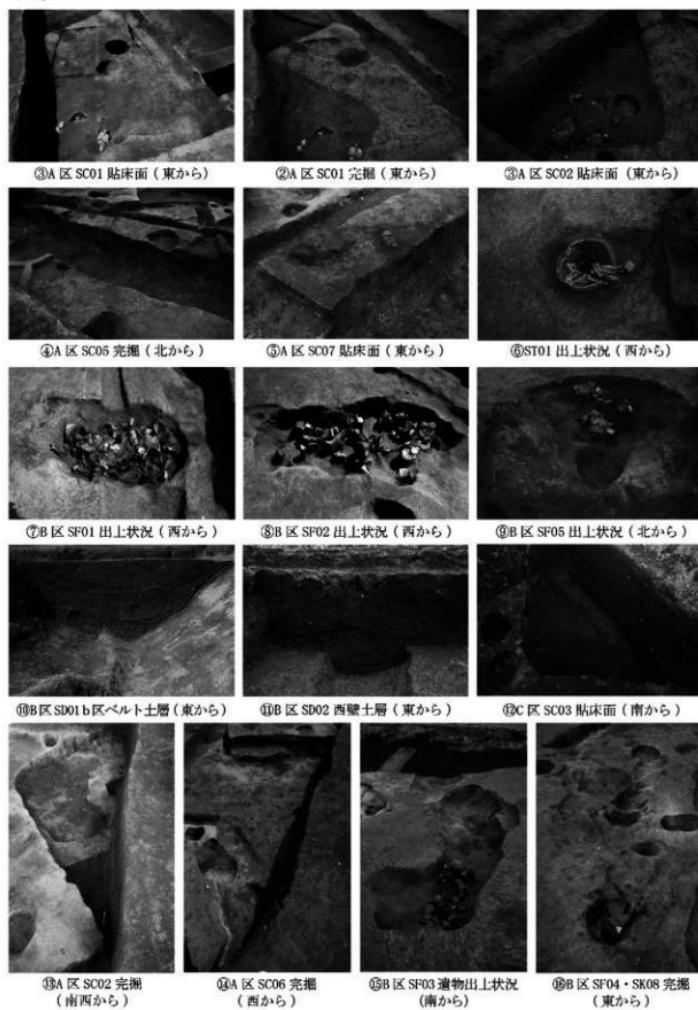
⑥調査区遠景（北から）  
[1次調査地・遺跡南端をのぞむ]



⑦調査区遠景（東から）  
[遺跡南西端及び周辺遺跡をのぞむ]

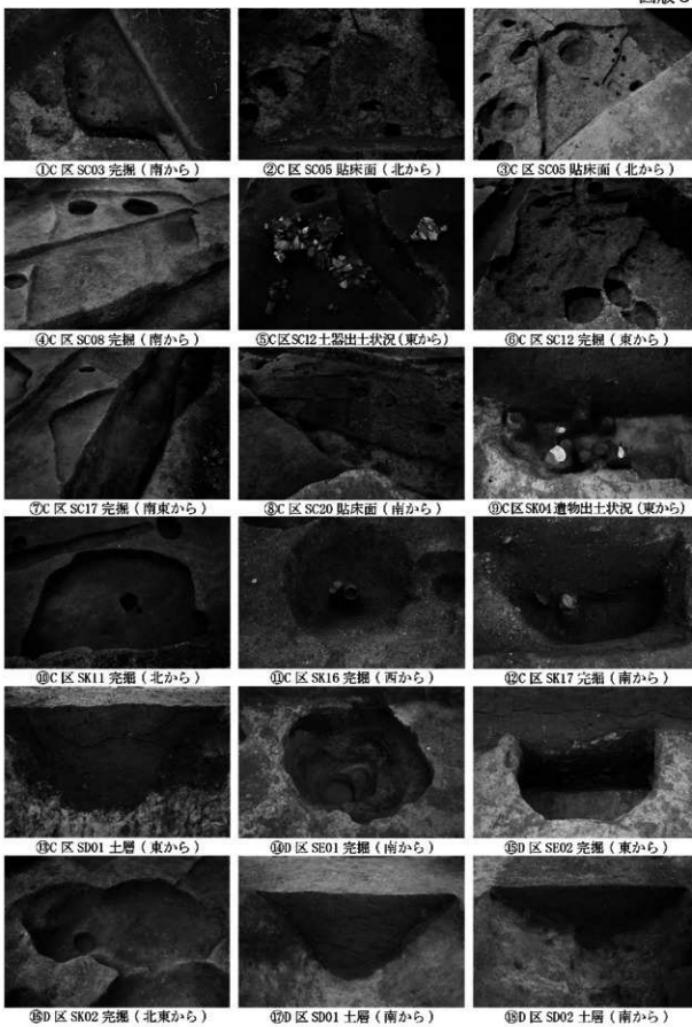


図版2





図版 3





図版4（遺物写真1）





図版5 (遺物写真2)



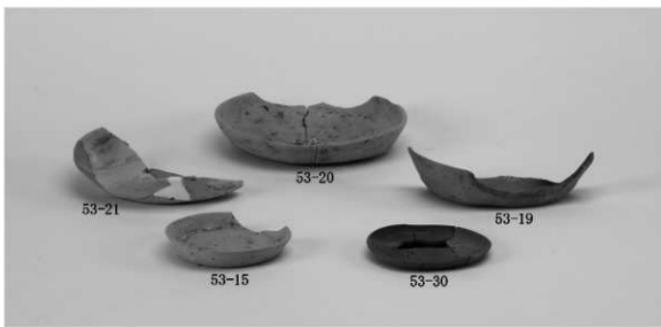


図版6(遺物写真3)



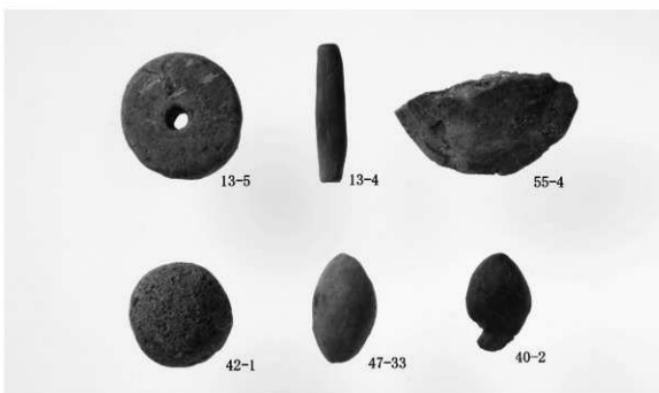


図版7（遺物写真4）





図版8 (遺物写真5)





報 告 書 抄 錄

ふりがな								こいといいやしきいせき5													
書名		小板井屋敷遺跡5																			
副書名																					
卷次																					
シリーズ名		小都市文化財調査報告書																			
シリーズ番号		第278集																			
編著者名		姫野久恵																			
編集機関		小郡市教育委員会																			
所在地		〒838-0198 福岡県小郡市小郡255-1 ☎ 0942-72-2111																			
発行年月日		2014年3月31日																			
ふりがな		ふりがな		コード		北緯		東経		調査期間		調査面積		調査原因							
所取遺跡名		所在地		市町村		遺跡番号															
こいといいやしき 小板井屋敷 いせき 遺跡5		ふくおかけん 福岡県		ねごおりし 小郡市		40216		33° 23' 28"		130° 33' 52"		2013.1.12 ~ 2013.5.18		880m <sup>2</sup>		集合住宅					
所取遺跡名		種別		主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項											
小板井屋敷 遺跡5		集落		弥生時代 平安・鎌倉・室町時代 江戸時代		裴柏 1基 祭祀土坑 5基 住居跡 29軒 土坑 41基 井戸 5基 周溝状遺構 1条 溝 28条		弥生土器 須恵器 土師器 陶磁器 石器 土製品 等													
要約		小板井屋敷遺跡の第5次調査は、調査区をA区、B区、C区、D区に分けて調査を行った。A区は、主に弥生中期中葉と後期終末の住居跡を検出した。B区は、小兒裴柏を1基、祭祀土坑を5基検出した。いずれも弥生中期前葉～中葉と比定される。C区もA区同様、同時期の住居跡を数多く検出した。D区は、弥生時代の土坑や、中世の井戸、土坑を多く検出している。																			



こいたいやしきいせき  
**小板井屋敷遺跡 5**

小都市文化財調査報告書

第278集

2014年3月31日

発行 小都市教育委員会  
福岡県小郡市小郡 255-1

印刷 片山印刷有限会社  
福岡県小郡市祇園1丁目8-15